

膾炙セラル去大正五年ノ肥育試験ノ成績左ノ如シ

但馬牛肥育試験ノ成績

種類	名號	性	齡年	體尺	肥育著手後ノ増量		
					肥育前ノ體量	平均日増量	全増量
和種	桑原號	牝	八	四・二〇	九	二四	二五五
ブラウン	退鐵	同	七	四・三五	八七	二八二	二五〇
却難種	同	同	六	三・九五	七五	二二三	二〇〇
改良和種	和田號	同	六	三・九五	七五	二二三	二〇〇

但肥育日數ハ豫備肥育三十三日間本肥育百四十八日間ニシテ其ノ間ノ飼料ハ燕麥、玉蜀黍、穀、亞麻仁粕、大豆粕、藁、大麥、青刈大豆、青草、食鹽ニシテ肥育期間後汽車ニテ輸送後九日目ニ屠殺シタルモノナリ

蕃殖ハ生後二十箇月乃至二十四箇月ニシテ初メテ種付ヲ行ヒ其後十二三歳ニ至ル迄毎年蕃殖ヲナスモ最モ優良ナル犢ノ生産ハ五歳乃至九歳トス種付季節ハ四月中旬ヨリ六月中旬ニシテ平均壽命ハ七十八歳ナルカ如シ

「ホルスタイン」又ホルスタインフリーシヤン、是ハ和蘭國ノ南及北ホルランド並西フリーストラント州ニ産スル歐洲低地牛ノ一ナリ、和蘭ハ地勢一般ニ低ク海面以下ノ處多ク堤防ヲ築キテ海水ノ浸入ヲ防キ特別ノ設備ヲナシ排水ヲナス有様ニシテ土地濕潤普通ノ耕作ヲ營ムコト難キニ反シ牧草ヨク繁茂スルカ故ニ畜産著シク發達セリ、此ノ牛ハ優秀ナル乳牛ノ一ニ數ヘラル、一箇

年間ノ分泌量普通二十石多キハ三十石ヲ超ユ、蓋シ泌乳量ニ於テハ此右ニ出ツルモノナク實ニ乳牛ノ王ト謂フヘシ、只乳質稀薄ニシテ脂肪ノ含量乏シク三%位ニ過キサルヲ以テバター製造用ニハ適當ナラス生乳用並チース製造用ニハ適當シ且ツ其成分人乳ニ類スル點アルヲ以テ小兒ノ乳ニ好適ス、此ノ牛ハ早熟ニシテ性質極メテ溫和ナントモ飼料ヲ要スルコト多ク且飼養管理宜シキヲ得サレハ其ノ特性ヲ發揮セシムルコト難シ、體ハ大ナレトモ肉量少ク質モ良好ナラス役用ニモ不適當ナリ、形態ハ頭狹長ニシテ、眼溫和ノ相ヲ表シ、角割合小ニシテ白色尖黒シ、頸細長、胸相應ニ深廣、鬚甲狹ク、背直長、肋骨ハ長ク稍々扁平、腰幅廣ク平ニシテ腹大キク十字部ハ長ク幅頗ル廣ク平ニ、四肢長ク乾燥ス、乳房頗ル容大、乳頭モ亦長大、皮膚ハ薄軟ニシテ、鼻鏡ノ色青ク、毛ハ細短ニシテ密生シ光澤アリ、其色普通黒ト白トノ斑ナルモ時ニ赤ト白トノ斑モ存ス、又斑紋ノ形大小ハ一定セサルモ大抵額、四肢ノ下部、腹、尾等ハ白色ナリ、體量ハ牝百五十貫乃至百八十貫、牡二百三十貫乃至二百六十貫位アリ、吾國ニハ明治初年横濱ニ外人ノ持チ來リシヲ嚙矢トシ近來各牧場、酪農家等頻リニ米國及原產地ヨリ輸入シテ其ノ數ヲ増シ吾國重要ナル乳牛タリ

「エアシャー」スコットランドノエアシャー州ノ原産、此ノ地山岳平野錯綜シ地味中等、大氣一般ニ濕潤寒冷ナリ、隨テ寒濕ニ堪ヘ粗食ニ甘ニスルノ性ヲ順養シ能ク自來人爲ノ事情不良ナル地ニ適應シテ健全ニ生育シ泌乳盛ナリ、乃チ健康ナル乳牛トシテ著名ニシテ、其ノ乳量一箇年普通十五石多キハ二十二石ニ達シ脂肪ノ含量三・六―四・二%位ニシテ脂肪球小ナルヲ以テ生乳用ニ適當ナリ、缺點ハ成熟晚ク且神經質ニシテ取扱ニ注意ヲ要スルコト多ク、又搾乳ヲ廢セルモノ及閹牛ハ肥育ノ効果アリテ肉用ニモ供スルコトヲ得但役用ニハ供シ難シ、形態ハ頭小、眼明敏活ノ相アリ、角ハ細長尖端鋭ク其色根部白ク尖黒シ、頸細ク、胸部可ナリ發育シ、背腰平直

十字部ハ割ニ短ク平ニシテ廣キモ、乳房大ナラス、乳頭小ニ、尾長ク、四肢短小、皮薄ク、鼻鏡ハ肉色ニテ屢々青斑アリ、毛細ク短ク、其色ハ赤ト白又ハ褐ト白トノ斑ニシテ斑紋一様ナラス近來白勝ノモノ乳量多シト稱シ人ノ好ム所ナリ、體量ハ牝百貫一二十貫、牡百三十貫一十七貫位アリ、要スルニ大サ中大ナル、體格堅牢ナル、各部ノ鈞合均衡ヲ得タル良形ノ牛ナリ、吾國ニハ明治十一年頃ヨリ輸入セラレ、逐年其ノ數ヲ増シ現今ハ吾國乳牛トシテ重要ノ位置ヲ占メ、吾政府モ此牛ノ吾國ノ事情風土ニ適セルヲ認メ、在來種改良ノ種畜トシテ賞揚セラレ

『ブラウンスキス』 瑞西國ノ東部即チ、高山地方ニ産スル牛ニシテ特ニシユワイツ地方ヨリ良牛ヲ出ス、原産地方ノ牧牛法ハ粗略ニテ暖期ハ概ネアルプスノ山野ニ放牧シ寒期間ノミ舍飼シ專ラ搾乳製酪ヲ行フ、系統ハ歐洲高地種ニ屬シ古ヨリ此地方ニ在來シ主トシテ乳用ニ改良セラレタル牛ナリ、此牛モ亦健康ナル乳牛ノ一ニシテヨク山地ノ放牧養ニ適シ、飼料ノ粗ナルニ甘シ泌乳量モ多ク、一年間ノ乳量普通十六石多キハ二十石ニ達シ、脂肪ノ含量ハ三・三乃至四・三%位アリテ生乳用、製乳用共ニ適シ、性質柔順ヨク人ニ親ム、其生熟稍々後レ肉量、肉質中等力用ニモ供シ得レトモ適當ナラス、形態ハ頭重大ニ傾キ、耳大キク、角ハ寧ロ短ク白色ニテ尖端黒シ、容貌柔和ナリ、頸太ク垂皮發育シ胸深廣ニシテ、背平直、肋骨ヨク宛曲シ、十字部幅廣ク尾根ニ向ヒテ稍々高マル氣味アリ、乳房可ナリ大キク四肢中長ニテ丈夫ナリ、皮膚ハ少シク厚キモ柔カク、鼻鏡ハ石板色ヲ呈シ、毛ハ太ク稍々硬ク、其色淡灰色ヨリ黒褐色ニ至ル就中鼠色好愛セラレ何レノ色ニアツテモ脊ハ腰、十字部、四肢ノ内側、腹口ノ周圍、耳縁等ノ部分ハ他部ヨリ淡ナルヲ常トス、體重ハ普通牝百三十貫乃至百六十貫、牡百八十貫乃至二百四十貫位アレトモ産地ニヨリテ猶大小アリ、要スルニ此牛ハ乳牛トシテハ體格堅牢ニ出來却ツテ厚大ニ過クルノ傾ヲ呈シ所謂乳牛ノ模範的形態ニ遠キノ感アリ、吾國ニハ明治三十四年初メテ下總御

料牧場ニ次テ農商務省ニ輸入シ近時民間ニ於テ飼養スルモノ多キニ至レリ

『シンメンタール』 瑞西國西部稍々平地多キ地方ニ産ス、就中ベルン縣ノシンメン河ノ溪谷地方カ其發源地ニシテ良牛ヲ出スヲ以テ此名アリ、系統ハ歐洲高地種ニ屬シブラウンスキスト同系ナレトモ境遇ヲ異ニセルヨリ形質ノ相違ヲ生セシナリ、原産地ノ飼方粗放ナルカ故ニ自然粗食ニ堪ヘ體質強健ナルモ生熟ハ稍々晚ル、性質溫順ナレハ各種ノ用途ニ供シテ利益多シ、特ニ力強ク舉動活潑ナルヲ以テ農耕其他諸種ノ役用ニ好適シ、原産地方ニテハ大ニ利用セラレ、泌乳量モ可ナリ多ク且ツ泌乳年月長ク普通一箇年十三石位ヲ出シ脂肪ノ含量三・七%位アリ、又之ヲ肥育スレハヨク肥大シ肉量多ク肉質モ良好ナリ、サレハ歐洲ニテハ此牛ヲ三用途兼ネ優レタル良牛ナリト稱揚ス、形態ハ頭體ニ比シ小サク長味ヲ帶ヒ、耳ハ大ニシテ、角割合短ク白色或ハ黃白色ニテ尖端褐色ヲ呈ス、頸ハ中長ニシテ垂皮良ク發育シ、肩ハ長ク筋肉ニ富ミ、胸ハ深ク且廣ク鬚甲廣クシテ丸シ、脊ハ長ク、肋骨ヨリ宛曲シテ、胴丸ク、腰長ク、且平ニシテ、十字部長ク且廣シ、尾根稍高マリ、臀肉ニ富ミ、乳房大ナリ、四肢ハ長ク、骨堅ク、關節及蹄強シ皮膚ハ厚キモ柔カニテ弛ク、鼻鏡黃赤色ナリ、毛ハ長ク密生シ牡ハ額頸ノ毛捲縮セルモノ多ク其色赤斑黃斑等普通ニシテ斑紋ノ形大小種々ナルモ境界ノ明瞭セルヲヨシトシ又頭ノ白キモノ好マル、體量ハ牝百八十貫乃至二百貫、牡二百四十貫乃至二百六十貫位アリ、要スルニ體格偉大長身ニシテ前後體四肢ノ發育良好ナル牛ナリ、吾國ニハ明治三十四年以來政府ニテ輸入繁殖シ在來牛改良ノ種畜トナサント企圖セリ

『デボン』 イングランドノ西南部デボン及コーンウォール州ニシテ殊ニブリストルカナル沿岸ニ良牛ヲ産ス、力肉兩用トシテ貴重セラレ、原産地ニテハ之ヲ耕作用ニ使用シ後肥育シテ肉用トス性質恰順溫順舉動敏捷、持久力ニ富ミ若カモ體質強健粗飼ニ堪ヘ、肥大性ニモ富ミ肉量中等

肉質ハ佳良英人ノ賞讃スル所ナリ、乳ノ分泌ハノースデボンハ少キモサウスデボンハ多シ、形態ハ頭短ニシテ、額廣ク、角ハ細長ク蠟黃色ニシテ尖端褐色ヲ呈ス、頸中長、肩長クシテ傾キ肉ニ富ミ胸モ深ク鬣中部廣ク丸ク、背長クシテ直ク、腰廣シ、十字部長廣平直各部筋肉ニ富ム四肢中長能ク乾燥シ、皮膚ハ厚カラス柔軟力アリ、鼻鏡橙黃色、毛ハ細ク密生シ色ハ褐赤色ヲ普通トスルモ往々尾總腹部ノ少シク白キモアリ、體量牝百二十貫—百四十貫牡百八十貫位アリ要スルニ前後體共ニ發育良好中體伸ビテ丸ク、各部ノ鈞合ヨク外觀ノ美ナル牛ナリ、吾國明治初年ヨリ輸入セラレ現今島根縣大原郡ニテ專ラ此ノ種ヲ以テ在來牛ノ改良ヲ計リツ、アリ

「シヨート・ホン」一名ダーラム又ハ短角牛、原產地ハイソングランドノ北東海岸チース河ノ流域ナルダーラム州、一七八〇年頃ヨリ英國有名ノ畜産家コーリング氏兄弟カ在來種チースウオター種ヲ肉用ニ改良シ始メ一八一〇年ニ至リ殆ント所期改良ノ域ニ達セシモノニシテ、肉牛トシテ現今實ニ世界ノ霸王ト稱スヘク、早熟、早肥若クハ、肉量ノ多キ此ノ右ニ出ツルモノナシ、牡ハ二歳ニシテ體量己ニ百六十貫ニ達シ肉用ノ價值充分ナリ、又飼料ノ利用性ニ富ミテ忽チ肥太シ、生體量ニ對スル屍體重ノ割合ハ牝牡多數ノ平均凡ソ七十四%位アリ、肉質モ柔軟多汁ニシテ其色淡赤色ナリ、脂肪ト肉トヨク混交シ美麗ナル大理石狀ヲ呈ス、乳モ肉汁トシテハ割合分泌量多ク、殊ニ所謂乳用短角牛ト稱セラル、モノハ餘程多乳ニシテ少ナキモ十石多キハ十九石位ヲ出シ脂肪含量凡ソ三・六%ナルヲ以テ乳用ノ價值充分ナリ、サレト役用トシテハ適當ナラス以上ノ如ク早熟、早肥ヲ目的トシテ改良ニ改良ヲ重ネシモノナレハ肉用能力ハ優秀ナルモ體質ハ薄弱ナルヲ免レス、加ウルニ繁殖力モ亦弱キ缺點アルヲ以テ飼養管理ニ注意ヲ要ス、形態ハ頭小、角短小其色蠟黃色、頸短太ニシテ肉富ミ、胸頗ル深廣、鬣甲部モ幅廣ク丸ク、肩ハ長クシテ傾斜シ附肉多ク、背腰短キモ直ニシテ廣ク、肋骨ハヨク彎曲シ體圍頗ル大ナリ、腹ハ大ナ

ラスシテ腹線ハ背線ト平行ス十字部長ク廣ク平ニシテ、臀部肉ニ富ム、四肢ハ體ニ比シテ甚ク短ク、其膊腿ハ太キモ下部ハ小ナリ、皮膚ハ厚キモ軟カク、鼻鏡肉色ヲ呈シ、毛ハ長クシテ柔軟、牡牛ニアリテハ頭頸ノ毛縮ム、毛色ハ赤ト白又ハ赤褐色ト白ノ斑多シ其ノ純白色ノモノ或ハ純赤色ノモノナキニシモアラス、體量ハ成牛ニテ牝百六十貫—二百貫牡ハ二百五十貫—三百九十貫位アリ、之ヲ要スルニ體格偉大ニシテ其外形長方形ヲナシ巾廣ク深ク深ク附肉部大ニ頭四肢等小ニシテ實ニ肉牛ノ模範的形態ヲ表ハスモノト謂フヘシ、此ノ牛ハ世界ニ普ク擴マリ荷モノ牛畜ノ改良ヲ企テシ國ニシテ先ツ之ヲ輸入セサル處殆ントナシ、吾國ニテモ明治ノ初年多數輸入セラレタルモ風土、飼養法ノ不適當ナリシカ爲其効著シカラスシテ漸次減少シ今ハ北海道及青森縣ノ一部ニ殘存セル狀況ナリト

第二四牛乳

一八六

第二四牛乳 (報告期翌年三月限)

大正何年

備考	計	農家其ノ他	搾乳業者		搾乳		高
			搾乳戸數	乳牛頭數	數	價	
			年	現			
			末	在			
						石	
							円
							一石ニ付價格

(注意)

- 一、搾乳戸數ハ搾乳場數箇所アル場合ニハ各一戸トシテ計算スヘシ
- 二、搾乳業者トハ明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則ニ依ル牛乳營業者ヲ謂フ
- 三、本表ニ乳牛ト稱スルハ搾乳シ若ハ年内ニ搾乳シタル牝牛ヲ謂フ
- △其ノ年廢業セシ者ハ年末戸數ニ計上セサルモ搾乳高ハ調査スヘシ
- △將來搾乳ノ目的ヲ以テ飼養中ノモノト雖未タ搾乳ノ時期ニ達セサルモノハ之ヲ計上スヘカラス
- △甲地方ノ者乙地方ニ於テ搾乳スル場合ハ搾乳場ノ在ル箇所ニテ全部調査スヘシ
- △本表調査方法 府縣警察部ニハ全部材料ヲ存スルヲ以テ之ニ依リ調査シ町村ノ報告ヲ省略スルモ一方法ナリ

△牛乳鑑別法 純白ニシテ不透明、一滴ヲ瓜ノ上ニ滴下スルニ球形ヲ保チ、コップニ注キ沃度丁幾一二滴ヲ滴下スルニ青黑色ヲ呈セス、底部及周圍ニ細粉様ノ殘溜ナク、コップノ内面ニ薄ク液汁ノ附着シテ殘ルハ良品ニシテ洗ヒタルカ如クナルハ水分多キ徵ナリ
又乳汁ニ米ノ洗汁ヲ混セル疑アルトキハ沃度液ヲ以テ着色試驗ヲナス即チ澱粉アルトキハ糯米ハ赤褐色其ノ他ハ青色ヲ現ハス

第二四牛乳

一八七

第二五馬

(報告期翌年三月限)

大正何年

飼養戸數
(年末現在)
一頭
二頭
三頭又ハ四頭
五頭以上

計

出產
馬 斃
駒 死

現 在
未
當 年
馬
頭數
價額
付一頭ニ
價額

明二歳以上明四歳未滿
付一頭ニ
價額

和種

計

牝

牝

牝

計

計

計

計

計

計

計

雜種

計

牝

牝

牝

計

計

計

計

計

計

計

洋種

計

牝

牝

牝

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

計

備考

(注意)

一、和種トハ内國産ニシテ洋種ノ血液ヲ混セサルモノヲ謂フ

二、雜種トハ和種ト洋種トノ血液相混シタルモノヲ謂フ

三、洋種トハ外國種ノ總稱ニシテ外國種間ノ雜種ヲモ含ム但東洋産ノ種類ハ洋種ノ内ニ入レ備考ニ於テ明示スヘシ

四、馬ハ明四歳以上、駒ハ明四歳未滿ヲ謂フ

五、本表ハ中央官廳所有ノモノヲ除キ總テ之ヲ調査スヘシ

六、年内ニ出産シテ死亡シタルモノハ出産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ記入スヘシ

七、撲殺セシモノモ斃死欄ニ記入スヘシ

△支那馬、朝鮮馬ノ如キ東洋産ノ種類ハ洋種ノ内ニ入レ備考ニ明示スルモノトス

△馬ノ價額調査ハ市場價格ヲ参考トシテ調査員ノ見込ニテ差支ナシ

第二五 馬

△馬ハ明四歳ヨリ種付ヲ行ヒ其約六割ノ生産アルヲ普通トス

△馬籍法(大正十年法律第九十五號)馬籍法施行規則(大正十一年一月廿八日陸軍省令第一號)參照
△馬ノ品種 馬ノ分類ハ國別ニヨリ東洋種及西洋種ニ二分スルヲ便トス、東洋種ハアラビヤ馬ヲ模範體形トシ、馬匹中最モ優等ナルモノナリ、西洋種ハヨーロッパノ北部産ヲ純粹ナルモノトシ、主ニ重馬ノミニテ、昔時ハ全ク貴種ノ馬ヲ生セス、今日ニテハ東洋種ヲ配シテ大ニ之ヲ改良シ、英吉利純血種ノ如キ良種ヲ出スニ至レリ、東洋ノ貴種ハアラビヤヲ始メ、ベルシヤ馬、バルブ馬、ホンガリヤ馬等ニシテ、日本馬、支那馬ハ貴種ニ屬セス、西洋種ハ近時東洋種トノ雜種大ニ行ハレ、東洋種ノ特徵ヲ多ク有スルヲ東洋雜種ト謂ヒ、西洋種ノ特徵多キヲ西洋雜種ト謂フ、英吉利純血種等ハ前者ニ屬シ、英吉利、佛蘭西ノ重馬等ハ後者ニ屬ス、一般ニ東洋種ハ頭蓋骨ノ發達良好ニシテ、四肢ハ細小優美ナレト、甚タ堅牢ナリ、又皮膚ハ柔軟、毛ハ細織ニシテ、鬃及尾毛モ長ク、蹄小ニシテ堅シ、西洋種ハ全ク之ニ反シ、四肢ノ下部ニハ距毛ヲ有スレト、東洋種ニハ殆トコレナシ、概シテ西洋種ハ力強ケレト、美貌ヲ缺キ、運動鈍ク、東洋種ハ駿快ナル運動ト美貌トヲ有ス、故ニ雜種ニヨリテ東洋種ニ強力ヲ與ヘ、西洋種ニ美貌ト輕快ナル運動トヲ付與セントシツ、アリ、今左ニ國別ニヨリテ主ナル品種ヲ掲ク

第一東洋種

- (1) アラビヤ品種 全世界中最良ノ體格ヲ有シ、智力モ亦優等ナリ、原產地ハ本來伊犁地方ナリシカ、後アラビヤニ傳ハリ、今日ノ良種トナレリ種類ハ庸種、貴種ノ區分アリ、庸種ハ運搬用ニ供シ、貴種ハ吾人ノ賞讃スル純粹アラビヤ種ニシテ乗用ノミニ供セラル、アラビヤ人ハ宗祖「マホメツト」ノ愛馬心ヲ受ケ馬ヲ愛撫スルコト母ノ子ニ於ケルカ如ク同一天幕内ニ起ルニシテ常トスト謂フ
- 貴種ハ丈四尺八寸―五尺二寸内外、頭輕ク、鬃鬣、鼻孔深大、耳小ニシテ面ク、頸長、尾及鬃纖麗、短腰、強脊、臀長ク、尾礎高ク、蹄小ニシテ硬質、薄皮短毛、栗毛ノモノ多キモ青色、蘆毛、鹿毛等モアリ
- (2) ベルシヤ品種 アラビヤ品種ニ似タリ、體格稍大ニシテ、四肢長ク、頭輕シ、シカモ圓熟ノ體ヲ有シ、ヨーロッパ人ノ嗜好ニ適ス、今ヨリ百七十餘年前徳川吉宗將軍時代本邦ニ輸入シ爾後本邦馬匹ノ改良ニ供セラル、快速順良活潑ニシテ持久性ニ富ミ、體毛青色又ハ鹿毛ヲ普通トシ稀ニ月毛アリ
- (3) トルコ品種 體格アラビヤ種ヨリ大ナルモ鈞合惡ク、腦力亦劣ル
- (4) バルブ品種 一ニアフリカ品種、サハラ沙漠ヨリ以北ニ産ス、アラビヤ馬ヨリ稍小、特ニ後軀ノ發育惡ク、氣力速力共ニ劣ル、アフリカ北部アルゼリー、チュニス、モロッコノ産等ヲ總稱ス
- (5) 支那馬 體ハ概テ矮小ナレトモ、全身ノ發育完全ナリ、四肢短大ニシテ強健、性質ハ頗ル從順、粗食勞働ニ堪フルハ此種ニ及フモノナシ、韃靼、滿洲地方ニ産シ其名高シ、丈四尺四寸―四尺八寸、胸廓深長、肋骨圓隆、蘆毛ノモノ多シ
- (6) 日本馬 以上列舉ノ品種ヨリ最下位ニ在リ、島嶼種ト内國種トノ二ニ區別スルコトヲ得
 - (い) 島嶼種、外國種ノ血ヲ混セサル爲、體極メテ小、概テ四尺ヲ越エス、シカモ比較的強力粗食勞役ニ堪フ、四國馬、隱岐馬、淡路馬、壹岐馬、對州馬、沖繩馬等アリ
 - (ろ) 内國種 前者ニ比シ體ハ遙ニ大四尺五寸―四尺七尺八寸ニ及フ、脚ハ極メテ健ナルモ、性質敏捷ヲ缺キ、容貌美ナラス、他ノ東洋種ノ輸入ノ爲漸次今日ノ品種ヲ得タルモノナラシ種類極メテ多シ

第二五 馬

第二五馬

一九二

- (イ) 南部馬、我國最大ノ品種、五尺ヲ越ユルモノアリ、性温良、勞役ニ堪ヘ軍馬ニ適スルモ一般ニ鋭敏ナラス
 - (ロ) 仙臺馬、前者ヨリ小ナルモ日本馬トシテハ大ナルモノナリ、胸廓深ク、腎斜向ニ尾礎低キヲ特徴トス、有名ナル御料馬金華山號ハ此地方ヨリ出ツ
 - (ハ) 三春馬、福島縣三春ノ産、頭輕小、眼大、頸稍長ク、皮薄ク、毛光澤アリ、最輕美ノモノニシテ性質活潑ナルモ、重役ニ堪エス、サレト國産中ノ最優種ナリ
 - (ニ) 薩摩馬、ベルンヤ馬ノ雜種ニシテ相貌優美、頭重大、眼潤大、歩足敏捷、皮薄ク體格小、高サ平均四尺六七寸持久性ニ乏シク喧噪ナル缺點アリ
- 以上ノ外秋田馬、最上馬、蝦夷馬、土佐馬等アリ

第二西洋種

- (1) 英吉利種 昔時ハ唯々矮小ノ馬ヲ産セシノミナリシカ、チャールズ二世ノ時ヨリ大ニ其ノ改良ニ務メ種々ノ駿馬ヲ生スルニ至レリ其ノ有名ナルモノハ
 - (い) 英吉利純血種 最良ノ駿馬ニシテ、體ハ東洋種ヨリモ大ナリ、速力輕快ニシテ血行器ヨク發達シ心臟ノ重サ、普通ノ馬ニテ九百目一貫目ナルニ本種ハ一貫五百目以上ニ達スト謂フ、所謂アラビア種ノ英國風土ニ感化變形シタルモノ、丈五尺三寸一五尺八寸ニ達ス頭稍細長、口端尖リ、眼豊麗、鼻孔潤大、頸細長ニシテ直ク、鬐甲高クシテ長ク、直脊短腰、胸能ク發育シ、四肢ノ發育能ク、腎長ク、尾礎稍低シ、體毛ハ栗毛、鹿毛多ク、形貌アラビア種ニ似テ大、歩行快駿ナルト遺傳力強キハ他ニ比類ナシ、各國競テ種馬ニ供ス
- (カ) 英吉利半血種 前者ト他種トノ雜種ニシテ東洋、西洋兩種ノ中間ニ位ス、品種甚タ多ク獵用馬、速歩馬、ハツクニー及ヨーロッパ諸國ノ騎兵馬之ニ屬ス

- (ハ) 英吉利矮馬、小形ノ馬ニシテ、性温順、四肢強健、飼料ヲ要スルコト少ナク、婦女ノ乗用、又ハ馬車等ニ用ウ、數品種アレト、シエツトランドボーニハ最有名ニシテ高サ三尺三寸一四尺アリ
- (2) 佛蘭西種、ノルマン品種最モ有名ナリ、體格大、力強ク、碇碇ノ地ヲ歩ムニ適ス、重種ナレトモ、容貌美ナリ、又此種ト英吉利純血種トノ雜種ヲアングロ、ノルマン種ト稱ス
- (3) 露西亞種、所謂東洋雜種ニシテ初メ韃靼、蒙古等ノ馬ニ因リ後ニハアラビア馬及英吉利純血種ニ因リテ改良セラレシモノナリ、大國ナルヲ以テ品種頗ル多シ、露國速歩馬ハ丈五尺二三寸一五尺七八寸頭稍重大、下端細尖、頭上向、鬐甲低ク、脊長ク、腎傾斜シテ能ク發育ス、短距離ニハ稍劣ルモ量途疾驅ニ好適スシベリヤノ馬ハ韃靼種ナリ
- (4) 獨逸種、最モ近代ノ改良ニカ、ル、在來種ト英吉利純血種、アラビア種等ヲ交雜シタルモノナリ品種多シ
- (5) 亞米利加種、亞米利加ニハ元來馬ヲ産セス、昔イスパニヤヨリ輸入セルモノヲ以ツテ濫觴トナス此種ハ野生ノ馬トナリテ今尙存シ、往々大群ヲナシテ徘徊ス、彼ノマススタント稱セラレ、モノ、是ナリ、北亞米利加ノ家馬ハ、ヨーロッパ諸國ノ品種ノ互ニ混合セルモノニシテ、英吉利純血種ヲ除キテ一定ノ品種ナシ、速歩ヲ目的トセル米國速歩馬ハ英純血種ト他種トヲ交配セルモノニシテ體貌共ニ一定セス、濶歩シ蹄ノ地ヲ距ルコト低ク遲鈍ナルヤノ觀アレトモ實際快速ニシテ短距離ノ競争ニ好適ス

△馬ノ毛色

第二五馬

一九三

種	類	毛色ノ說明	
		毛色	說明
鹿	栗毛	地毛赤褐色、鬣尾背線及四肢ノ下端、黒色	
青	月毛	地色淡、鬣及尾赤褐色	
栗	月毛	地色黒色(耳裏ヲ除ク)	
青	月毛	白毛ニ稍赤ミヲ帶フ	
赤	黒毛(水毛)	全身黒色	
赤	赤毛	毛色赤	

種	類	毛色ノ說明	
		毛色	說明
草	精毛	白毛ニ黒色及他色ノ少シク混生セルモノ	
鼠	虎毛	赤白黒ノ三色毛ヨリ成リ赤白ノ二色ハ軀幹ニ黒色毛ハ鬣尾及肢端ニ散布スルモノ	
虎	雀毛	蒼白ノ雜毛	
雀	雀毛	薄黒毛ノ馬ニ虎毛ノ如キモノ	
雀	雀毛	黃白雜毛ニシテ脊線黒ク下ハ尾ヅツマテ鬣ノ左右虎斑アルモノ	

特	部	頭	色複
額	星	星	額ニ白毛ヲ有スルモノ、其ノ小ナルハ小星、著シク小ニシテ白斑ヲ爲ササルハ額刺毛
流	星	星	額ノ白毛長クシテ鼻梁ニ垂ル、モノ
鼻	星	星	鼻ニ存スル白斑
唇	星	星	上唇又ハ下唇ノ白キモノ上唇白、下唇白

稱	呼	四	肢
白	一	白	肢脚ノ下端白色ナルモノ、其ノ形ニ依リ半白又ハ小白
二	二	白	肢脚ノ下端一肢又ハ數肢白毛ノモノニシテ左ノ區別アリ
三	三	白	(左)前(右)後二白 (右)後二白
四	四	白	(左)前(右)後三白 (右)後三白 四白

△古書ニ載スル馬ノ毛色

種類	毛色ノ說明	種類	毛色ノ說明
赤毛	全身赤色	連錢草毛	青黒色ニテ魚鱗ノ如キ斑點アルモノ
赤黒おほひ	赤毛ニ黒色ノおほひ髪アルモノ	尾花草毛	草毛ノサシ毛アルモノ
黒毛	全身黒色	黒草毛	淺黒色ニテ白色ヲ雜フルモノ
栗毛	全身紫色	河原毛	薄淺黄色即チ水色ナルモノ
白栗毛	紫色ノ少シ白色ヲ帶フモノ	黒河原毛	河原毛ノ少シク黒色ヲ帶フル者
黒栗毛	紫色ノ少シ黒色ヲ帶フルモノ	雲雀毛	赭色ト白色トノ混シタルモノ
赤栗毛	紫色ニ赤色ノ混シタルモノ	赤雲雀毛	雲雀毛ノ毛色ヲ帶フルモノ
駁毛	純白ナラスシテ少シク斑點アルモノ	口雲雀毛	黄色ニシテ啄ノ黒色ナルモノ
青駁毛	青色ノ斑點アルモノ	笏額雲雀毛	雲雀色ニテ額ニ笏ノ如キ白毛アルモノ

第二五馬

黑	黒色ノ斑點アルモノ	月額(一名)毛	全身白色
褐	褐色ノ斑點アルモノ	斑(一名)月毛	額ノ白色ナルモノ
青	青色ト黒色トノ混シタルモノ	尾白毛	月毛ニテ斑點アルモノ
槽	灰色ニ白キサシ毛アルモノ	足ニ駁アルモノ	尾ノミ白色ナルモノ
鹿	赤色ニテ黒色ノ鬣アルモノ	四本ノ足ノ白色ナルモノ	膝以下ノ白色ナルモノ
黒鹿	鹿毛ノ少シク黒色ヲ帯フルモノ	鼠毛	鼠色ノ毛ヲ有スルモノ
白鹿	鹿毛ノ少シク白色ヲ帯フルモノ	二鼠毛	一説ニ鼠毛ナリ、鼠毛ハ猿毛ニ似タレハ鼠毛ヲ又二毛ト謂フト
腹白鹿	鹿毛ニテ腹ノ白色ナルモノ	毛	又一説ニ駁馬ハ二色ノ毛ナレハ名クト謂ヘリ
葦毛	青色ト白色トノ混シタルモノ	毛	

△軍馬貸下規則ニヨリ貸下ヲ受ケタル馬及陸軍ヨリ委託ヲ受ケ管理飼養スル病馬等ハ大正十年九月二十八日陸軍省令第二三號陸軍豫備馬貸付規則ニ依リ所有權ノ陸軍省ヨリ移轉シタル上ハ一般ノ馬ト同様ニ報告スヘシ

△洋馬ノ種類(馬藉法施行細則記載例)

サラブレッド(英)アラブ(アラ)アングロアラブ(佛)ギドラン(匈牙)トロツター(米)ハクニ(英)ノーニウス(匈牙)アングロノルマン(佛)ベルシユロン(佛)ブラバンソン(白)クライデスデー(英)

△交配懐胎、騙

交配四、五月、懐胎三百四十日、騙ハ去勢馬ナリ本表中社馬ニ計入スヘシ

第二六豚

(報告期翌年三月限)

大正何年

備考	計	牡	牝	飼養戸數 (年末現在)				出產	斃	死	年	末	現	在	
				計	五頭以上	三頭又ハ四頭	二頭								一頭

(注意)

第二六豚

- 一、成豚ハ生後滿十箇月以上、仔豚ハ生後滿十箇月未滿ノモノヲ謂フ
- 二、本表ハ中央官廳所有ノモノヲ除キ總テ之ヲ調査スヘシ
- 三、年内ニ出生シテ死亡シタルモノハ出産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ記入スヘシ
- 四、撲殺セシモノモ斃死欄ニ記入スヘシ

△豚ノ品種

豚ハ野猪ノ變種ナリ、野猪ヲ飼育シテ三代ニ及ヘハ豚ニ類似シ、七代ニ及ヘハ豚同様トナル、豚ノ種類中大種ハ概ネ粗食ニテ足り、性强健熟期通シ、故ニ生食用トシテ都會附近ノ飼養ニ適セサルモ、加工肉用トシテ僻地ニ適ス、中種モ亦強健ニシテ生肉、加工イツレモ適ス、小種ハ骨格小、體質稍弱キ傾アレト、極メテ早熟肥滿シ易キヲ以テ生肉用トシテ都會附近ノ飼養ニ適ス

種	國	英	性質	體重	體色
エセクス	サツフオク	レスタ	早熟小種	六〇—八〇	暗黒
リンコンシア	パークシア	ヨークシア	中熟中種	八〇—九〇	黒
大種			早熟	六〇—八〇	白

〔肥〕大中小種別アリ運搬不便飼料廉
〔能〕ナル地方ノ飼養ニ適ス
〔盛〕能ク肥臘シシテ生肉最優種繁殖力強

〔早〕早熟、骨格細ク廢棄部少ナク脂
〔肪〕ニ富ム特長アルモ飼育困難

種	國	米	性質	體重	體色
ポーク	チヤイト	ホーク	早熟	一〇〇—一五〇	黒
ウイクトリア	チエスタ	ホワイト	蕃殖力強	八〇—一二〇	灰白
チエスタ	ウイクトリア	ホワイト	シ大種	八〇—一二〇	灰白
ヂエロツク	ヂエロツク	ヂエロツク			
ジャージ	ジャージ	ジャージ			

〔肥〕肥臘シ易キモ蕃殖力少ク難産ニ
〔羅〕羅リ易シ

〔大〕大種美肉煮腿ニ適ス

〔種〕種用ハ八十貫ニ達ス本邦産ノ大
〔種〕種ナリ體格ニ比シ廢棄部多シ

△豚肉ノ平均化學的組成

水分 五三・〇 蛋白質 一四・〇 脂肪 二六・〇 灰分 二・六〇

第二七種 羊

1100

第二七種 羊

(報告期翌年三月限)

大正何年

備考	計	牝	牝	飼養戸數 (年末現在)				計			
				一頭	二頭	三頭又ハ四頭	五頭以上				
				出 産		死			年 末 現 在		
				成細羊	仔細羊	成細羊	頭數	仔	種	價額	付價額

(注意)

一、成細羊ハ生後滿一年以上、仔細羊ハ生後滿一年未滿ノモノヲ謂フ
 二、本表ハ中央官廳所有ノモノヲ除キ總テ之ヲ調査スヘシ
 三、年内ニ出産シテ死亡シタルモノハ出産ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ記入スヘシ
 四、撲殺セシモノモ斃死欄ニ記入スヘシ
 △羊ハ家畜中古キ歴史ヲ有スルモノノ一、乾燥セル風土ニ適シ、濕潤ヲ忌ム、性温順群棲ヲ好ム、羊毛、羊皮、脂、肉、乳等皆人類衣食ノ料トシテ需要セラル、其ノ分類ハ形態上ノ特徴又ハ用途別ニ依リ區分スルモ採毛用(軟毛種)ノ「メリノ」種、肉用(剛毛種)ノ「英國種」ノ二種ニ分類スルヲ最モ實用的ノ分類トス
 「メリノ」種ニ三種アリ佛蘭西メリノ(ランブイエ)獨逸メリノ(エレクトラル)及埃太利メリノ(ネグレッツチ)トナス
 英國種ノ主ナルモノヲ舉クレハ、リスタール、リンコン、コツウオールド、オツクスフオードダウソ、サウスダウン、ハンブリア、シユロツブシア、チエヴィオト、サツフオク等トス
 餌料ハ苜蓿草、根菜、穀類等、五六月頃剪毛ス、蕃殖ニハ一歳半以上ナルヲ用ヒ、一産一乃至三仔、六七週間ニテ斷乳シ、種羊ノ外ハ一箇月後ニ去勢ス
 羊毛ノ剪取ハ年一回ヲ普通トスレド、二回ニ及フコトアリ、一回ノ場合ニハ六月頃、二回ナレハ四月及九月トス、剪ルニ剪毛鉋ヲ以テシ、一人一日ニ三十頭、熟練ナルオーストラリア剪手ハ八時間ニ七十頭乃至百二十頭ノ剪毛ヲ終ルト云フ、剪リタルモノハ全身ノ毛ヲ一枚ニ續ケ、之ヲ卷キテ一束トナス、剪毛前或ハ後ニ其毛ヲヨク洗フヘク、之カ洗濯用水ハ軟水ヲ選ビ、水温ハ攝氏一七度乃至三五度トシ、寒冷ニ過クヘカラス、羊ノ肉ハ淡泊ニシテ消化シ易シト雖、一種ノ臭氣アリ、其化學的組成左ノ如シ

第二七種 羊

101

第二七 種 羊

11011

水分 55.3 蛋白質 16.6 脂肪 26.6 灰分 0.5
 明石郡内ニ於ケル日本毛織株式會社ノ種羊飼育試驗左ノ如シ(大正七年)

種類	性	一頭平均			皮毛	骨付肉量
		均生體	最多	最少		
シユロツプ シヤード種	牝	97	74	45	45	42
	牡	172	85	85	50	46
蒙古種	牝	76	58	44	35	38
	牡	137	50	50	35	40

本邦ノ種羊飼育獎勵ハ農商務省ニ於テ大正七年度ヨリ開始サレタルモノニシテ、最近各年五月三十日現在頭數ハ左ノ如シ

飼育者	牝	牡	計
大正七年	208	996	1204
同 八年	356	840	1196
同 九年	571	599	1170

其ノ種類ハ十種ニ及フモ主ナルモノハ「メリー種」「シユロツプシヤード種」等ニシテ何レモ良好ナル成績ヲ示セリ其ノ他ハ尙試驗中ナルモ最近支那種輸入激増シツ、アリト謂フ

シユロツプシヤード種 2,590
 支那種 1,246
 雜種 815
 サウスダウソ種 310
 ロムニーマーシユ種 161
 コリゲール種 105
 メリノ種 69
 リンコロン種 54
 ロマノフ種 5
 レスター種 1

計(大正九年五月現在) 8,229

政府ニ於テハ種羊飼育獎勵計畫ニ基キ、種羊場ニ於テ生産スル種羊中牡羊ハ無償ニテ貸付シ牝羊ハ低廉ナル價格ヲ以テ拂下ヲ爲ス方針ニシテ、其ノ拂下價格ハ一頭八圓乃至貳拾圓ノ範圍ナリ、然ルニ民間ニ於テ賣買セラル、價格ハ殆ント標準的相場ナキ有様ニシテ、最低拾四圓ヨリ最高五百圓ニ達シ平均一頭九拾六圓七錢前年ハ四拾七圓六拾錢ナリト謂ヘリ

全國ニ於テ飼養頭數ノ多キハ北海道四九三頭、千葉縣三四二頭、熊本縣二七四頭、茨城縣二七二頭、兵庫縣二六五頭等ナリ(農商務省農務局種羊飼育概覽)

第二七 種 羊

11013

第二八山 羊

1104

第二八山 羊 (報告期翌年三月限)

大正何年

備考	計	牝	牡	出 産	飼養戸數 (年末現在)							
					計	五頭以上	三頭又ハ四頭	一	二			
								頭	頭	頭		
				成山羊	斃							
				仔山羊	死							
				成山羊	年							
				頭數	仔	未						
				價額	山	現						
				付價格	羊	在						

(注意)

- 一、成山羊ハ生後滿一年以上、仔山羊ハ生後滿一年未滿ノモノヲ謂フ
- 二、本表ハ中央官廳所有ノモノヲ除キ總テ之ヲ調査スヘシ
- 三、年内ニ出產シテ死亡シタルモノハ出產ノ欄ト斃死ノ欄トノ雙方ニ記入スヘシ
- 四、撲殺セシモノモ斃死欄ニ記入スヘシ

第二八山 羊

1105

第二九 鶏

第二九 鶏

(報告期其ノ年八月限)

大正何年六月末日現在

110K

備考	卵産 (自何年七月 至何年六月)	成 鶏		計	飼養戸數							
		雄	雌		計	十羽未滿	十羽以上 五十羽未滿	五十羽以上	△百羽以上			
						數	量	價	額	一羽ニ付價格		

(注意)

一、雞ハ孵化後六箇月未滿ノモノヲ記入スヘシ

△産卵ハ前年七月ヨリ其年六月ニ至ル一箇年間ニ於ケルモノヲ計算スヘシ此ノ区分ヲナシタルハ蓋三月ヨリ六月迄ハ産卵ノ旺盛期ニシテ七月以後ハ著シク減少スルノ期節ナルヲ以テナリ
△雌一羽産卵數ハ一箇年通例百三四十箇内外ナルヘキモ種類ニ依リ差違アルヲ免レヌ尙次項記載ノ點ヲ參看スヘシ
△一羽ニ付キ價格不明ノ場合ハ六月末日ニ於ケル市場相場ヲ以テ計算スベシ
△雞卵箱詰法、支那卵ハ一箱ノ量目二十二斤乃至二十三斤ニシテ一斤ニ付十六箇、一箇十匁内外ヲ普通トス粒ノ大小ニ依リ一箱當卵數ヲ左記ニ區分セリ

天津
大 中 小
上 海

三六〇 二八〇 三〇〇 三六〇

内地産ハ一箱四匁ノ標準ニシテ粗糠三升内外ヲ敷キ石油函詰トナス卵數ニ應シ一段宛ノ並列卵數ニ差アリ左ノ如シ

並列段數

二百六十箇詰	一段ノ並列卵數
二百八十箇詰	二十七箇、最後三十八箇
三百箇詰	四十一箇
三百五十箇詰	四十三箇、最後四十二箇
	五十一箇

△雞卵鑑定、目方重ク、透シ見ルニ透明ニシテ、兩端ヲ舌又ハ唇ニ觸ル、ニ鈍端温カク、尖端冷カニシテ、一割ノ食鹽ニ混セル水中ニ入ル、ニ沈下シ、卵殼厚ク且ツ洗滌シタル形跡ナキヲ良品トス

第二九 鶏

110セ

△家禽調査法、千葉縣匝瑳郡ニ於テ去明治四十年六月實行シタル方法ハ翌四十一年千葉縣訓令トナリ同縣下一般ニ施行セラレ其ノ後滋賀、石川、富山等各縣ニ於テ實施セラレ其ノ成績頗ル良好ナリ、隨テ其ノ方法周知セラレ居レルモ尙參考ノ爲之ヲ掲クレハ左ノ如シ

尤小學兒童ヲシテ統計調査ヲ行ハシムルハ計數的觀念ノ養成、産業及經濟上ノ知識ヲ與フルニ於テ利益尠カラサルヘシト雖之ニハ(一)調査事項ノ最モ簡易ナルコト(二)調査事項ノ性質兒童ニ快感ヲ與フルモノナルコト(三)學校授業ノ妨害トナラサルコトニ注意スルヲ必要トス

家禽統計調査法

小學校兒童をして家禽の調査を行はしめたるは去明治四十年六月千葉縣匝瑳郡の舉を以て本邦に於ける嚆矢とす其の翌年千葉全縣に之を施行し効果尠からず爾後二三地方に於ても亦之を試み統計思想普及と兒童教養上實効多しとなせり當時千葉縣に於て刊行したる家禽統計書に曰「國勢調査ノ必要ナルハ多年我國朝野ノ間ニ唱導セラレ既ニ之ニ關スル國法ノ制定セラル、アルモ未タ之カ實行ヲ見ルニ至ラサルハ深ク遺憾トスル所ナリ是レ畢竟國民ノ需要其ノ急ヲ告クル切實ナラサルノ致ス所ナリト雖尙モ事ヲ將來ニ畫スルモノ既往ヲ尋ネ現狀ヲ詳ニスルニアラスンハ焉ソ能ク過ナキヲ得ンヤ近年各府縣ニ於テ生産調査ノ盛行ハル、モノ謂レナキニアラサルナリ然レトモ其ノ調査ニ至リテハ依然舊套ヲ脱セス未タ精確ナル單位觀察ノ方法ヲ適用シタルモノ稀ナリ然ルニ本縣亦其ノ一ニ洩レス家禽ノ飼養數ニ於テ名聲全國ニ冠タルモ計數ノ基ク所單ニ町村ノ報告ニ止マリ嘗テ自ら單位觀察ヲ行ヒタルコトナシ嚆キニ匪瑳、山武ノ二郡ニ於テ小學兒童ヲ用キテ家禽ヲ調査シタル成績ニ鑑ミ之ヲ全縣下ニ應用スルノ難事ニアラサルヲ見ルヤ明治四十一年六月郡長ニ訓令シ同年七月十日ヲ期シ小學兒童ヲシテ家

禽飼養者ニ就キ其ノ實數ヲ計査シテ之ヲ一定ノ原票ニ記入セシム次テ又客年六月末日現在ニ據リ七月一日第二回ノ調査ヲ續行セシメタリ而シテ此ノ原票ヲ基礎トシ集計調製シタルモノ即チ本書ノ載スル所ニシテ一見誠ニ渺タル冊子ナリト雖之カ爲ニ勞シタル小學兒童約八萬五千小學校職員及ヒ町村吏員約二千五百其ノ調査ヲ受ケタル家禽飼養戸數實ニ十五萬ヲ算セリ而シテ其ノ收ムル所縣下家禽ノ一調査ニ過キスト雖小學兒童ニ附與シタル教育的効果、縣民一般ニ鼓吹シタル統計的趣味及ヒ縣下重要ナル農家副業ノ狀態ヲ精確ニ知得セシメタル利益ニ至リテハ蓋シ量ルヘカラサルモノアラン況ンヤ亦國勢調査ヲ實行スルニ際シ多大ノ便益ヲ與フルモノアルニ於テオヤ云々」と今や國勢調査の施行目録の間迫るの時統計講習會を開キ聽講者ノ爲特に該縣に於ける家禽調査の由來、其の効果、並調査標準を印刷し本縣家禽統計表、國勢調査申告書用紙等と共に之を配付する所以のものは蓋し此の講習の効果を以て一層著大ならしめ本縣統計の改善に資せしめんとするに外ならず希くは此の意を諒とし各自町村に歸りて統計思想の普及徹底に努めらるゝと共に益單位觀察の改良進歩に貢獻せられんことを望む(本調査法ハ大正七年七月兵庫縣統計講習會ノ際一般講習生ニ配付シタルモノナリ)

第一 小學兒童家禽調査

縣下小學兒童ヲシテ家禽調査ニ從事セシメタル趣旨目的ヲ明ニシ竝其來歴ヲ記念センタメ去ル明治四十一年六月第一回調査ヲ施行セントスル際、本縣内務部長ノ各郡長へ通牒ノ要領ヲ左ニ摘載スヘシ

軌近産業ノ進歩發達ニ伴ヒ統計ノ需要益々増加シ諸般産業行政ノ施設經營上一ニ其基準ヲ之ニ求ムルニ至レリ然レトモ現今統計機關ハ其設備未タ完全鞏固ノ域ニ達セス從テ其蒐集統計セル原材料ノ内容ヲ窺フトキハ往々缺漏不完全ニシテ事理明瞭ナラサルモノ多ク爲メニ世人ノ意ニ副フ能ハサルノ憾アルノミナラス若シ輕忽ニ之ヲ利用スルニ於テハ却テ人ヲシテ論理ヲ誤ラシムルハ深ク憂フヘ

キ所ニ有之候而シテ願テ目下ノ情況ニ鑑ミ改善ノ方法如何ト謂フニ先ツ各種統計材料ノ性質特ニ其輕重緩急等ヲ考量シ比較的簡易ニシテ要領ヲ得ラルヘキ手段方法ヲ講シ漸ヲ以テ完璧ヲ圖ルノ外無之事ト思量ス……今ヤ本縣農家ノ副業トシテ一般ニ普及且ツ將來益々獎勵發達ノ望アルモノハ先ツ指ヲ養蠶及家禽畜ニ屈スヘキハ是レ何人モ首肯スル所以トス故ニ此極メテ重要ナル産業ニ對シ確實ニシテ信憑スヘキ統計ヲ製シ之ヲ基礎トシテ其變遷消長ノ狀態ヲ知ルハ勿論斯業ト農家ノ經濟的關係ハ如何前途發展ノ餘地乃至改良ノ方策ハ奈何審ニ之カ利害得失ヲ講究スルノ必要アルハ是レ又多辯ヲ俟タサル所トス於是蠶業ニ就テハ曩年原票ヲ以テ各町村齊一ノ材料ヲ蒐集シ爲メニ統計ノ根本漸ク鞏固ノ域ニ進ミツ、アリト雖家禽及家畜ノ統計ニ至リテハ依然トシテ樣式法ニ依リ臆測的調査ヲ爲スヲ以テ其表章シタル計數ニ就キ仔細ニ觀察ヲ下ストキハ往々事實ト徑庭ヲ生スルモノアリ此時ニ當リ客年六、七月ノ頃匝瑛、山武ノ二郡ハ他郡ニ率先シテ家禽ノ調査ト原票ヲ採用シ而モ小學校兒童ヲシテ專ラ調査ノ任務ニ當ラシメタリシカ其執行ハ最圓滿ニ局ヲ結ヒ且ツ比較的正確ナル統計ヲ作製スルヲ得從テ統計ノ趣味ト教育ノ効果ヲ世上ニ發揚スル等好模範ヲ示スニ至リシハ甚タ喜フヘキ事ナリ……倍其調査ノ順序手續ハ如何ト云フニ小學校長ハ町村役場ニ圖リ豫メ其學區内ノ現住戶數ヲ調査シ次ニ養蠶戶數ヲ知リ之ニ據リ家禽臺帳ヲ設備シ小票一枚毎ニ飼養者ノ氏名ヲ記入シ更ニ大字毎ニ監督職員及兒童ノ受持區域ヲ定メ調査當日ニ至レハ職員及町村吏員指導ノ下ニ於テ兒童ハ小票ヲ携ヘテ一齊ニ各戶ニ就キ票中ノ諮問事項ヲ尋問シ其答申ニ依リ小票ニ記入ス完全ニ小票ノ記入ヲ了レハ番號ヲ揃ヘテ直チニ學校長又ハ監督職員ニ提出シ而シテ學校長ハ總テノ小票ヲ整頓シタル上ハ更ニ統計表ヲ調製シ町村長又ハ郡長ヘ對シ發送ノ手續ヲ爲スニアリ

調査ノ手續ハ如斯簡單ニシラ僅ニ二、三時間ノ内ニ縣下全般ノ材料ヲ蒐集シ得テ報告ヲ爲ス其狀恰モ家禽「センサス」ヲ行フニ異ナラス客年四月二十五日午後十二時ニ期シテ執行セシ熊本市ノ職業

調査ニ縣立熊本商業學校本科三年級生徒四十名ヲ以テ名譽調査員ト爲シ遍調員ノ一部ニ充テ統計ノ實習ヲナサシメタルハ美談トシテ世上ニ傳ヘラレシカ未タ我カ帝國内ニ於テ小學校職員及兒童ヲシテ統計ノ調査ニ從事セシメタルヲ聞カス是レ統計思想ヲ根本的ニ普及涵養シ又一面ニハ教育ト産業ノ接近ヲ圖ル上ニ於テ一種ノ好案ト謂フモ敢テ誣言ニ非サルヲ信ス……仍テ尙ホ左ニ其調査結果ノ一斑ヲ掲ケ以テ事實ノ適否ヲ比較講究スルノ資料ニ供セントス即チ山武郡ハ第一回原票調査ノ當年ナル明治四十年ノ事實ト其施行前二箇年間ノ統計ヲ對照シ又匝瑛郡ハ本年五月一日第二回ノ原票調査ヲ施行シ既ニ其成績ヲ發表シタルニ依リ其結果ヲモ併セ前後四箇年ノ計數ヲ擧ケテ之ヲ比較スルニ兩郡共飼養戶數及羽數ニ於テ俄然著ルシキ増減異動ヲ生シ特ニ產卵ハ實ニ驚クヘキ増加ヲ示セリ夫レ斯ノ如ク一期ニシテ多大ノ變化狀態ヲ示ス是レ寧ロ調査方法ノ如何ニ基因スルモノニシテ統計上最注意ヲ要シ又頗ル研究ニ値スヘキ現象ナリトス云々（調査結果ノ上比較對照表及表示ノ計數ニ付適否ヲ論究シタルモノアレトモ煩ヲ避ケンカ爲省略ス）

以上匝瑛、山武二郡ニ於ケル家禽調査ノ方法手續及調査結果ノ一斑ヲ論述スル所ヲ以テ見レハ第一原票ノ設問事項ハ簡單ニシテ明瞭ナ、從テ又之ニ對スル答ハ兒童ト雖要領ヲ得ルニ苦マズ而モ兒童ハ一意唯タ現在ノ事物ヲ明瞭ニ知ランコトヲ努メ臆測又ハ捏造ヲ爲スノ弊害ナク統計ノ調査上一種ノ特長ヲ有スルヲ以テ其蒐集シタル材料ハ公正ニシテ疑ナク爲メニ統計ノ單位ヲ確實ニシ兼テ其信用ヲ保有シ得ラル、等効益甚タ尠ナカラサルヲ認ム就テハ本縣下家禽統計ノ根本的改善ヲ圖ランカ爲メ右兩郡ノ調査法ヲ參酌シ別項ノ通原票調査標準ヲ定メ本年ヨリ實行セシメントス

第一 家禽調査ノ効果一斑

本調査ハ小學校長及兒童ノ勤勞ニ依リ第一回及第二回ノ調査トモ豫期ノ如ク全縣下家禽ノ實數乃至可

信的推定ノ原數ヲ求メ得テ其狀態ヲ審ニシ産業上貴重ナル統計ヲ作成スルニ至リシハ勿論尙ホ之ヲ國民教育ノ方面ヨリ觀察シテ頗ル有効ノ事業ナルヲ信ス仍テ爰ニ各郡及小學校長ノ調査報告文ヲ參酌シ綜合的ニ其效果ノ二、三ヲ揭ケ聊カ述フル所アルヘシ

(1) 統計思想ノ養成ト兒童ノ特性

統計トハ如何ニ爲スヘキモノナルカ特ニ原票調査ハ統計ノ單位ヲ正確ニスル上ニ於テ幾何ノ價值ヲ保有セラル、モノナリヤトノ問ハ此調査ニヨリ難ナク理解セラレタリ即チ小學兒童ヲシテ其手續方法ノ大體ト統計ノ趣味ヲ知ラシメ之ト同時ニ各自ノ記入シタル票中ノ數字ハ之ヲ集積セハニ村一郡乃至一縣一國ノ富ヲ表示スル極メテ大切ナルモノナルコトヲ悟ラシメ其結果字劃ヲ正シクシ數字ヲ明瞭ニ記シ且計算ヲ確實ニスル等一票一字タリトモ粗忽ニセス責任ヲ重シテ調査ニ從事スヘキ觀念ヲ惹起スルニ至レリ而シテ兒童ノ正直ニシテ靈描若クハ偏頗ニ陥ルノ弊ナク加フルニ事ヲ爲ス敏捷ニシテ勞苦ヲ厭ハサルノ特性ヲ有スルヲ是恰モ我國統計ノ鼻祖杉法學博士ノ統計家十戒ノ一ナル「統計ハ事實ヲ主トシテ一意之ニ據ルヘシ」トノ金言ニ適中シタルモノニシテ本縣家禽調査ノ廣ク世人ノ注目ヲ惹キ其統計ノ信用ヲ博スルニ至リシ所以ナルヲ信ス

(2) 産業ト教育ノ接近

家禽ノ調査ハ産業ト教育トヲ一致セシムル連鎖ニシテ多年學校ニ於テ習得シタル智識及技能ヲ實地活物ニ對シ應用シタルナリ何トナレハ兒童ハ此調査ニヨリ家禽飼養戸數ト所帶主トノ關係乃至家禽ノ種類成鳥ト雞ノ區分雌雄ノ配合産卵ノ多寡其他飼育ノ方法及卵肉ノ相場並輸出ノ狀況等産業上有益ノ智識ヲ得兼テ日常生活ノ狀態如何ヲ想到セシムルニ至テハ是レ産業ト教育トヲ實利的ニ接近セシメタル賜ナラスンハアラス佛國統計家「ルヴハヌー」氏曰ク凡ソ天下ノ事能ク之ヲ知ルニアラザレハ能ク之ヲ管理スルコト能ハスト將來自治體ノ良民タラシムヘキ兒童ヲシテ産業思想ヲ事實的ニ

扶植スル豈ニ無用ノ業ナリトセンヤ

(3) 活キタル教材ト處務的觀念ノ養成

家禽ノ調査ハ先ツ兒童各自カ實物ニ就キ一々數ヘ量リタルモノヲ一枚ノ小票ニ記入シ而シテ記入シタル小票ハ之ヲ學校ニ集メ臺帳ニ照合シテ檢査ヲ施シ重複脱漏若ハ誤謬アルニ於テハ更ニ再調査ヲ命シ完全ナルヲ認メタル上之ヲ分類綜合シテ一ノ統計表ヲ作成スルモノナレハ始終計數的思想ヲ離レサルヲ以テ精緻ナル觀察力ト秩序の周到ノ用意ヲ以テ事物ヲ處理スルノ才能ヲ養成スル好手段ト爲スニ足レリ又其結果ハ一村一箇年ノ生産力ヲ證明サル、ハ勿論更ニ之ヲ前年累年若ハ他町村ニ對比シテ多寡増減ノ實數ヲ知悉スルト共ニ累年ノ指數及増減ノ割合ヲ現ハシテ以テ盛衰消長ヲ較量スルノ尺度ト爲シ尙ホ進ンテ現住戸數或ハ農家戸數ニ對スル養鶏戸數ノ百分率ヲ求メ又平均一戸ノ飼養羽數及一日ノ産卵數ヲ算定シ一戸ノ生産額(主トシテ卵價)ヲ推計シ或ハ雌雄ノ配合歩合ヲ知リ以テ養鶏業普及ノ程度ト利害得失ノ關係ヲ判斷スル等算術科地理科及農業科ノ應用手段トシテ趣味津津タル活材料ト爲スヲ得ヘシ

(4) 積小爲大ノ經濟的思想ト共同心ノ養成

例セハ本調査ノ結果ニ依リ全村一日ノ産卵數ヲ知リ之ヲ基準トシテ一箇月乃至一箇年ノ間ノ生産高ヲ推定シ更ニ其卵價ヲ積算シテ年計五千圓、七千圓若ハ壹萬圓ナル計數ヲ得タリトセハ之ヲ兒童ニ示シ此資金ヲ以テ立派ナル校舎ヲ建築サレ又ハ本村ノ歳費若ハ教育費ニ充用シ尙ホ綽々トシテ餘裕アルヘキヲ説キ而シテ此巨額ノ所得ハ元來零碎ナル落穂散穀ノ集積化成シタル結果ニ外ナラサルヲ論シ進ンテ小ヲ積ンテ大ヲ爲スハ經濟ノ基礎ナレハ微物小事タリトモ忽諸ニ附スヘカラサルヲ教フルニ於テハ兒童ハ益々生物好愛ノ念慮殖産興業ノ趣味及勤儉貯蓄ノ功德偉大ナルヲ感得シ又一面ニハ共同一致事ヲ爲スハ功ヲ收ムル速ニ益ヲ得ル多キノ理ヲ覺知スルニ至ルヘシ近時夷隅匪徒其ノ他

ノ郡内ニ學校事業トシテ養雛ヲ爲シ雛卵貯金會ヲ起シ卵代ヲ以テ授業料納付ノ資ニ充ツルノ舉アルカ如キハ即チ兒童ニ勤儉貯蓄ノ美風ヲ養ハシムルニ好適例トシテ見ルヘキナリ

(5) 言語及禮法ノ實習ト父兄ノ感想

家禽調査區域(尋常小學校設置區域ヲ以テ一調査區ト定ム)内ニ於ケル受持兒童ノ配置ハ可成上級生ト下級生トヲ組合セ又ハ各組ニ部長ヲ置キ年長者ヲ以テ之ニ充ツル等實行上努メテ遺憾ナカラシメンコトヲ期セリ爲メニ兒童ハ命令服從乃至責任ヲ重スルノ良習慣ヲ養ヒ又實地調査ニ從事シテ種々ノ營業者ニ接見スルカ爲メ平常學校ニ於テ修養セル訪問應接等禮儀作法ヲ練習シ感得スル所尠ナカラス而シテ學校職員及町村吏員ハ兒童監督ノ傍ラ多數ノ保護者及家庭ニ接觸スルノ機會ヲ得テ家庭ノ情況ヲ觀察スルノ便宜トナル爲メニ學校ニ對スル父兄ノ信頼ハ益々加重シ又父兄其他一般ニ小學校教育ノ價值ト其効果ヲ認メラレタルヲ以テ調査上何等弊害ヲ醸スコトナク無事圓滿ニ結了セリ蓋シ教育ノ光輝ヲ實地ニ發揚スルノ機會トナリ併テ統計ノ眞價ヲ保有スル大ナル原因トシテ特書スヘキ事トス

家禽調査法標準

第一 調査ノ時期

- 一 本調査ハ毎年七月一日午前中ニ於テ各町村共一齊ニ實行スヘシ
- 一 家禽飼養戸數及飼養羽數ハ毎年六月二十日午前六時ノ現狀ニ據リ調査シ産卵數ハ同日一日間ニ産出セシモノヲ調査第一號様式ノ小票ニ記入スヘシ
- 一 調査當日即チ七月一日ニ於テ若シ家人不在ナルトキハ一應隣家ニ就キ飼養羽數ヲ察知シ更ニ翌二日ニ於テ六月三十日午前六時ノ現狀ヲ調査スヘシ

第二 調査區域及準備調査

- 一 本調査ノ區域ハ各町村立小學校設置區域ニ依ル但シ一町村内ニ數校アル場合ハ便宜學持區域ヲ協定スヘシ
- 一 町村長ハ最近ノ現在ニ依リ現住所帶主ノ住所氏名ヲ調査シ遅クモ本調査執行ノ二週間以前學校ニ通知スヘシ
- 一 學校長ハ町村長ヨリ送付セル現住者調ヲ基礎ト爲シ更ニ調査ノ執行前ニ於テ其ノ擔當區域内ノ現住所帶主ヲ遺漏ナク調査シ様式ニ從ヒ字別ニ其家禽飼養者氏名ヲ登記シテ順次番號ヲ附シ受持兒童ノ配置ヲ定メ以テ家禽臺帳ト爲スヘシ但シ兒童ハ可成上級ノモノト下級ノモノトヲ組合セ配置スルヲ要ス
- 一 前項ノ手續ヲ經テ完全ニ家禽臺帳ヲ調製セハ之ニ據リ出票番號及飼養者並受持兒童ノ氏名ヲ小票ニ記載スヘシ
- 一 小票ノ準備終ラハ適當ノ時期ニ於テ之ヲ兒童ニ交付シ票中ノ設問事項ニ就キ詳細ニ説明ヲ與ヘ且豫メ實地調査ノ練習ヲ爲サシムル等周到ノ用意アルヲ要ス
- 一 家禽原票及家禽臺帳用紙ハ町村役場ニ於テ豫メ印刷ニ付シ學校長ノ要求ニ從ヒ遲滞ナク配付スヘシ

第三 調査ノ範圍及其方法

- 一 本調査ノ目的トスル家禽ハ左ノ四種類トス

第二九 鶏

- (1) 鶏
- (2) 鶯
- (3) 鶯
- (4) 吐綬鶏シチメンチ

一 鶏ハ雛及鶯ハ孵化後六ヶ月未滿、七面鳥ハ同十ヶ月未滿ノモノヲ以テ大體ノ標準ト爲シ記入スヘシ

一 家禽ノ飼養ニハ營業用、自家用若クハ營業及自家用ヲ兼ヌルモノ、區別アルヘキモ本調査ニハ其目的ノ何タルヲ同ハス總テ之ヲ網羅シ小票ニ記入スヘシ但シ問屋又ハ仲買業者ニシテ他ヨリ買収シタル産卵數ハ重複ナカラシムル爲メ調査スヘカラス

一 小票ハ飼養者一戸ニ付一票ツ、調査記入スルヲ以テ法ト爲ス故ニ同一ノ飼養者ニシテ鶏其他二種以上ヲ兼ネ飼養スル場合ニアリテハ各其種類ニ從ヒ相當欄内ニ列記スヘシ

一 産卵數ハ前日ノモノト混同セサランカ爲メ便宜ノ方法ヲ以テ豫メ家人ニ注意シ調査當日ノ産卵數ヲ判明ナラシムルヲ要ス

一 小票ノ記入ハ鉛筆ニテモ可ナリ但シ數字ハ誤記少ナカラシメンカ爲メ一二ト記セスシテ十二ト記入セシムルヲ要ス

第四 調査ノ監督

一 町村長ハ本調査ノ執行ヲシテ圓滿ニ局ヲ結ハシメンカ爲メ豫メ區長若クハ組長ヲシテ調査ノ主旨目的ヲ各飼養者ニ告知セシムル等安ンシテ兒童ノ尋問ニ應答セシムル手段ヲ講シ又調査當日ハ學校長ニ協力シテ指導監督ヲ爲スヘシ

一 兒童ニ於テ調査ノ誤解又ハ事實ノ脱漏ナカラシメンカ爲メ學校長ハ調査ノ當日ハ部下職員ヲシテ實地ニ就キ周密ノ指導監督ヲ爲サシムヘシ

第五 材料ノ整理及結果表ノ調製

一 兒童ニ於テ調査記入セシ小票ハ學校長ニ於テ一々家禽臺帳ニ照合シテ番號ヲ改メ若シ票數ノ不足又ハ記入上誤謬ヲ發見シタルトキハ直ニ再調査ヲ爲サシムヘシ

一 完全ニ小票ノ調査結了セハ學校長ハ之ヲ集計シ(第三號)様式ニ從ヒ家禽表ヲ調製ノ上小票ヲ添付シ七月五日迄ニ町村長ニ送附スヘシ但シ飼養戸數、羽數及産卵數等前年ニ比シ著ルシキ増減アルトキハ其ノ事由ヲ探究シテ備考ニ説明スヘシ

一 學校長ハ本調査ノ準備及實施ノ狀況並教育上ニ及ホセル效果ノ如何等參考トナルヘキ事項ヲ集録シテ家禽調査要録ヲ製シ之ヲ町村長ニ提出スヘシ

一 町村長ハ學校長ノ提出セシ家禽表及小票ヲ精密ニ検査シ其計數ノ適正ニシテ完全ノ調査ナルヲ認メタルトキハ更ニ全町村ノ家禽表ヲ(第四號)様式ニ從テ調製シ調査要録ヲ添へ七月十日迄ニ郡長ニ提出スヘシ但シ小票ハ役場ニ於テ調査上永ク保存ノ必要ナキニ於テハ便宜處分スヘシ

一 郡長ニ於テ町村長ノ報告ヲ受ケタルトキハ更ニ前項同様ノ検査ヲ施シ(第五號)様式ニ從ヒ鶯、鶯、吐綬鶏ノ一種類毎ニ町村別(町村名ハ表頭ニ列記ス)結果表ヲ調製シ七月末日迄ニ各學校長ノ提出セシ調査要録ト共ニ本縣ヘ報告スヘシ

一 農商務統計様式ニ據ル家禽表ハ此際ニ限リ別ニ提出スルヲ要セス

第六 飼養戸數ノ表記區分

一 飼養戸數ハ實戸數ト重複戸數トヲ區別シテ見ルノ必要アルニ依リ第三號乃至第五號様式中實戸數ハ重複ナル方ニ計上シ重複戸數ハ朱書ヲ以テ區別スヘシ

一 重複戸數トハ同一ノ飼養者ニシテ數種類ノ家禽ヲ飼養スルモノヲ云フ例ヘハ養鶏戸ニシテ鶏ノ外ニ鶯、鶯、吐綬鶏ノ一若クハ二以上ヲ併セ飼養スル場合ハ鶏ノ戸數(即チ實戸數)ハ墨書シ其他ノ

第二九 鶏

一 戸數(即チ重複戸數)ハ之ヲ朱記スルカ如シ
 前項ノ實戸數ト重複戸數ノ區別ヲ爲スニハ小票ニ記載スル飼主ノ氏名ニ依リ分類計査スルヲ以テ便ナリトス

第七 産卵ノ計算及記入方

一 産卵ノ計算法 家禽ノ産卵數ハ農商務統計ニ於テハ前年七月ヨリ其年六月ニ至ル滿一箇年間ノ總産出高ヲ計上スル法ナレトモ年中間斷ナク之ヲ計査シテ絶對的確數ヲ得ルハ實際不可能ノ事ナリ依テ本調査ニ於テハ年中比較的産卵數ノ平準ヲ得タル季節ト思量セラル、六月三十日ノ産卵數ヲ小票ヲ以テ實計シ之ヲ基礎ト爲シ一箇年間ノ産出高ヲ算定スルモノトス(即チ小票ニ記入セル一日ノ産卵數ヲ合計シ之ヲ三百六十五倍シタルモノヲ以テ一箇年ノ産出高ト見做ス)

二 産卵數ノ記入方 (第三號)様式ニ依ル家禽表ノ産卵個數ハ小票ヲ以テ實計セル一日間ノ産卵數ヲ禽種別ニ集計シタルモノヲ記入ス又(第四號)及(第五號)様式ニ依ル家禽表ノ産卵個數ハ前項ノ計算法ニ從ヒ一日間ノ實數ヲ基礎ト爲シ一箇年間ノ總産出高ニ積算シタルモノヲ記入スルモノトス

第八 價額ノ計算法

一 農商務統計報告ノ生産價額ハ一般卸賣相場(問屋ヨリ小賣商人ニ賣渡ス直段)ヲ以テ標準ト爲セトモ家禽及産卵價額ハ便宜上生産者ヨリ地方仲買人ニ賣渡ス直段ニ依リ計算スヘシ
 前各項ノ外産業上參考ノ爲メ一種類五十羽以上ノ飼養者氏名ヲ小票ニ就、町村役場ニ於テ調査シ(第四號)表中ニ掲載スヘシ

(第一號様式) 監督職員檢印

出標 番號 第	飼主氏名	家 ^カ 禽 ^カ 票 ^カ				おやどりの めんどり(雌) をんどり(雄) 計	ひなの かす (雛羽數)	一日の中 に うみたる 卵 のかす
		には どり (鶏)	あ ひ る (鶯)	が て う (鶯)	し ち め ん て う (吐殺鶏)			
		羽	羽	羽	羽	羽	羽	箇
		羽	羽	羽	羽	羽	羽	箇
		羽	羽	羽	羽	羽	羽	箇
		羽	羽	羽	羽	羽	羽	箇

鳥は
大正 年六月三十日午前六時に居り
た
る
か
す
卵に
同 六月三十日中にうみたるかす
調
ぶ
る
時
は
大正 年七月一日午前中

受持兒童

高等
小
學
校

此票は飼主一戸につき一枚づつ調べ書き入るゝものなり ○此票は税金をかくるため
 ぶるものにあらず小学校兒童に統計の實習をなさしむるためのものなり

(第二號樣式)

家禽調查臺帳		大正 年六月三十日現在			
町村字名	飼養者氏名 (所帶主)	原票番號	受持兒童氏名	摘	要
計					

(第三號樣式)

家禽表		大正 年六月三十日現在							
計	吐 綬 鶏	鶯	鶯	鶏	飼養戸數		飼養鳥數		產卵箇數
					未十羽以上	未十羽以上	雌	雄	
					滿十羽以上	滿十羽以上	計	計	
前年ニ對シ増減ノ理由									

右 及 報 告 候 也

大 正 年 七 月 日

町 長 氏 名 殿

高 等 小 學 校 長

氏 名 印

第二九 鶏

(第四號様式)

前年ニ對シ増減ノ理由	計	吐綬鶏	鶯	鶯	鶏	飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		
						未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽

大正 年六月三十日現在 何町村 主任者印

右及報告候也
大正 年七月 日

郡長氏 名殿

町長氏 名印

注意
本表ノ個校ノ
産卵數
長ノ七ノ
音ノ七ノ
三ノ七ノ
十ノ七ノ
三ノ七ノ
五ノ七ノ
ノ七ノ
スノ七ノ

(第五號様式)

注意
鶯、鶯、鶯
吐綬、吐綬、吐綬
モ、モ、モ
ニ、ニ、ニ
調、調、調
製、製、製
ス、ス、ス

町村名	飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數		飼養戸數	
	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上	未滿十羽	十羽以上
町村名																				

家禽表 (鶏ノ部)

大正 年六月三十日現在 郡

主任者印

第二九 鶏

第二九 鶏

△雞ノ原産、品種

雞ノ原産ハ印度ノ野雞ナリト謂フ、之ヲ家禽トシテ飼育セルハ恐ラク何千年ノ昔ナラン、今ヨ
 リ三千年前ニハ支那ニ傳ハリ、之ト前後シテベルシャ、中央亞細亞等ニ弘マリ、更ニ埃及方面
 ロシア及中部歐羅巴方面ニ傳ハレリ、歐洲ニ於テハ夙ニ養雞ノ事開ケ、人工孵化法、去勢法ノ如
 キ亦早く發明セラレタリ、日本ニ於テモ神代ノ頃ヨリ雞ノ存セシコト明カナリ、亞米利加ノ養
 雞ハ最も新シク、新世界發見後、歐羅巴ヨリ入りテ、漸ク弘マレリ、カク雞ノ飼育ハ概シテ頗
 ル古ク、シカモ世界各地到ル所トシテ、之ヲ見ナルナシ、中ニ就キ、現今飼養ノ最も盛ナルハ
 亞米利加、佛蘭西、獨逸、英吉利及伊太利等ニシテ、支那モ亦有數ノ養雞國ナルヘシト雖、統
 計ノ徵スヘキモノナク、明ニ之ヲ證スルコト能ハス、我國ニ於ケル養雞業モ近來漸ク盛大ニ赴
 キタレト、未タ歐米ノ如クナル能ハス、雞ノ品種ハ用途ニヨリテ亞細亞種、地中海沿岸種、佛蘭
 西種、ポーラント種、亞米利加種土耳其種ノ七種ニ分ツヘシ
 兵庫縣ニテハ明治三十六年農事試驗場園藝部ノ創設ニ際シ農家ノ副業トシテ之ヲ獎勵シタルカ
 大正七年ノ頃白色レグホーン、褐色レグホーン、黒色ミノルカ、横斑ブリモースロツク、黒色
 オーピントン、名古屋コーチン等ノ種卵ヲ拂下ケ之カ發達ヲ圖レリ
 本邦ニ於ケル養雞業ノ盛ナルハ千葉縣、愛知縣ナルカ、愛知縣ニテハ愛知郡、碧海郡、丹羽郡
 最も盛ナリ、而シテ同縣ノ産卵ハ全國各地ハ勿論近次北米シャートル地方ニモ輸出スルニ至
 リタル爲同縣農會ニテハ益ノ力獎勵ヲナシ、品種ヲ名古屋種、三河種、白色レグホン、黒色ミ
 ノルカノ四種ニ限定シ養雞獎勵規程、雞卵改良補助規程ヲ發布シ斯業ノ改良發達ヲ企圖セリト
 謂フ

イ	種岸沿海中地				種亞細亞				産地	體格	一年産卵量	卵殻	冠	耳朶	尾	脚	羽毛	用途	本邦雜種						
ク ハン パー	ン レ グ ホー	シ ヤ ン ダ ル	ア ン ダ ル	ユ バ ニ シ	ミ ノ ノ カ	ス バ ニ シ	長 尾 雞	矮 雞	鳥 骨 雞	マ レ イ	ヤ ン グ シ	ラ ン グ シ	ブ ラ マ	コ ー チ ン	支那北部 印度アラ マフトラ 河附近	膨大 ヨリ稍大	約二〇〇	二五 黄	單 冠 三枚	赤	短	羽毛 アリ	肉用	名古屋コーチン 一六〇箇一四ヲ	
	イ タ リ ヤ	ア ス バ ニ シ	ア ス バ ニ シ	ア ス バ ニ シ	ア ス バ ニ シ	ア ス バ ニ シ	高知縣 外 貌 壯 麗	支那及 我國 支那	支那及 我國 支那		滿洲地方	滿洲地方	滿洲地方	滿洲地方	支那北部 印度アラ マフトラ 河附近	強健 直 立									類 似 種 ア ン コ
	質 強 健	質 強 健	質 強 健	質 強 健	質 強 健	質 強 健																			
體 軀 小	質 強 健	質 強 健	質 強 健	質 強 健	質 強 健	質 強 健	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立	強健 直 立
三 〇	一 九 〇	一 六 〇	一 七 〇	一 八 〇	一 六 〇	一 六 〇																			
二	同	同	同	同	同	同																			
蓋 薇	單 冠	單 冠	單 冠	單 冠	單 冠	單 冠																			
耳 白	白	白	白	白	白	白																			
灰 色	黃 色	白	白	黑	黒	黒																			
黒 金 銀 斑 紋 銀	褐 白 黒 銀	青 灰 色 黒 輪	黒 白	黒 白	黒 白	黒 白																			
卵 用	同	同	同	同	同	同																			
	ナ	類 似 種 ア ン コ	カ ノ 雜 種	黒 、 白 ミ ノ ル	姿 勢 直 立 風 采 麗	姿 勢 直 立 風 采 麗	現在親鳥二十羽内 外ニ過キス	テ ヤ ボ、 パ ン ダ ム	チ ヤ ボ、 パ ン ダ ム	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	頭 長 ク、 肩 廣 ク、 背 急 ニ 斜	

種	ス	リ	ギ	種	ス	ラ	フ	種	メ	ア	ラ	ラ	ラ	飼養戸數				計	雄	雌	雛	備考								
														十羽未滿	五十羽以上	五十羽未滿	△百羽以上													
ドーキン	質弱	趾五本	八〇	白	單又淡赤	暗	白、銀灰、	肉用	肉白色美味	我國ニテハ多	烏	ポ	リ	ツ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	
グーピン	強健	體軀大	一〇〇	淡灰	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ト	ス	コ	ツ	チ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
ケン州	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ノ	ラ	ン	ド	ツ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
ト	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	オ	ラ	ン	ド	ツ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
ス	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ク	レ	ー	チ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
グ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	コ	ウ	ツ	チ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ス	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	コ	ウ	ツ	チ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
コ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ウ	ー	ダ	ン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ラ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ウ	ー	ダ	ン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
フ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ウ	ー	ダ	ン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ア	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ウ	ー	ダ	ン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
メ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ド	ミ	ニ	ク	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
カ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ド	ミ	ニ	ク	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
リ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ド	ミ	ニ	ク	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第三〇 鷄

(報告期其ノ年八月限)

大正何年六月末日現在)

種	ス	ラ	フ	種	メ	ア	ラ	ラ	ラ	飼養戸數				計	雄	雌	雛	備考													
										十羽未滿	五十羽以上	五十羽未滿	△百羽以上																		
ドーキン	質弱	趾五本	八〇	白	單又淡赤	暗	白、銀灰、	肉用	肉白色美味	我國ニテハ多	ウ	ー	ダ	ン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
グーピン	強健	體軀大	一〇〇	淡灰	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ト	ス	コ	ツ	チ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
ケン州	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ノ	ラ	ン	ド	ツ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
ト	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	オ	ラ	ン	ド	ツ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ス	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ク	レ	ー	チ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
グ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	コ	ウ	ツ	チ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ス	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	コ	ウ	ツ	チ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
コ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ウ	ー	ダ	ン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ラ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ウ	ー	ダ	ン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
フ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ウ	ー	ダ	ン	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
ア	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ド	ミ	ニ	ク	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
メ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ド	ミ	ニ	ク	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
カ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ド	ミ	ニ	ク	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
リ	強健	體軀大	一〇〇	白	單	暗	黒、	卵肉兩用	肉白色美味	我國ニテハ多	ド	ミ	ニ	ク	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

(注意)

第三〇 鶯

二二八

一、雛ハ孵化後六箇月未滿ノモノヲ記入スヘシ
 △鶯ハ家鴨トモ書ス、モト鳥ノ人爲陶汰法ニ依リ變成シタルモノナリ、其ノ良種ハ左ノ如シ
 肉用 エールスバリー(英國) ルーアン(佛蘭西)
 卵用 ベキン(支那)カユীগ(北米)マスカビー(南米)インデアランナー(東印度)
 愛玩用 コール、イーストインデヤ
 其内一二體量等ハ左ノ如シ

種	體量		産卵ノ始メ	産卵ノ一箇年間 産卵數	卵量	卵殼
	雄	雌				
エールスバリー	一一〇	〇八〇	八月	八〇	一九	白
ベキン	〇七五	〇六五	八月	九〇	二〇	同

卵ハ雞卵ヨリモ大ニシテ之ヲ煮ルトキハ卵黄ニ青色ヲ帶フ且多少泥臭シ卵ノ孵化ハ通例二十八日ニシテ雛ノ成長雞ヨリ速カナリ

第三一 七面鳥

(報告期其ノ年八月限)

大正何年六月末日現在

備考	産卵(自何年七月至何年六月)	成七面鳥		飼養戸數 (年末現在)	計			額	一羽ニ付價格
		雄	雌		十羽未滿	十羽以上 五十羽未滿	五十羽以上		

(注意)

一、雛ハ孵化後十箇月未滿ノモノヲ記入スヘシ
 △七面鳥又吐綫雞、白露雞ト稱ス北亞米利加ノ原産ニシテ、現今諸國ニ飼育ス頭部頸部ハ裸出シ

第三一 七面鳥

二二九

第三一 七面鳥

三三〇

テ、肉冠肉瓣ヲ具ヘ、伸縮自在ナル一種ノ皮肉アリ、伸フルトキハ嘴ヨリ一二寸長ク垂レ、縮ムル時ハ前頭部ニ小塊ヲナシ、時々色ヲ變シ、白色、淡青色、藍青色、紫色、紅色等ヲ呈ス、故ニ七面鳥ト謂フ、形雞ニ似テ大キク、性モ亦同シ只喉部ニ垂肉アリ、又其ノ雄ニハ時々腰部ノ羽毛ヲ逆立テ、尾ヲ團扇ノ如クニ開ク特性アリ、抱卵三十日ニテ孵化ス、雛ハ頗ル薄弱ニシテ最モ雨ヲ厭ヒ微雨ニ會フトモ斃ル、コトアリ、飼育甚タ困難ナリ、サレトモ滿二歳半以上ノモノ、産卵ヨリ孵化シタルモノハ健康ニシテ、肉食セシムレハ其ノ成長早シ此ノ鳥ハ青物ヲ嗜ミ雛モ亦蒲公英及葱ヲ好ム、其ノ初メテ歐洲ニ知ラレタルハ、十五世紀ノ終、十六世紀ノ初頃ニシテ亞米利加發見ノ數十年後ナリ、羽毛ハ裝飾用トシテ肉ハ西洋料理ニ用ユ、外國ニテハ基督誕辰祭(クリスマス)ノ際全形ノ儘食饌ヲ飾ルヲ以テ甚タ之ヲ珍重ス、從來我國ニテハ生育セズト稱セラレシモ、近時漸ク氣候ニ適化セルモノアリ、千葉縣九十九里濱附近ニテハ盛ニ之ヲ飼育ス、飼育ノ適地ハ乾地、砂地ニシテ生後二箇月頃ハ最モ注意ヲ要シ體ノ濕フヲ避ケサルヘカラス雄一羽ニ八羽乃至十羽ノ雌ヲ配ス産卵ハ三四月ノ候ト八九月ノ候ト二期アリ其ノ種類左ノ如シ

野生七面鳥……容姿威アリ外觀美、羽毛青銅色、孵化後二年ニシテ産卵、其ノ數一箇年三四十箇ヨリ六十箇、體重二貫五六百目乃至三貫目

青銅色七面鳥(ケンブリッヅ種)……外觀前者ニ似タリ、體質頗ル強健、成長早ク、皮肉實用ニ適ス孵化後八箇月ニシテ産卵ス、産卵一箇年百箇ヨリ百八十箇、卵ノ重量十五匁ヨリ三十二匁此ノ種ニハ銅色、鹿ノ子色、灰白色等アルモ青銅色ヲ優種トス

カムブライダ七面鳥(黒色吐綬雞、ノーフォーク)……骨逞シク、脚長ク、容姿端麗、成長速ニシテ、肉充實ス、羽毛銅色ニシテ灰白色、又ハ白色ノ鷹羽樣斑紋アリ

白色七面鳥(ホワイトホルランド)……形貌前者ト同シ、羽毛純白、頭頸部紅色、藍色ヲ呈シ、

且胸部ニ灰色、灰白色、黒色等ノ毛アリ、外觀美麗ナルモ體質薄弱飼育困難ナリ

渡邊農商省統計課囑託ノ産業統計要論ニ曰大正十年十一月二十四日米國大使館始メ東京代々木志賀重昂氏邸ニ於テ感謝三百年祭ヲ行フ、感謝三百年祭トハ今ヨリ三百年前米國人ノ祖先タル一百ノ清教徒新大陸ニ上陸(英帆船メーフラワーニヨリ現在ノボストン附近)スルヤ土人ニ襲撃サレ食糧ハ奪ハレ將ニ餓死セントシタル時、同地野生ノ火雞即チ七面鳥ト玉蜀黍トヲ食ヒ餓死ヲ免カル、翌年感謝ノ意ヲ表スル爲七面鳥ヲ供ヘテ祭ヲ舉行セリ、之レ感謝祭ノ起原ニシテ今ヲ去ル六十年前ヨリ十一月ノ最後木曜日ヲ以テ米國全體ノ祭禮トナリシモノナリ云々

第三一 七面鳥

三三一

第三二 蜜 蜂

二三三

備考		箱數 (年未現在)		飼養戸數 (年未現在)			第三二 蜜 蜂 (報告期翌年二月限)	大 正 何 年
		計	外國種	計	十箱未滿	十箱以上 五十箱未滿		
蜜	蜂							
蠟	蜜							
		數	量	價	額	一貫ニ付價格		

(注意)

一、外國種ニハ外國種間ノ雜種ヲモ含ム

二、內國種ニハ和種ノ外ニ朝鮮種及臺灣種ヲモ含ム

△蜂蜜、蜜蜂窠ヨリ採集シタル無色又ハ黃色ノ粘稠液、窠ヲ倒ニシテ自然ニ流下セシメ、或ハ微温ヲ與ヘ融出セシメテ得タルヲ上等品トス、佳快ノ甘味アリ、砂糖結品及花粉ヲ含ム、成分葡萄糖、デキストリン、菓糖、蔗糖及少量ノ蜜蠟等、上等品ハ藥用ニ供ス又菓子、滋養品ヲ製造ス

△蜜蠟、蜜蜂ノ巢ヲ溶解シテ採取スル蠟、精製品ハ純白色ナルモ、粗品ハ蜜及花粉ヲ雜有シ黃色乃至暗褐色ヲ呈ス、六二度乃至六五度ニテ溶解ス、蠟燭製造其他工業用ニ供ス

△一箱ノ蜂數其他ノ割合(大正十一年四月伊丹町ニ於テ調査シタルモノニテ次項ト稍差アリ)

一箱ノ蜂數

五千乃至二萬

蜜一貫大阪へ卸賣値段 貳圓

一箱ノ採蜜高

約七貫

蠟百斤同上

百五拾圓

蜜百貫ニ對スル蠟

約二貫乃至三貫

同 一貫

九圓内外

△兵庫縣ノ養蜂業

縣下ノ養蜂地方ハ御影町、伊丹町、美薺郡北谷村、加東郡福田村、中東條村、印南郡阿彌陀村、東神吉村、佐用郡久崎村、宍粟郡富栖村、西谷村、三方村、葛澤村、河東村、神野村、城崎郡奥竹野村、中竹野村、氷上郡小川村、多紀郡篠山町、日置村、城北村、今田村、三原郡市村等ニシテ總飼養者九十二戸箱數二百三十三ニシテ大正二年頃ヨリ稍衰頽ノ模様アルモ一地方ニ於テハ堅實ナル經營方法ヲ採リ専ラ採蜜主義ニ傾キ將來ノ發展ヲ期圖シツ、アリ、巢箱ハランダグストロス式又ハ在來種ニシテ其ノ飼養種類左ノ如シ

第三二 蜜 蜂

二三三

第三二 蜜 蜂

二三四

1 伊太利種 (黃金色、性溫和、抗抵力強大、蜂巢堅固、集蜜力優ルモ寒ニ耐エス)
 2 サイプライス種 (地中海サイプラス島産矮小纖弱性粗暴)
 3 カーニオラ種 4 埃國種 5 雜種
 6 在來種 (矮小強健耐寒性ニ富ムモ蜂巢微弱抵抗力薄弱逃失ノ虞アリ)
 用途ハ砂糖代用、菓子製造及藥用ヲ主トス、販賣方法ハ瓶詰、桶又樽入トナシ直接小賣ヲナス
 カ又ハ阪神地方ノ藥種商仲買問屋ニ賣却ス (主トシテ大阪道修町藤澤商店)、需要ハ逐年増加セ
 リ、一箱飼養ノ大體計算ハ左ノ如シ

支 出	收 入
一箱ノ原蜂代	翌年採蜜五貫
分離器其他器具	翌翌年採蜜四貫
保温等設備	翌年分巢一箱賣却
越冬ニ對スル給蜜砂糖	計
計	三元

蜜源ハ蜜柑、紫雲英、菜種、栗、蕎麥、梅、櫻等ニシテ蜜蜂ノ採蜜有効距離約二十町ノ周圍内
 ハ可成他ノ飼養者ノ増加セサルコトヲ必要トスト謂フ (大正八年ノ事實ニ依ル)
 但全國平均ノ一箱産蜜ハ外國種四貫四百四十八匁、内國種一貫匁、蜜蠟六十六匁ニシテ價格ハ
 蜜一貫匁貳圓七拾五錢、蜜蠟一貫匁四圓六拾七錢ナリ (同年調)

第三三 屠 殺 (報告期翌年三月限) 大正何年

屠 場 (年未現在)	第三三 屠 殺			肉		
	頭 數	牝 計	牝 數	牝 計	牝 計	一貫ニ付價格
成 牛						
犢						
馬						
豚						
緬 羊						
山 羊						
計						
備考						

(注 意)
 一、數量及價額ハ内臟及毛皮ヲ除キタルモノニシテ且検査済食用ニ適スルモノヲ記入スヘシ

第三三 屠 殺

二三五

第三三屠殺

二三六

二、成牛トハ生後滿一年以上積トハ生後滿一年未滿ノモノヲ謂フ
 △斤量ハ内臓及毛皮ヲ除キタル云々トアルハ屠肉ハ取引ノ慣例トシテ骨附ノ儘斤量ヲ計算スルヲ常トスルヲ以テ若シ其ノ骨ヲ除キ肉ノミノ量ヲ計算スルトセハ調査上ノ困難尠ナカラサルヲ以テナリ

△肉類ノ賣買ハ慣習上英斤即チ百二十匁一斤トシテ取引スルモノ尠ナカラサルモ此等ハ凡テ百六十匁一斤ニ換算記入スヘシ

△馬ニハ駒ヲモ計上スルモノトス

△牛ノ生體量ト屠肉及各臟器トノ關係比較

(大正五年十二月但馬種畜場肥育牛屠殺試驗同十二月四日神戸屠場ノ屠殺)

種類	和種桑原號牝八		アラウンスキス退却種牝八		改良和種和田號牝六	
	重量	生體量ニ對スル%	重量	生體量ニ對スル%	重量	生體量ニ對スル%
生體量	二七・一〇	—	二〇・八〇	—	二七・〇〇	—
頭	四・五〇	三・八四	四・八〇	三・六九	四・二〇	三・六〇
血液	四・一五	三・五四	四・八五	三・七〇	三・三五	二・九〇
肝臟	一・五五	一・三二	一・八〇	一・三七	一・四五	一・二四
心臟	〇・四七	〇・四〇	〇・五五	〇・四二	〇・四〇	〇・三四
肺臟	一・一〇	〇・九四	一・四五	一・一〇	一・二五	〇・九八
皮及四肢管骨	八・七〇	七・三九	九・五〇	七・二六	八・五〇	七・二六

肉ノ外觀比判的肉等級	筋肉間ノ脂肪分少ナク脂肪白色		脂肪分布ノ状態圓滑ナルモ稍劣		内外共脂肪分布ノ状態圓滑ニシテ模範的感アリ肉質又柔軟	
	重量	生體量ニ對スル%	重量	生體量ニ對スル%	重量	生體量ニ對スル%
切取脂肪	〇・八一	〇・七〇	〇・八〇	〇・六一	〇・九五	〇・八一
胃及腸内	二・四五〇	二・〇九	三・〇〇〇	二・五三七	二・五〇〇	二・二二六
屠肉量	五・七四〇	四・九〇〇	六・五四〇	五・〇〇〇	六・一〇〇	五・一〇〇
骨量	九・一〇	七・九五	一一・七〇	九・〇〇	九・一五	七・八二

△牛肉鑑定法

良品、鮮名ナル赤褐色ニシテ筋纖維緻密ニ、霜降狀ノ脂肪ヲ適當ニ交ヘ、固有ノ快香アリ、切斷スルニ小刀ニ對シテ抵抗均一ナリ
 幼牛、淡紅色ニシテ水分ニ富ム
 老牛、濃褐色ニシテ黃色ノ脂肪少量交レリ
 斃死牛、紫色ニシテ血液多量
 病牛、不潔、柔軟ニシテ血液ヲ含ム
 馬肉、暗色ニシテ柔軟、脂肪ト夾雜セス、強ク壁ニ投ケツクルニ容易ニ附着ス又少量ヲ煮沸スルニ不快ノ臭ヲ發シ泡沫ヲ生ス
 △牛肉ノ種類、牛肉ノ味ハ體ノ部分ニヨリ優劣ヲ異ニセリ、其名稱、等級左ノ如シ、肉ノ價格ハ概ネ之ニ由ルモノナルモ、滋養價ニハ大ナル關係ナシ

第三三屠殺

二三七

第三三屠 殺

二三八

- 一等、ラン(外腎部ノ内部)、ヒレ(腰椎ノ内部)ロース(長脊筋ノ後部、イテポー(腎部)
- 一等又ハ二等、カタロース(長脊筋ノ前部)、シンダマー(股ノ外部)
- 二等、ナカニク(外腎部)、サンカク(膝襞)、カタサンカク(肩ノ後部)、シタ(舌筋)、ハラミ(横隔膜)
- 二等又ハ三等、バラ(肋間筋)、シヤクシ(肩)
- 三等、ハカマ又ハハッキ(股ノ中部ノ筋)、ステツキ(股ノ内部ノ筋)
- 四等、シキンポー(後腎端)、クビツル(頸筋)、プリスケ(胸骨ノ近傍)
- 五等、スネ(腓骨ノ上部)、ウデ(腕節ノ上部)、フランケン(腸筋)、アタマ(頭ノ諸筋)チブサ(乳腺)

△本表調方法

兵庫縣ニテハ明治三十九年四月法律第三十二號屠場法第四條ニ依ル屠畜検査員検査ノ成績ニ依リ本表ノ材料ヲ得ルニ難カラサルヲ以テ市町村ヨリノ報告ヲ徴セサルコト、ナセリ

第三四會 社 (報告期翌年三月限)

大正何年末現在

考 備	會 社 票				種 類	重 役 筆 頭 者	目 的	商 號	本 店 所 在 地	設 立 年 月	道 廳 府 縣	號
	社 債 現 在 額	純 損 金	配 當 率	金 額								
							主ナル目的 其ノ他ノ目的		市 郡 村 町			

(注意)

第三四會 社

二三九

第三四 會 社

二四〇

- 一、本票ハ一會社毎ニ式ノ通り記入シテ一票毎ニ番號ヲ附シ之ヲ一括シテ其ノ總枚數ヲ包裝ニ記入スヘシ
- △本項番號ハ道府縣ニ於テ通シ番號ヲ附スルモノニ付市町村ニ於テ出票ノ際ハ之ヲ記入セサルヲ可トス
- △本票ハ毎年十二月三十一日ニ現在スル本店ニ限り調査記入スルモノトス但第四項ノ會社ハ此ノ限ニアラス
- △兵庫縣ニテハ郡市内現在ノ各會社ノ支店ニ關スル會社票ハ縣ノ必要上本店同様報告ヲ要スル旨通牒セリ
- 二、會社ノ種類ハ合名會社、合資會社、株式會社、株式合資會社、相互會社ト記入スヘシ
- △本票ハ商法第二編ノ規定ニ依リ設立シタル商社會社即チ本項ノ合名、合資、株式、株式合資ノ各會社ハ勿論保險業法ニ依リ設立シタル相互保險會社及民法第三十五條ニ依リ營利ヲ目的トスル社團ニシテ商社會社設立ノ條件ニ從ヒ法人タルモノ即チ民事會社ヲモ調査スルモノナリ
- △民事會社トハ商業以外ノ營利事業ヲ營ムモノニシテ例ヘハ鑛業、農業、蠶業、牧畜業等ヲ營ム會社ノ如シ即チ商法第二編第四十二條二項ニ營利ヲ目的トスル社團ニシテ本編ノ規定ニ依リ設立シタルモノハ商行為ヲ爲スヲ業トセサルモノ之ヲ會社ト看做ストノ規定アリ
- △重役筆頭者ハ株式ニ在リテハ取締役、合名、合資ニ在リテハ代表社員ノ筆頭ノ氏名ヲ記入スヘシ
- 三、支店ノ數ハ府縣別ニ之ヲ備考欄ニ記入スヘシ
- 四、朝鮮、臺灣、樺太、關東州所在ノ會社及外國會社ノ支店ハ本票ニ準シ之ヲ報告スヘシ
- △外國會社トハ外國ノ法規ニ依リ設立シタル會社ノ謂ヒニシテ、日本ノ法規ニ依リ設置シタル會社ハ外國人ノ經營セルモノト雖外國會社ニアラサルモノトス

- 五、會社ノ目的ハ其ノ事業ノ内容ニ付明瞭ニ之ヲ記入スヘシ例ヘハ商工業ニ在リテハ何々賣買又ハ何々製造ト記入シ農業ニ在リテハ開墾、耕作、牧畜等ト記入スルカ如シ
- △會社ノ目的ニ箇以上アル場合ニハ主ナル目的ト其ノ他ノ目的トニ區分シ各相當欄ニ記入スヘシ
- △又會社ノ目的ハ登記ト異ナルモ實際ノ業態ニ依リ記入スヘシ農商務省ニ於テハ次項記載ノ分類法ニ依リ區分編纂セラル、筈ナルヲ以テ此ノ分類ヲナスニ差支ナキヤウ記入報告ヲナスヘシ
- △商號ハ登記シタルモノヲ記入セシムヘシ即チ株式會社朝日新聞社、株式會社三菱銀行、三井合名會社、三菱合資會社ノ如シ
- 六、設立年月ハ登記シタル年月ヲ記入スヘシ但登記法施行以前ニ設立シタル會社ニ在リテハ實際ノ設立年月ヲ記入スヘシ
- △會社ノ組織變更即チ合名ヲ合資ニ合資ヲ合名ニ變更シタル場合並他市町村ヨリ轉入シテ其ノ名稱ノミヲ變更シタル場合、會社ノ合併ニ依リ一ノ會社カ他ノ會社ニ吸收セラレタルトキ即チ吸收合併ト見做サルヘキ場合ノ設立年月ハ最初ノ登記ノ年月ヲ記入スヘシ
- △又會社ノ目的ヲ變更シタル場合又ハ會社ノ合併ニ依リ全ク新規ナル會社ヲ設立シタルトキ即チ新設合併ト看做サルヘキ場合ノ設立年月ハ目的ノ變更アリシ時若ハ合併アリシ年月ヲ記入スヘシ
- 七、合併又ハ分割ニ依リ設立シタル會社ハ其ノ旨備考欄ニ記入スヘシ
- 八、拂込資本金又ハ出資額、積立金、社債ハ最近ノ決算期ノ現在額ヲ記入スヘシ
- △拂込資本金ハ資本金ノ四分ノ一以上ノ筈ナルモ往々四分ノ一以下ノ記入ヲナセルモノアリ(商法第二百二十八條)
- △最近ノ決算期トハ假令ハ其ノ年三月ト九月トニ決算ヲナシタル會社ナルトキハ九月ノ現在額ヲ記入シ六月ト十二月トニ決算アリタル場合ハ十二月決算現在額ヲ記入スルモノトス

第三四 會 社

二四一

△合資合名會社ノ出資額ノ總額及拂込額ハ登記シタル出資金額（財産又ハ勞務ヲ金額ニ見積リタルモノヲ含ム）ノ總額ヲ記入スヘキモノトス

△合資、合名會社ニ於テ登記シタル出資金額ノ全額ヲ出資スルノ要ナキ爲實際ニ於テ其ノ以下ノ出資ニ止メアルカ如キ場合アリトノ説アルモ右ノ如キ場合ハ實際ニ之ナキ筈ナルヲ以テ注意ヲ要ス

△資本金又ハ出資額ノ拂込額欄ハ合資合名會社ニアリテモ記入ヲ要ス

九、純益金、配當金、純損金ハ調査ノ屬スル年ノ最後ノ決算期ヨリ前一箇年間ニ於ケル決算額ヲ通算シテ記入スヘシ△假令ハ其ノ年三月ニ前期ノ決算ヲ爲シ九月ニ後期ノ決算ヲ爲シタル會社ニ在リテハ三月ト九月ノ決算額ヲ通算シテ記入シ又六月ニ前期ノ決算ヲ爲シ十二月ニ後期ノ決算ヲ爲シタル會社ニ在リテハ六月ト十二月ノ兩期分ノ決算額ヲ通算シテ記入スルカ如シ、此ノ場合ニ於テ前期繰越金ハ二重ニ計算セラル、ノ嫌アルモ之ヲ控除スルヲ要セス

△故ニ純益金、純損金ニ在リテハ何レカ一方ノミ記入セラルヘキモノナルニ双方ニ其ノ記入ヲナセル向アリ之レ前後兩期ヲ通算セスシテ兩期ヲ別々ニ記入セルニ依ルヲ以テ注意スルヲ要ス

△配當金ハ株式會社ニ限り記入スヘキモノニシテ前同様前後兩期ヲ通算シタル金額ヲ記入シ拂込資本金ニ割當テタル配當率ヲ算出シ何割何分何厘ト記入スルモノトス往々最後ノ決算期ノ配當率ノミヲ記入セル向アリ注意ヲ要ス

十、積立金ハ法定積立金ノミナラス一切ノ積立金ヲ記入スヘシ

△法定積立金トハ「商法第百九十四條第一項、會社ハ其ノ資本金ノ四分ノ一ニ達スルマテハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス、第二項額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ額面ヲ超ユル金額ハ前項ノ額ニ達スルマテ之ヲ準備金ニ組入ル、コトヲ要ス」トアルモノニ該當ス、其ノ他一切ノ積立金トハ建築準備積立金、社員退職積立

金等ノ類ヲ謂フ

△又積立金ハ其ノ期ノ決算ニ伴フ積立金ヲモ包含セシムヘキモノトス

十一、社債ハ商法ノ規定ニ依リ社債券ヲ發行シタルモノ、償還未済額ヲ記入スヘシ

△年二回決算ノ會社ニ在リテハ最近ノ決算期ノ現在額ヲ記入スヘキモノトス

△社債トハ商法第百九十九條乃至第二百七條ノ規定ニ依リ社債券ヲ發行シ廣ク應募者ヲ求メ借入ヲ爲シタルモノニシテ其ノ發行募債額ヨリ償還金ヲ引去リタリ殘額即チ償還未済額ヲ記入スルモノナリ然ルニ往々普通借入金ヲ記入セル向アル注意ヲ要ス

△又社債ハ拂込資本金額ヲ超過スルヲ得サル筈ナリ（商法第二百條）但シ北海道拓殖銀行ノ如キ特例アリ

十二、清算中又ハ破産手續中ノモノハ其ノ旨備考欄ニ記入スヘシ

△清算中又ハ破産手續中トハ左ノ如キ場合ヲ謂フ

- 1 存立時期ノ滿了、2 會社ノ目的タル事業ノ成效又ハ其ノ不能
- 清算中
 - 3 總社員ノ同意、4 會社ノ合併、5 裁判所ノ命令
 - 6 株主總會ノ決議等ニ依リ解散シ清算中ニ在ル場合

破産手續中 會社ニ破産行爲アリタル爲解散シテ破産手續中ニ在ルモノ

十三、前年報告後消滅シタル會社ニ付テハ別紙ニ其ノ會社名並解散組織變更、合併等其ノ消滅ノ事由ヲ列記報告スヘシ△他府縣又ハ他市町村へ轉出シタル場合亦同シ

△其ノ年一回モ決算ヲナサ、ル會社アル場合ハ調査ヲ命シテ本票報告ヲ徵スルモノトス

十四、備考ニ記入スヘキモノヲ再掲スレハ左ノ如シ

一 府縣別支店數（三項）

第三四 社會

二四四

- 二 合併又ハ分割設立ナルコト(七項)
 - 三 清算中又ハ破産手續中ノモノナルトキ(十二項)
 - 四 會社名ヲ變更シタルトキ
 - 五 朝鮮、臺灣、樺太、關東州所在ノ會社又ハ外國會社ノ支店ニシテ本店ト支店ト資本金ヲ區別シ居ラサル場合其ノ他調査不可能ノ事項
- 會社分類(農商務大臣官房統計課調査)

大分類	中分類	小分類
農業	一 農耕業	
	二 種苗業	
	三 養蠶及蠶種製造業	
	四 養畜養禽業	
	五 搾乳及乳製品業	
	六 山林業	
	七 開墾業	
	八 其ノ他	
水産業	一 漁撈採藻業	
	二 捕鯨業	

大分類	中分類	小分類	
水産業	三 魚貝藻養殖業		
	四 水産品製造業		
	五 製鹽業		
	六 其ノ他		
	鑛業	一 金屬鑛採掘及製鍊業	
		二 石炭採掘業	
三 石油採取及精製業			
四 其ノ他ノ非金屬採取及精製業			
五 土石類採取業			
工業	一 染織工業	一 製絲業	
		二 綿絲紡績業	
		三 絹絲紡績業	
		四 麻絲紡績業	
		五 毛絲紡績業	
		六 撚絲業	
		七 製綿業	
		八 綿織物業	
		九 絹及其交織物業	
一〇 麻及其交織物業			

第三四 會社

二四五

工業

二 機械及器具工業

- 一 原動機及其附屬品製造業
- 二 機械類製造業
- 三 電氣機械及器具製造業
- 四 造船業
- 五 車輛製造業
- 六 工匠農具土工具製造業
- 七 度量衡器製造業
- 八 計量器其他科學的器具製造業
- 九 其ノ他器具製造業

三 金屬工業

- 一 鑄造業
- 二 金屬壓延及製線業
- 三 釘鋸及針類製造業
- 四 其ノ他金屬工業

一 陶磁器製造業

工業

四 化學工業

- 一 硝子製造業
- 二 セメント及石灰製造業
- 三 煉瓦製造業
- 四 其ノ他窯業
- 五 製紙業
- 六 漆器製造業
- 七 製革及毛皮精製業
- 八 磷寸製造業
- 九 火藥爆藥製造業
- 一〇 製油及製蠟業
- 一一 ゴム及セロイド製造業
- 一二 醫藥賣藥製造業
- 一三 工業藥製造業
- 一四 染料製造業
- 一五 塗料顏料糊料製造業
- 一六 石鹼其ノ他化粧料品製造業
- 一七 人造肥料製造業
- 一八 木炭製造及木材乾餾業
- 一九 其ノ他化學工業
- 一〇 精穀及製粉業

工業

五 飲食物工業

- 二 清酒製造業
- 三 洋酒其他酒類製造業
- 四 味噌醬油製造業
- 五 製冰及清涼飲料水製造業
- 六 製糖業
- 七 菓子製造業
- 八 製茶業
- 九 屠畜及肉類品製造業
- 一〇 罐詰及瓶詰製造業
- 一一 其ノ他ノ飲食物製造業

六 雜工業

- 一 印刷業
- 二 紙製品製造業
- 三 防水紙布及擬革製造業
- 四 革製品業
- 五 製材業
- 六 木竹蔓莖製品業
- 七 疊表莫蔴花蔴製造業
- 八 麥稈經木真田製造業
- 九 藁工品製造業
- 一〇 製網及製網業
- 一一 被服其他裁縫造品製業

工業

七 特別工場

- 一 電氣業
- 二 瓦斯業
- 三 水道水利業
- 四 穀類粉類販賣業
- 五 酒類調味料清涼飲料販賣業
- 六 其ノ他飲食物販賣業
- 七 機械器具及車輛類販賣業
- 八 金屬地金及製品販賣業
- 九 窯業製品販賣業
- 一〇 藥品染料顏料塗料化粧品類販賣業
- 一一 肥料販賣業
- 一二 燃料販賣業
- 一三 木材其ノ他建築材料販賣業
- 一四 織物其ノ他被服類販賣業

商業

一 物品販賣業

- 一 穀類粉類販賣業
- 二 酒類調味料清涼飲料販賣業
- 三 其ノ他飲食物販賣業
- 四 機械器具及車輛類販賣業
- 五 金屬地金及製品販賣業
- 六 窯業製品販賣業
- 七 藥品染料顏料塗料化粧品類販賣業
- 八 肥料販賣業
- 九 燃料販賣業
- 一〇 木材其ノ他建築材料販賣業
- 一一 織物其ノ他被服類販賣業

第三四會社

二五〇

商業

<p>二 貿易業 三 取引所 四 市場業 五 倉庫業</p>	<p>三 生絲繭綿絲類編物組物類販賣業 三 テパートメントストア 四 新聞紙發行業 五 圖書雜誌出版及販賣業 二 其ノ他販賣業</p>
<p>六 金融業</p>	<p>一 銀行業 二 信託及無盡業 三 貸金業 四 質屋業</p>
<p>七 保險業 八 保全會社</p>	<p>一 賣買媒介業 二 周旋業 三 興信業</p>
<p>九 媒介周旋業</p>	<p>一 旅館料理店及貨廨業 二 演戲場及遊戲場 三 其ノ他商業</p>
<p>運輸業</p> <p>一 鐵道軌道運輸業 二 汽船會社 三 汽船以外ノ水運業 四 自動車運輸業 五 其ノ他ノ運輸業</p>	

第三四會社

二五一

第三五 燃 絲

二五四

△賃燃絲業者ノ燃絲ハ織物表ト同シク燃絲元所在ノ市町村ヨリ數量價額ヲ報告シ燃絲戶數、錘數
職工等ハ賃燃絲業者所在ノ市町村ヨリ報告スルモノトス
△綿ト絹トノ交織ハ主ナル一方ニ合算ス、綿絹以外ノ綿ト毛、又ハ麻絹ト毛又ハ麻トノ燃絲ハ調
査ニ及ハス其ノ毛又ハ麻ノミノ燃絲ヲ絹又ハ綿燃絲ト併セ生産スルトキ亦調査ヲ要セス
△網索ト燃絲ノ區分、絹又ハ綿絲約十合以上ノ燃絲ハ織絲、縫絲、レース絲、刺繡、漁網地用絲
等特ニ纖維工業ニ用ケラル、モノ、外網索ト看做シ取扱フモノトス

第三六

綿 織 物

(報告期翌年三月限)

大正何年

綿	廣	職 工 (平均一日 使用數)	機 臺 數 (年末現在)			機 業 戶 數 (年末現在)		十 臺 未 滿	十 臺 以 上	五十 臺 未 滿	五十 臺 以 上	計
			手 織 機	機 力 織		手 織 機	力 織 機					
				小 幅	廣 幅							
綿	綾地生	計	男	女	手 織 機	小 幅	廣 幅	手 織 機	力 織 機	數	量	價
廣	綿布											

第三六 綿織物

二五五

綿														
縮	小						價額計	其他				毛布 (用度掛 ヲ含ム)		
	織色綿		紺綿	縞綿布		生綿布		其他	絨織	木綿	縹帶		厚司	
	△其ノ	△紺木		△著尺フ ヲ含ム	△縞木	△雲齋								△白木

物 織														
縮	物						縮	幅				繻子地生綿布	其ノ他	
	無地		縞及色		帆布			布	ノ生綿		其ノ他			
	△其ノ	△布	△縞綿	△縹綿	△門帆	△松右			△米利	△粗布	△天竺			△布

備考	物									
	物					幅				
	價額合計	其ノ他								
△其ノ他		△底織	△足袋	△女類	△男類	△袴地	△絨織	△木綿	△地厚司	蚊帳地

(注意)

- 一、力織機手織機併用ノモノハ戸數ニ於テハ臺數ノ多キニ依リ同數ノトキハ力織機ノ戸數ニ記入シ、臺數別ニ於テハ各機ノ欄ニ且戸數ヲ記入シタル行ニ記入スヘシ
 - 二、賃織者ノ手ニ成リタル織物ノ數量價額ハ織元所屬ノ地方ニ於テ調査記入シ戸數、機臺數及職工ハ賃織所屬ノ地方ニ於テ調査記入スヘシ
 - 三、力織機トハ水力、汽力、瓦斯力、電力等ニ依リ運轉スル機械織機ヲ謂フ、足踏織機ハ手織機ニ入ルヘシ
 - 四、職工トハ織工ハ勿論整經工、糊附工、繰返シ、管卷、箆通シ、綜統通シ等ノ如キ補助職工ヲ含ム、綜統ハ地方ニヨリ綾、綾取、經、遊ビ、掛絲、飾リ機、モデリトモ呼ブ
 - 五、他種織物兼營ノモノニ在リテハ其ノ機業戸數、機臺數及職工ハ主ナル一方ニ記入スヘシ
 - 六、廣幅トハ鯨尺一尺三寸以上ノモノヲ謂フ
 - 七、本表ニハ特殊織物ニ屬スルモノヲ除ク
 - 八、自家用ハ調査ヲ要セス
- △價額ハ様式一般ノ注意ニ依リ記入シ稅務省ノ査定價格ヲ以テ記入スヘカラス
- △織元トハ原料ヲ仕入置キテ賃織者ヲシテ製織セシムルモノヲ謂フ
- △賃織トハ他人ノ原料ヲ受ケテ製織スルモノヲ謂フ
- △工場又ハ機臺ヲ有セス單ニ原料ヲ供給シ賃織業者ヲシテ製織セシムル織元戸數ハ調査ヲ要セス
- (編者曰工場又ハ機臺ヲ有セサルモ本件ノ如キハ機業者タルノ點ニ於テハ之ヲ有スル者ト異ナル所ナキモ本省ノ方針ニ基キ製表スルモノトス)
- △賃織業者カ他地方ノ織元又ハ下受業者ヨリ機臺ヲ借受ケ製織ヲナス場合ト雖賃織者ノ戸數、機臺數職工數ハ實際ノ賃織業者所屬町村ニ於テ調査スヘキモノトス

第三六 綿織物

二六〇

△和歌山縣下ニ於ケル綿フランネルノ如ク生地ヲ買入レ之ニ晒白色染、起毛等幾多ノ加工ヲ施シタルモノハ其ノ地ノ生産品トシテ調査スルモノトス
 △綿フランネルノ生地ハ廣幅物其ノ他ノ生綿布中ヨリ控除シ綿フランネル中ニ加フヘキモノトス
 △蚊帳地、タオル等ノ廣幅物アルトキハ廣幅物中ニ計上スルモノトス
 △自家用ハ調査ヲ要セスアルハ家庭消費用ノ意ニシテ營業用ノモノハ賃製造者ヲシテ製造セシメタルモノト雖調査スルモノトス、而シテ製品ハ資本者所在地ニ於テ製造戸數及職工ハ賃織業者所在地ニ於テ調査スルモノトス
 △縣立工業試驗場、監獄等ニ於テ製織ノモノモ一般ノ注意ニ依リ調査スルモノトス
 △右監獄ノ委託生産ハ普通委託ト同様委託人所在ノ市町村ニ於テ調査スルモノトス
 △機臺中「バツタン」ヲ有スルモノハ手織機ニシテ「ジャカード」ヲ有スルモノハ原動力機ニ依リ運轉スル場合ハ力織機トシテ調査スヘシ(ジャカードトハ佛國發明ノ紋織機ナリ)
 △漁網用緞織ハ綿、麻ノ區別ニ應シ其ノ他中ニ記入スヘシ
 △反ノ解、反トハ着物一枚、袴一腰、羽織一着分ヲ示スモノナレハ長ハ普通二丈五尺乃至三丈二尺位迄ヲ謂フ、左レハ六丈物一疋ハ二反、七丈五尺乃至八丈物一疋ハ三反ト計上シ從テ四丈物ハ一反半トシテ計算スヘシ
 △織物ノ價格ト其ノ尺幅
 同名稱ノ織物ニシテ地方地方ニヨリ單價ニ大差アルハ其ノ尺幅ニ關係ヲ有スル點尠カラサルヘシ兵庫縣ニ於テモ組合ヲ異ニスル毎ニ其ノ尺幅ニ左ノ如キ差異アリ統計調査上能ク實際ヲ觀察シ誤報ナキヲ期スルコト緊切ナリ
 一反ニ對スル織物尺幅

(加東郡菅大同業組合)

品名	長	幅
白木綿内地向	二八〇 <small>丈尺以上</small>	九二 <small>寸分以上</small>
同 輸出向	二八〇	九七
裏 地	二八〇	九二
蚊 帳 地	二八〇	九二
縞 木 綿	二八五	九三
絹 綿 交 織	二八五	九三
絹 織 物	二八五	九三
毛 斯 綸 友 染	二二五	九三
(姫路市中播織物同業組合)		
著 尺 木 綿 及 染 下	二八〇	九二
晒 木 綿	二八〇	八七
用 木 綿	二八〇	八七
綿 糸	七二〇	二〇〇
天 竺 木 綿	五七	二〇〇

(播州織同業組合)

品名	長	幅
久 米 縞	二九〇 <small>丈尺以上</small>	九三 <small>寸分以上</small>
蒲 團 縞	三〇〇	九〇
綿 糸	三〇〇	九二
白 縞	二八〇	九二
綿 糸	二八〇	九六
竝 幅 製 品	二八〇	九六
廣 幅 物	一三〇	一三〇

第三六 綿織物

二六一

第三七 絹及絹綿交織物

二六二

帶	職工 (平均一日 使用數)		機臺數 (年未現在)		機業戶數 (年未現在)		絹及絹綿交織物 (報告期翌年三月限)	大正何年				
	女	男	手織機	力織機		手織機			力織機			
				小	廣							
片側	物	計	女	男	手織機	力織機	五臺未滿	五臺未滿以上	五十臺未滿	五十臺以上	計	
		數										
		量										
		價										
		額										
		單										
		價										

第	織物											地	
	小					廣							縮
	織物 其 他 絹	生絹 織物		絹 其 他 縮 絹 (御 召 縮 絹 ヲ 含 ム)	白 縮 絹 (紋 織 ヲ 含 ム)	練 絹 織 物	絹 又 ハ 其 他 ノ 織 物	(含 ム ヲ 織 綾 物)		生 絹 織 物	縮 絹		
△ 紹 類		△ 平 絹 類	△ 斜 子 類					△ 羽 二 重	△ 紹 類			△ 平 絹	△ 斜 子 類

二六三

備考	絹 綿 交 織 物									價 額 計	
	價 額 計	小 幅 物			廣 幅 物		地 帶				
		其 他	絲 入 織 物	縞 其 他 ノ 縮 緬 ヲ 含 ム	縹 子 (紋 織 ヲ 含 ム)	其 他	縹 子 (紋 織 ヲ 含 ム)	物 廣 幅	女 片 側		男 物

(注意)

- 一、力織機手織機併用ノモノハ戶數ニ於テハ臺數ノ多キニ依リ同數ノトキハ力織機ノ戶數ニ記入シ臺數別ニ於テハ各機ノ欄ニ且戶數ヲ記入シタル行ニ記入スヘシ
 - 二、賃織者ノ手ニ成リタル織物ノ數量價額ハ織元所屬ノ地方ニ於テ調査記入シ戸數、機臺數及職工ハ賃織者所屬ノ地方ニ於テ調査記入スヘシ
 - 三、力織機トハ水力、汽力、瓦斯力、電力等ニ依リ運轉スル機械織機ヲ謂フ、足踏織機ハ手織機ニ入ルヘシ
 - 四、職工トハ織工ハ勿論整經工、糊附工、繰返シ、管巻、箆通シ、綜統通シ等ノ如キ補助職工ヲ含ム
 - 五、他種織物兼營ノモノニ在リテハ其ノ機業戶數、機臺數及職工ハ主ナル一方ニ記入スヘシ
 - 六、廣幅トハ鯨尺一尺三寸以上ノモノヲ謂フ
 - 七、生絹織物トハ生絲ヲ以テ製織セル織物ヲ謂フ例ハ羽二重、平絹、繪絹ノ類之ナリ練絹織物トハ生絹織物ニアラサルモノ即チ通常生絲ヲ撚リタル後練リ、染メ又ハ染メスシテ製織スルモノヲ謂フ普通ノ絹織物ハ多ク之ニ屬ス
 - 八、帶地中ニハ兵子帶ヲ含マス
 - 九、本表ニハ特殊織物ニ屬スルモノヲ除ク
 - 十、自家用ハ調査ヲ要セス
- △絹及絹綿交織物中人造又ハ模造絹絲ヲ以テ製織シタル織物ハ便宜上之ヲ絹及絹綿交織物トシテ調査シ其ノ旨備考ニ附記スヘシ
- △帶地女物ノ博多織單物及袋織帶ハ九寸幅未滿ノモノハ總テ片側トシ調査ス
- △絹モスリンハ廣幅物生絹織物中ニ記入スヘシ

第三七 絹及絹綿交織物

△壁ハ牛絹織物トス
 △帶地ノ子供物ト雖一本ハ一本トシテ調査スヘシ
 △女物織上ケ八丈物ノ反ニ換算方ハ綿織物表附記參看ヲ要ス

第三八

麻及其ノ交織物

(報告期翌年三月限)

大正何年

麻 廣	職 (平均一日 使用數)	機 臺 數 (年末現在)		機 業 戶 數 (年末現在)		力 織 機	力 織 機	五 臺 未 滿	十 五 臺 未 滿	十 五 臺 未 滿	十 五 臺 未 滿	計		
		手 織 機	手 織 機	力 織 機									手 織 機	手 織 機
				小 幅	廣 幅									
黃 麻 帆 布	女 計	男	手 織 機	手 織 機	小 幅	廣 幅	手 織 機	手 織 機	五 臺 未 滿	十 五 臺 未 滿	十 五 臺 未 滿	十 五 臺 未 滿	計	
數														
量														
價														
額														
單														
價														

第三八 麻及其ノ交織物

備考	及 其 ノ 交 織 物							
	幅 物				小 幅 物			
	亞麻、苧麻帆布	亞麻、苧麻帆布	蚊帳地	其ノ他	生麻布	編緝其ノ他ノ著尺麻布	蚊帳地	其ノ他
價額計								

(注意)

- 一、力織機手織機併用ノモノハ戸數ニ於テハ臺數ノ多キニ依リ同數ノトキハ力織機ノ戸數ニ記入シ臺數別ニ於テハ各機ノ欄ニ且戸數ヲ記入シタル行ニ記入スヘシ
- 二、賃織者ノ手ニ成リタル織物ノ數量價額ハ織元所屬ノ地方ニ於テ調査記入シ戸數、機臺數及職工ハ賃織者所屬ノ地方ニ於テ調査記入スヘシ

- 三、力織機トハ水力、汽力、瓦斯力、電力等ニ依リ運轉スル機械織機ヲ謂フ、足踏織機ハ手織機ニ入ルヘシ
- 四、職工トハ職工ハ勿論整經工、糊附工、繰返シ、管卷、箆通シ、綜統通シ等ノ如キ補助織工ヲ含ム
- 五、他種織物兼營ノモノニ在リテハ其ノ機業戸數、機臺數及職工ハ主ナル一方ニ記入スヘシ
- 六、廣幅トハ鯨尺一尺三寸以上ノモノヲ謂フ
- 七、本表ニハ特殊織物ニ屬スルモノヲ除ク
- 八、自家用ハ調査ヲ要セス

第三九 毛及其ノ交織物

二七〇

著尺セル地	フランネル	モスリン	職工 (平均一日使用数)		機臺數 (年末現在)		機業戶數 (年末現在)		十臺未満	五十臺以上	五十臺以上	計	
			計	女	男	手織機	力織機	手織機					力織機

第三九

毛及其ノ交織物

(報告期翌年三月限)

大正何年

備考	計	其他	フエルト	地氈	毛布 (旅氈肩掛ヲ含ム)	無地及霜降其ノ他ノ羅紗	縞羅紗	洋服用セル地

(注意)

- 一、力織機手織機併用ノモノハ戶數ニ於テハ臺數ノ多キニ依リ同數ノトキハ力織機ノ戶數ニ記入シ臺數別ニ於テハ各機ノ欄ニ且戶數ヲ記入シタル行ニ記入スヘシ
- 二、賃織者ノ手ニ成リタル織物ノ數量價額ハ織元所屬ノ地方ニ於テ調査記入シ戶數、機臺數及職工ハ賃織者所屬ノ地方ニ於テ調査記入スヘシ
- 三、力織機トハ水力、汽力、瓦斯力、電力等ニ依リ運轉スル機械織機ヲ謂フ、足踏織機ハ手織機ニ入ルヘシ

第三九 毛及其ノ交織物

二七一

第四〇 特殊織物

敷物 由多 加織	級 通	職工 (平均一日 使用數)		機臺數 (年末現在)			機業戶數 (年末現在)		十臺未滿 五十臺以上 五十臺未滿 五十臺以上 計	
		計	女	男	手織機	力織		手織機		力織機
						小	廣			
數										
量										
價										
額										
單										
價										

第四〇

特殊織物

(報告期翌年三月限)

大正何年

其 ノ	天鷲絨						リボン					其 ノ	其 ノ	
	紙布及紙入ノモ	葛布	其他	毛及毛綿製	絹綿製	絹製	綿製	コイル天	其他	△ネーム	毛綿(テリブ及ブレ)製(1ドヲ含ム)			髪飾用

第四〇 特殊織物

第四一 織物指定特別調査

第四一

織物指定特別調査

(報告期翌年三月限)

大正何年

何々	何々	職工 (平均一日 使用数)	機臺數 (年末現在)		機業戸數 (年末現在)		十臺未滿	三十臺以上 五十臺未滿	五十臺以上 百臺未滿	百臺以上	計
			手織機	力織機	手織機	力織機					
數	量	價	額	單	價						

左記各種ノ織物ニ付指定ノ道府縣市町村長ハ右様式ニ依リ各大種目毎ニ別表トシ報告スヘシ但數量價額ハ小種目別ニ記入スヘシ

絹	機械製帆布	輸出向タフタ、琥珀類	廣幅綿布	輸出向羽二重
綿麻	海琥珀類	被褥細綾綿布	雲金粗天	平羽二重
碼	碼	碼	碼	斤
京都、愛、富山	兵庫、滋賀、廣島、北海道	群馬、栃木、東京、山梨	東京、京都、大阪、神奈川、兵庫、三重、愛知、静岡、岡山、和歌山、愛媛	群馬、宮城、福島、山形、福井、石川、富山、大阪

第四一 織物指定特別調査

傘	地	絹	綿	絹
	其ノ他	其ノ他	平縮絹(縮ヲ含ム) 經緯縮絹 平壁 其ノ他ノ壁	絹 絹 絹
			斤	斤
	東京、京都、群馬、山梨、福井、石川	東京、京都、愛知、福井、石川、富山、群馬、宮城、福島、山形	京都、神奈川、群馬、岐阜、福島、福井、石川	

(法意)

- 一、本表ニ掲ケタル事項ハ織物各表相當欄ニ合算記入スヘシ
- 二、力織機手織機併用ノモノハ戸數ニ於テハ臺數ノ多キニ依リ同數ノトキハ力織機ノ戸數ニ記入シ臺數別ニ於テハ各機ノ欄ニ且戸數ヲ記入シタル行ニ記入スヘシ
- 三、賃織者ノ手ニ成リタル織物ノ數量價額ハ織元所屬ノ地方ニ於テ調査記入シ戸數機臺數及職工ハ賃織者所屬ノ地方ニ於テ調査記入スヘシ
- 四、力織機トハ水力、汽力、瓦斯力、電力等ニ依リ運轉スル機械織機ヲ謂フ足踏織機ハ手織機ニ入ルヘシ
- 五、職工トハ織工ハ勿論整經工、糊附工、繰返シ、管卷、箆通シ、綜統通シ等ノ如キ補助職工ヲ入ルヘシ

含ム

- 六、他種織物兼營ノモノニ在リテハ其ノ機業戸數、機臺數及職工ハ主ナル一方ニ記入スヘシ
 - 七、廣幅トハ鯨尺一尺三寸以上ノモノヲ謂フ
 - 八、自家用ハ調査ヲ要セス
- △本表ノ數量ハ各關係ノ織物表ノ左記ト合致スルヲ要ス

本表	第三七表 絹及絹綿交織物	第三八表 綿織物
羽二重平壁其ノ他壁 平縮絹織、シオジエ ツト、輸出向縮絹 絹モスリ 天竺布、粗布、金巾 雲齋布 被褥布	生絹物中ニ 縮絹中ニ 廣幅物ノ生絹織物中ニ	生綿布中ニ 綾地生綿布中ニ 生綿布其ノ他中ニ

△廣幅綿布ノ解

天竺布(テール掛、幕、足袋用)
經絲及緯絲ニ十六手—二十手ノ單絲ヲ生ノ儘平織ニシタル幅二呎位ノモノニシテ地合ハ白木綿ト同シ普通二十四碼ヲ以テ一釜又ハ一卷トス
粗布(支那、朝鮮人衣類用)

第四一 織物指定特別調査

第四一 織物指定特別調査

二八二

天竺ヨリ太キ單絲ノ平織、厚地ノ生織物ニシテ幅三十六吋長ヲ四十碼ヲ以テ一釜トス
 金巾

天竺ヨリ薄キ二幅又ハ三幅ノ白綿布ニシテ經緯絲三十手乃至四十手位ノ單絲ヲ生ノ儘平織トシ漂白布染等加工ノ上裏地更紗、ホワイトシャツ、ハンケチ、エフロン等又キヤリコ、新モスリン等ハ金巾ノ加工品ナリ
 細綾綿布

支那人衣服用綾地黒綿布ナリ

△羽二重類ハ五十碼ニ付量目見當

尺八寸幅

二一六

二尺四寸幅

二八八

第四二

晒及染物

(報告期翌年三月限)

大正何年

綿			絹				職工 (平均一日 使用數)	染物 (年 末現存 數)				
物染地無	綿 子	ボ ブ リ ン	其 ノ 他	染 絲	捺 染 物	無 地 物			計			
							數	量		貨	單	價
金巾及天竺												

第四二 晒及染物

二八三

第四二 晒及染物

白	絲	計	職工		晒業 (年末戶現在數)	計				他			
			(平均一日使用數)	男		女	計	其 ノ	染 絲	捺 染物	無 地物	其 ノ	染 絲
木													
綿													
		數											
		量											
		晒											
		賃											
		單											
		價											

捺	無	其	染	捺	無	其	染	絞	綿			物	染	捺	物	染	地	無		
									其	製機									其	綾
										ノ	小									
染	地	ノ	物	染	地	ノ	他	絲	類	他	幅	幅	他	他	綿					

第四二 晒及染物

備考	計	其 他	綾 木 綿	金 巾	粗 布	天 竺 布
	1					1
						1

(注意)

- 一、染物各欄ノ「其ノ他」ニハ染直シ賃金ヲモ調査記入スヘシ
- 二、晒白ノ後直ニ染色スルモノニ在リテハ晒白ハ染色ノ一工程ト看做シ染色ノ部ニ記入スヘシ
戸數、職工共亦同シ
- △捺染物トハ模様ヲ附シタル金屬製若ハ木製ノ版或ハ型紙ニ染料ヲ塗抹シ之ヲ布面ニ捺附シタルモノヲ謂フ之ニ機械製ト否ラサルモノアリ而シテ機械的裝置アルモノハ其ノ要部ノ圓筒ナルト平板ナルトヲ問ハス機械製ノ欄ニ記入シ機械ノ裝置ナキモノハ其ノ他ノ欄ニ記入スヘシ
- △染物ノ大分類其ノ他ノ欄ニハ絹綿、毛麻交織布及其ノ交絲及芭蕉布、薇布、葛布、木樺布等ノ染色物ヲ記入スヘシ
- △左記ハ染物トシテ調査ヲ要ス

一 織物業者ノ手ニナル染物、即チ織物業者ニテ染物業兼營ノモノ或織物業者ノ委託ニヨル染物

一 引幕及織ニシテ色固着ヲ主トスルモノハ染物ト見ルヘキモ單ニ顔料等ヲ塗り付ケタルモノハ染物ト看做サス、假令ハ染タル後蒸シ又ハ水洗ヲナスモノハ染物ニシテ繪畫式ニ彩色スルモノ(提燈屋ノ行フカ如キ)ハ染物ニアラス

△左記ハ染物トシテ調査ヲ要セス

- 一 麥稈及蘭草、蘭蕙ノ如キ捺染物ハ本表ニ記入セス
- 一 機業者若クハ賃機業者カ自家織物ノ原料ヲ自家ニテ染色スル場合、但他人ノ原料ヲ染色シ染色業者ト認ムヘキ場合ハ此ノ限リニアラス

△絞纈類トハ一ニ纈纈(カウケチ)ト謂ヒ染メ模様ノ名、ク、リ染ニシタルモノ板縞、絞リ染ノ類ナリ

△絞纈類ノ兵甲帯ハ反未滿ト雖モ反ニ換算記入スヘシ

△綿ノ絞纈類ハ計ノ部ニ於テハ染賃ノミヲ其ノ他ノ行ニ合計計上スルモノトス

△高砂染ハ綿製捺染物中ニ、姫山絞ハ絞纈類ニ記入スヘシ

△絹、綿又ハ毛ノ交織物交擦絲ノ如キヲ染メタル場合ハ總テ其ノ他ノ部ニ區別計上スヘシボブリシノ絹綿交織物亦同シ

△晒ハ藥品ヲ用ユルト否トニ拘ラス總テ調査スヘシ

△晒白ノ後直ニ染色スルモノハ晒白ヲ染色ノ一工程ト看做シ染色ノ部ニ記入スルモ晒白ノ部ニ記入ヲ要セス戸數職工共亦同シ

△前項直ニトハ晒白品トシテ工場外ニ出サスシテノ意味ナル故同一工場内ニ於テ染ムル場合ハ直

第四二 晒及染物

ニト解スヘシ
 △古綿襦袢ノ晒ヲ專業トスルモノアラバ其他ノ部ニ調査記入スヘシ
 △絹綿交織物ノ染色ハ其他トシテ調査セシムルモノトス

第四三

莫大小

(報告期翌四月限)

大正何年

製 造 年 未 現 在 數	職 工 (平均一日 使用數)		製 造 年 未 現 在 數	編 立 業	裁 縫 業
	男	女			
	計	計			
綿	計	計	計	數量	裁縫
				價額	數量
計	計	計	計	價額	數量
其 ノ 他	計	計	計	價額	數量
生 地	計	計	計	價額	數量
手 袋	計	計	計	價額	數量
靴 下	計	計	計	價額	數量
シ ヤ ツ 及 ズ ボ ン 下	計	計	計	價額	數量

第四三 莫大小

第四三 莫大小

其		絹		綿			毛			及			毛		
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
手	靴	手	靴	手	靴	手	靴	手	靴	手	靴	手	靴	靴	
袋	下	袋	下	袋	下	袋	下	袋	下	袋	下	袋	下	下	
地	下	地	下	地	下	地	下	地	下	地	下	地	下	下	

備考	合		他	
	計	計	計	他

(注意)

一、自ラ編立ヲ爲シ又ハ自ラ編立生地ヲ以テ製造スルモノハ編立業ノ欄ニ記入シ委託ニ依リ又ハ生地ヲ買入レ裁縫ノミヲ營ムモノハ裁縫業ノ欄ニ記入シ生地ノ價額ヲ控除シタル工賃ノミヲ記入スヘシ

△本項自ラ編立ヲ爲シトハ靴下手袋生地等ノ編立ヲナスノ意ニシテ、又ハ自ラ編立生地ヲ以テト

ハ自ラ編立タル生地ヲ以テシャツ及ズボン下ヲ製造セル者ヲ謂フ

△莫大小製品ニ付テハ種々ノ分業行ハレ全工、編立、毛搔、裁縫、仕立ノ區別アリト雖本表ニテ

ハ編立、裁縫ノ二業ノミヲ調査スルモノトス

△裁縫業モ數段ノ分業ニ依リ行ハル、ヲ常トス程度ノ如何ニ拘ハラズ各一戸ノ裁縫業ト見ルモノトス

△毛及毛綿以外ノ交編ニ係ルモノハ其ノ他ノ部中ニ記入スヘシ

△編立業者カ他ニ裁縫ヲ委託シ裁縫シタルモノ、生地ハ生地ノ欄ニ掲ケ裁縫業ノ欄ニハ其ノ製品

第四三 莫大小

第四三 莫大小

二九二

ノ種類欄ニ數量工賃ヲ掲クヘキモノトス、此ノ工賃中ニハ生地ノ價額ヲ控除シタルモノヲ記入スヘシ

△網シャツハ本表ニ記入スヘキモノトス

△地方ノ狀況ニ應シ手袋ノ次ニ足袋、サル股、肩掛、首卷、巾着等ヲ列記調査シ置クトキハ利用者ノ便利尠カラス

第四四 帽子

子

(報告期翌年四月限)

大正何年

備考	計	其他	麥 稈 製	模 造 パ ナ マ 製	羅紗「セルゲ」及其ノ他ノ布帛製	フ エ ルト 製	數	量	價	額	一打ニ付價格	職 工 (平均一日 使用數)		製 造 年 末 現 任 數	
												計	女		男

第四四 帽子

二九三

第四四 帽子

二九四

(注意)

一、フェルト帽子トハ軟毛ヲ壓縮處理シテ製造シタルモノヲ謂フ
 △製造元ト賃仕事ヲナスモノトノ町村ヲ異ニシタル場合ハ製造戸數ト職工ハ賃仕事ヲナス者ノ町村ヨリ報告シ數量及價額ハ材料供給者所在即製造元ノ町村ニ於テ調査スルモノトス
 △山高及中折帽ハフェルト製ニ計入スヘシ
 △麥稈ト經木ノ交製、紙製バナマ等ハ其ノ他ノ欄ニ計入スヘシ
 △自家製品ノ材料トシテ麥稈眞田ヲ製造スルカ如キ場合ハ之ニ從事スル職工ハ一工程ト見做シ計上スヘシ
 △帽子寸法對照表

英番		吋尺		英番		吋尺	
6 $\frac{3}{4}$	6 $\frac{5}{8}$	6 $\frac{1}{2}$	6 $\frac{3}{8}$	7 $\frac{1}{2}$	7 $\frac{3}{8}$	7 $\frac{1}{4}$	7 $\frac{1}{8}$
一九七五	二〇・二	二〇・五	二〇・八	三三・〇	三三・五	三三・七	三三・七
一三二	一四四	一六六	一八八	一六〇	一七二	一八四	一九七

第四五 陶磁器

陶磁器

(報告期翌年四月限)

大正何年

製 造 年 末 現 在	窯 數 (年未現在)		其 ノ 他	錦 窯	男	女	職 工 (平均一日 使用數)	製 品 額																
	本 窯 數	室 窯 數						工 業 用 品	飲 食 器	家 具 及 裝 飾 品	計													
												△本 燒	△繪 附	△素 燒	計									

第四五 陶磁器

二九五

第四五 陶磁器

備考	製品			
	計	其 他	玩 具	碼 子

(注意)

- 一、本表ハ繪附ノミニ係ルモノヲモ調査スヘシ(本縣ニテハ本燒、繪附、素燒ニ區分調査ス)
- 二、陶磁器素地燒窯及釉燒窯ハ本燒窯中ニ算入スヘシ
- 三、本燒窯室數ノ計算ハ器物ノ燒成ニ直接使用スルモノニ限ルヘシ
- 四、錦窯トハ主トシテ繪附ニ使用スルモノヲ謂フ
- 五、素燒窯ハ窯數ノ「其ノ他」ニ記入スヘシ
- 六、炮烙朝顔鉢類ノ如キ素燒品ハ本表ニ加算スヘシ
- 七、博多人形類ハ本表ニ算入スヘカラス
- △繪附トハ錦窯ヲ設備シ繪附ヲ爲スモノ、ミニシテ他ノ依托ニ依リ單ニ繪ヲ描クコトノミヲ業トスルモノ、如キハ調査ヲ要セス
- △模様アル數瓦ハ家具及裝飾品ニ記入スヘシ
- △窯ノ室數ハ窯數ヨリ多キヲ普通トス調査ノ際注意スルヲ要ス

△工業用品ニハ坩堝蒸發皿等化學工業ニ使用スル器具類ヲ謂フ
 △製造家ヨリ原料粘土ノ供給ヲ受ケ之ヲ一定ノ型ニ造リ製造家ニ提供シ工賃ヲ受クルモノ、如キハ調査ヲ要セス
 △廣島縣ニハ粘土ヲ以テ作リタル人形ヲ燒成シテ之ニ繪具ノ色彩ヲ施シ節句用雛人形トシテ販賣セリ本品ノ如ク窯ニ入レ燒成シタルモノナレハ無論陶磁器トシテ調査スヘキモノナリ
 △陶磁器ノ區分

大分類	四分類	素地		燒成溫度	類
		吸水ノ有無	釉ノ有無		
陶器	第一類土器	不透明	吸水ス	七〇〇 九〇〇	瓦器、焙烙
	第二類陶器	同	同	一、二〇〇 一、三〇〇	
	第三類炆器	同	吸水セ	同	
	第四類磁器	半透明	同	一、五〇〇 一、三〇〇	

栗田燒、薩摩燒、淡路燒、出雲燒、伊賀燒、犬山燒、名古屋、金澤、京都、淡路地方硬質陶器及半磁器ト稱スル西洋食器類
 常滑燒、伊部燒、萬古燒、相馬燒
 有田燒、清水燒、九谷燒、瀬戶燒
 多治見燒、會津燒、砥部燒、出石燒

△窯ノ種類

一登リ 窯 本邦從來ノモノニシテ山腹ノ傾斜ヲ利用シ數箇ノ窯室ヲ連接シテ階段狀ニ築造シ本燒及ヒ縮燒ニ使用ス本窯ノ「ドーギ」及「捨間」ハ室數ニ計算セサルモノトス

第四五 陶磁器

第四六 煉瓦、瓦及土管

三〇〇

備考	土	瓦			
		計	屋根瓦		
			△丸瓦	△製斗	鬼瓦等 道具類 其ノ他
	管				

(注意)

一、煉瓦、瓦又ハ土管ヲ併セ製造スルモノハ製造戸數及職工ハ主ナル一方ニ記入シ數量及價額ハ之ヲ區別シテ各相當欄ニ記入スヘシ

△煉瓦

煉瓦ハ粘土ヲ主タル原料トシテ之ニ適當ノ砂ト水トヲ混シ、高熱ニテ燒キタルモノ、粘土及砂ノ性質割合ニヨリ差等アリ、又燒灼ノ際窯中ニ於ケル位置ニヨリテ黑燒過、燒過、並燒ノ別ヲ生ス普通長七寸五分、幅三寸六分、厚二寸、燒過ニアリテハ長七寸三分、幅三寸五分、厚一寸九分トス、又關西形ト稱スルハ厚サ一寸八分ナリ、一坪ニ要スル枚數ハ普通百六十枚ナリ種類別ノ解説ヲ試ムレハ左ノ如シ

耐火煉瓦、耐火性ノ粘土ヲ高熱度ニ燒キタルモノニシテ烈火ニ耐ヘ得粘土製、硅石製、クローム製、マグネシヤ製ノ別アリ、マグネシヤクローム煉瓦ハ製鐵、製鋼、製銅用ニシテ其ノ大サ左ノ如シ

英國型	長	幅	厚
獨逸型	二四〇	一三〇	七〇
	二四〇	一三〇	七〇

而シテ此ノ煉瓦ヲ以テ築ク爐底ニハ小砂利ノ如キクリンカーヲ敷詰メマグネシヤセメントニテ築造スルモノナリ

耐酸煉瓦、各種ノ酸類ニ耐ユルモノニシテ化學工業ニ使用ス、本表ニハ耐火煉瓦中ニ加算記入スヘキモノナリ

張附煉瓦、煉瓦ノ表面ニ釉藥ヲカケ燒キタルモノニシテ表面珐瑯質ヲ爲シ美觀且ツ水分ヲ吸收セス、各種建築物ノ表面ニ粧飾用トシテ張リ附ク敷瓦及壁瓦等モ此ノ部類ニ屬ス

普通煉瓦、一般ニ使用スル煉瓦ニシテ品質及燒工台ニ因リ等級ヲ分ツ日本煉瓦株式會社ノ區分左ノ如シ

- 一 燒過煉瓦石 普通鼻黑煉瓦ト稱ス、撰燒過、燒過一等、燒過二等、燒過三等、下燒過
- 二 並燒煉瓦石 並燒一等、同二等、同三等
- 三 表積煉瓦石 表積一等、同二等、此ノ種項ハ特ニ外觀用トシテ形狀色澤等佳良ノ品質ヲ撰ム

其ノ他トハ鑛滓煉瓦、砂灰煉瓦及普通煉瓦ヨリ大サ二倍又ハ三倍アル煉瓦ヲ謂フ

△煉瓦及瓦ハ原則トシテ燒成ノモノヲ調査スヘキモノナルヲ以テ燒成セサル硬化煉瓦ハ本表ニ計

第四六 煉瓦、瓦及土管

三〇一

第四六 煉瓦、瓦及土管

入セサルモノトス
△煉瓦ノ良否鑑定

良

- 一 反リ歪ミ等ナク形状正シキモノ
- 二 二箇相撃テ清音ヲ發スルモノ
- 三 吸水量少ナキモノ（吸水標準ハ重量ノ十五分ノ一以下ナルモ普通ハ六分ノ一内外ヲ良品トス）
- 四 肌合粗鬆モルタルノ附着能キモノ
- 五 化粧用ハ色澤ニ不同ナキモノ

否

- 一 罅割シ缺損シ若ハ石塊等ノ混在セルモノ
- 二 音響濁音ヲ發スルモノ
- 三 吸水量多キモノ燒不足ナリ
- 四 表面平滑ニ過キ附着力ヲ妨クルモノ

△煉瓦ノ量目

一等燒過 七百目乃至六百五十目

下等燒過 六百三十目内外

一立方尺 十二貫二百目乃至十三貫六百目

一立坪 平均二千九百四十貫

モルタル積一立方尺 平均十三貫目内外

一立坪モルタルナシ 四千七百七十箇

△煉瓦積用モルタルノ量

三分目ノ時平均煉瓦千箇ニ付モルタル十五立方尺一十八立方尺

△普通煉瓦ノ大サ 長七寸五分幅三寸五分厚二寸ニシテ一坪ニ付百六十枚（再掲）
△瓦

瓦ハ粘着力強キ粘土ヲ用ヒ先ツ素地ヲ作リテ陰乾ト爲シ窯中ニ積入レテ燒ク、吸水少キヲ可トス多キトキハ凍害ヲ受ケ易シ、バビロンノ古城、支那ノ堂塔等ヨリモ其ノ破片ヲ發見シ我國ニテハ用明帝ノ元年百濟ヨリ瓦博士四人ヲ献シ大化後土工司ヲ置キ製瓦ヲ掌ラシム語原ハ印度語「キヤハラ」ヨリ轉セシモノナリト謂フ

全國ニ於テ産額ノ多キハ愛知縣ヲ第一トシ次ハ兵庫、福岡縣等ナリ本縣ニテハ淡路兩郡、明石郡等最モ産出ニ富ム其ノ種類左ノ如シ

大分類	名	稱	寸法	
			縦	横
扁平瓦	竝	瓦	一	一
	槽	瓦	一	一
	深	瓦	一	一
	平	瓦	一	一
	棟	瓦	一	一

壁ニ鐵釘ニテ打付ケ其上ヲ漆喰又ハモルタル塗トス大サ八寸角、九寸角、一尺角ニシテ釘打付用ノ孔ヲ有ス平瓦ハ牝瓦ニシテ稍反リタル方形ナリ專ラ本葺ニ用ユ、本葺トハ平瓦ヲ竝ヘ其ノ合セ目ニ丸瓦ヲ伏セ雨水ヲ防ク佛閣、城、櫓等ニ用ヒラレシモノ本葺用同棟積用

第四六 煉瓦、瓦及土管

第四六 煉瓦、瓦及土管

煉瓦	雙羽	重箱	唐草	唐瓦	平唐草	棧唐草	檜平唐草	隅唐草	雙羽重箱唐草
斗敷平	斗平	瓦	切込棧	引掛棧	唐草瓦	平唐草	棧唐草	隅唐草	雙羽重箱唐草
八〇	八五	七五							
五五	七七								

軒先唐草ノ下積用

平瓦ノ一種ニシテ棟平ノ名アリ平瓦ヨリ少シク長ク中央ニ線アリテ二箇ニ分割シ棟ノ雁振、丸瓦ノ下ニ二三枚宛重ネ用ユ
 断面波状ヲ呈セル葺瓦ニシテ形態ニ依ル種類ハ列記ノ通ナルモ、品質ニ依リ區分スレハ檜物(上等品)廣間物、長屋物(下等品)等アリ、又仕立方ニ依リ區別スレハ兩面磨片面磨等アリ
 兩端ニ切込アルモノ
 一端ノミ切込アルモノ
 瓦棧ニ引掛クル爲メ一端裏面ニ折曲リアリ急勾配ノ屋根ニ葺土ナシニ用ウ
 花瓦ニシテ瓦ノ端ニ水草ノ紋様ヲ作りタルモノ軒先用ナリ

方形屋根ノ軒先隅角用

切妻屋根ニ雙羽瓦ヲ用ヒタル場合使ス

隅瓦	棟隅瓦	鬼板瓦	獅子口瓦	蛭吻瓦	軒瓦	半圓瓦	丸瓦	小竝瓦	大竝瓦	巴瓦	小巴瓦	菊瓦	雁振瓦

丸瓦ハ牡瓦ニシテ半圓形ヲ爲ス、竝丸ト稱スルハ下等建築ノ雁振ノ代用、切妻屋根ノ兩端風切、方形屋根ノ下リ棟ニ用ヒ、小丸又ハ絲丸ハ本葺屋根ノ流レハ恰カモ平瓦ノ押縁ノ如ク合セ目ノ上ニ用ユ
 平瓦ニ於ケル唐草瓦ノ如ク軒先ニ用ヒラル長三尺巴ノ直徑四寸六分、大厦高樓用
 風切用
 本葺用
 巴瓦ノ小ナルモノ面ニ菊花ヲ圖シ大棟ニ用ヒ輪違瓦ト共ニ裝飾トナス
 所謂鑄瓦ニシテ丸瓦、接手、即チ鑄ヲ取付ケタルモノニシテ棟ノ最上部ニ用ウ

俗ニ鬼瓦ト稱スルモノ

△瓦ノ寸法、一坪當枚數

第四六 煉瓦、瓦及土管

第四六 煉瓦、瓦及土管

地方ニ依リ異動アルヲ免レサルモ二三地方ノモノヲ掲載シ參考ニ供ス
縣下津名郡製瓦同業組合申合

種類	一坪ニ付枚數		厚	切欠	谷深サ	巴ノ鏡直徑	唐草
	縦	横					
六四燒立	六四	九二	六三	一三	一三	三三	水落
七二瓦燒立	七二	八四	五八	一三	一三	二八	一三
間中平地瓦燒立	八四	七四	五八	一三	一三	二八	一三
間中九瓦燒立	六〇	五八	五五	一三	一三	二八	一三
本中平瓦燒立	九二	八二	六三	一三	一三	二八	一三
本中九瓦燒立	六八	六七	五八	一三	一三	二八	一三
ノシ瓦燒立	八〇	七九	六二	一三	一三	二八	一三

表中六四、七二ハ簡略瓦ト稱シ都會ニ於テ多ク用ヒラル、間中平ハ間中丸ト組合セ、本中平ハ本中丸ト組合セ各本葺瓦ト稱シ寺院倉庫並地方ニ於ケル住宅用トシテ使用セラル、鬩斗瓦雁振ハ一間八枚ノ割合ニテ使用サル、モノナリ又一坪ノ枚數ハ上表ニ記載セル外地ニ依リ又葺方ニ依リ増減アルヲ免レス、同シ津名郡内ニテモ六四ハ百十五枚、七二ハ百六十枚ヲ以テ一坪トセラル向アリ實地調査ノ際周到ナル注意ヲ要ス
東京瓦外二

東京瓦

尾州及三州瓦

京都瓦

種類	大サ寸法		種類	大サ寸法		種類	大サ寸法	
	縦	幅		縦	幅		縦	幅
槽棧	一〇	九	兩面磨深切込引懸棧	一〇	八	棧瓦六四	一〇	八
兩面磨棧瓦	九	九	同 長引懸棧瓦	一〇	八	同 五六	九	七
片面磨棧瓦	九	六	兩面磨深切込棧瓦	一〇	八	中深棧瓦	八	八
並棧瓦	八五	不定	片面磨棧瓦(六四五)	九七	八	八十枚モノ小棧瓦	七	七
			同 (七二瓦)	九七	七	百枚モノ	七	五

△瓦一釜ノ製出高 日本式瓦釜一箇ニ對スル燒立瓦ハ千枚、千二百枚、千四百枚等ノ種類アリ
テ火入ヨリ燒上迄ノ時間七八時間ト準備並燒成瓦取出等ヲ併セテ三日間ヲ要スルヲ以テ天候其
ノ他ノ故障ナキ限リ一箇月一釜ニ付十回ノ燒立ヲナシ得ル筈ナルモ往々一箇年間四五釜位ノ生
産ヨリ申告セサルモノアリ調査上此等ノ點ニ注意ヲ拂フコト大切ナリ
△瓦ノ良否鑑定

- | | | | | |
|-----------|--------------|---|-----------|---|
| 一 形状 | 正シキモノ | 良 | 正シカラサルモノ | 否 |
| 一 吸水量 | 少キモノ | | 吸水多キモノ | |
| 一 音響 | 輕ク擊チテ清音アルモノ | | 濁音ヲ發スルモノ | |
| 一 破面ノ粗密 | 緻密ナルモノ | | 粗ナルモノ | |
| 一 破面ノ色 | 白キモノ | | 色換リ筋目アルモノ | |
| 一 葺上降雨後ノ色 | 表面ニ斑點ヲ生セサルモノ | | 斑點ヲ生スルモノ | |

第四六 煉瓦、瓦及土管

第四六 煉瓦、瓦及土管

△ 瓦ノ重量

地燒棧瓦

三州瓦中深切込棧

△ 瓦ノ圖解

豎瓦

蝶羽平瓦

並棧瓦

平唐草瓦

平瓦

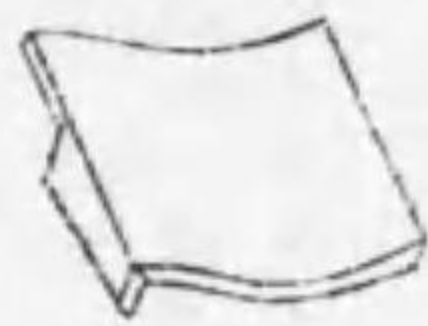
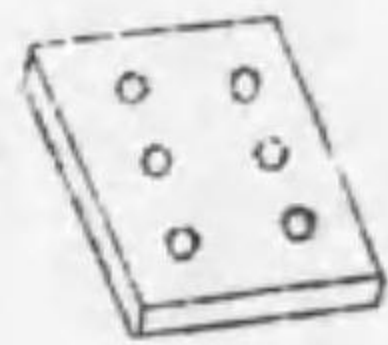
熨斗瓦

一枚ニ付

五百目乃至五百六十目

同

六百目乃至六百二十目



切込棧瓦

蝶羽唐草瓦

深窪平瓦

敷平瓦

槽引掛棧瓦

隅唐草瓦

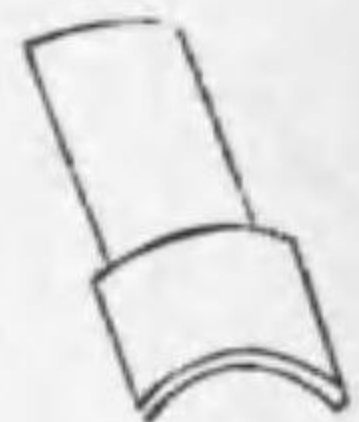


丸瓦

雁振瓦

巴瓦

菊瓦



△本表根屋瓦ノ欄ニハ日本在來ノ黒瓦赤瓦ヲ記入スヘキモノニシテ鬼瓦軒瓦ヲ含ム

△瓦其ノ他ニハ壁下若クハ塙壁ニ用ユル豎瓦又ハ西洋式各種瓦並特許六甲瓦類ヲ記入スヘシ

△土管ト陶磁器トヲ併セ製造スルモノ、戸數職工ハ双方ニ重複計上差支ナシ

△屋根瓦ノ數量單位「坪」ハ葺坪ナリ

△屋根瓦ハ種類ニ依リ大小アリ又各地方ニ於テ其ノ大サ一定セサルヲ以テ坪ノ枚數一定セス故ニ

坪ヲ單位トスルトキハ調査上困難ナルモ一坪ヲ葺キ得ル枚數ヲ取調坪ニ換算シテ報告スヘシ次

項ヲ參看スヘシ

△鬼瓦、軒瓦、丸瓦等ノ屋根瓦ハ如何ニ坪ニ計算スヘキヤトノ問ニ對スル本省ノ回答ハ平瓦以外

ハ其ノ他トシテ調査スヘシトアリ(問八四)然ルニ從來ノ調査ハ其ノ他ニハ井戸瓦、敷瓦、壁

下、塙壁用及西洋形各種瓦類ヲ計上シタルヲ以テ今本省指示ノ如ク分類ヲ變更スルトキハ従前

ノモノト比較上面白カラサル結果ヲ生スルニ至ルヘキヲ以テ兵庫縣ノ統計材料ハ從來ノ方針ニ

依リ屋根瓦中ニハ鬼瓦、軒瓦、丸瓦ヲモ計上スルコト、ナレリ但表式△ノ示ス如ク内譯調査ヲ

ナシ本省報告ノ際ハ本省ノ指示ニ依ルコト、ナセリ

△平瓦ト丸瓦トノ割合ハ六ト四ナリ即チ千枚中平瓦ハ六百枚之ニ對スル丸瓦ハ四百枚トシテ市場

ニ取引サル

△土管中ニハ素燒ノモノ及燒法土管ト異ナラサル井戸側ヲモ含ム

第四六 煉瓦、及瓦土管

第四七 硝子製品

直火窯 瓦斯窯ト同構造ナルモ石炭直接燃焼法ヲ以テ原料ヲ熔解ス

三一

△價額記入區分

名稱	記入スキ種類
食器類	コップ、皿等
燈火用品	石笠、ホヤ、ランプ油壺、電珠原料
珠玉及光珠	南京玉、人氣玉、模造眞珠其他各種色彩珠
腕輪	主トシテ輸出用
板硝子	厚板硝子
意硝子	建築用品
其他	金魚鉢、糊壺、インキ壺、硝子鏡原料、硝子管、時計硝子

第四八

和紙

(報告期翌年四月限)

大正例年

製 造 年 末 現 在 數	職 工 (平均一日 使用數)		計	數	量	價	額	單	價
	男	女							
美濃紙									
半紙									
烏ノ子紙									
雁皮及薄葉紙									
吉野紙及典具帖									
東洋紙									
唐紙									

第四八 和紙

三一

備考	計	其 他	△ ロ ー ル 半 紙	△ 太 平 紙	△ 名 鹽 紙	△ 塵 紙	澆 返	奉 書 及 杉 原	畫 仙 紙

(注意)

- 一、美濃紙ハ四十八枚半紙ハ二十枚ヲ以テ一帖トシ各十帖ヲ以テ一束トシ十束即チ百帖ヲ以テ一縮トス
 - 二、美濃紙ハ書院紙、内山紙、信濃紙等美濃判製紙一切ヲ含ム
 - 三、ロール半紙ノ如キハ其ノ他ノ欄ニ記入スヘシ
- △表紙紙類ノ解

美濃紙 書院紙、内山紙、武儀紙、直紙、信濃紙等美濃判製紙一切ヲ含ム

半紙 全紙ヲ兩斷シ輕便ニセルヨリ此ノ名アリ

烏ノ子紙 古ハ雁皮今ハ三極ヲ原料トス色烏卵ニ似タルヲ以テ此名アリ質厚ク肌滑ニ最モ強靱ナリ主トシテ辭分書、證券類、繪畫ノ印刷ニ用ヒ支那及歐米ニ輸出ス

雁皮及薄葉紙 雁皮、楮、三極製ノ薄葉紙ニシテ書狀、計算書等ヲ複寫スルコソビ一紙トシテ使用ス

吉野紙 大和吉野郡丹生郷ノ原産、極メテ薄ク、典具帖ニ似テ劣ル、漆ヲ漉スニ用ヒ、漆漉ノ名アリ原料ハ楮

典具帖 楮ノ極メテ優良ナル纖維ヲ以テ精製シタル紙ニシテ質甚薄ク色白ク美ニシテ強シ金銀寶石類ノ包装及版下ニ用ウ胡粉ニテ模様ヲ施シタルヲ紋典具帖ト謂ヒ窓硝子等ニ貼用ス

東洋紙 其質半紙又ハ美濃紙ニ類シ縦二尺横二尺一寸五分位ニテ専ラ支那ニ輸出ス

唐紙 支那浙江、福建、江西ニ産スル竹製ノ紙、支那ニテハ白キヲ連史、薄色ナルヲ毛邊ト稱ス本邦ニテハ唐紙ト稱シ畫仙紙ト區分ス

畫仙紙 宣紙ノ轉訛、清國安徽省宣城縣ニ産ス紙幅最廣ク古來書畫用トシテ文人墨客ニ賞用セラル

奉書 楮皮ヲ精製シ米粉ヲ加ヘテ抄ク古來越前五箇ノ庄ノ産、昔ハ専ラ奉書用トシ今ハ進物ヲ包ムニ用フ、大廣、御前廣、大、中、小ノ別アリ、杉原紙ノ厚漉ナリ

杉原紙 奉書紙ノ一種稍薄クシテ柔、兵庫縣多可郡杉原村ノ産多クハ糊ヲ加ヘテ糊入ト稱ス中、小、強、鬼杉原及延紙等アリ、今ハ越前、土佐ヨリ多ク産ス

第四八和紙

漉返紙

反古ヲ漉返シタルモノ、古名宿地又還魂紙トモ謂フ、今ノ淺草紙、櫻紙等ハ之ニ屬ス

塵紙

楮ノ外皮ヲモ雜ヘテ漉タル粗硬ノ紙、塵滓アリ包紙等ニ使用ス一名槽紙
兵庫縣有馬郡鹽瀨村名鹽ニ特産ノ澳紙ニシテ間似合紙トモ稱ス三極、雁皮、反古、クレー等ヲ原料トス、千枚ヲ一捆リトス、百枚毎ニ分異紙ヲ狹ミ、二寸間似合、五寸間似合、色間似合、金下地紙等ノ種類アリ

ロール半紙

機械製紙ナリ
楮ニ少量ノ米紛ヲ混シ製ス堅一尺一寸横一尺五寸一分美濃紙ヨリ厚ク強シ常陸那珂、久慈、多賀郡ノ産、元同國西ノ内村ノ産

程村紙

西内紙ノ一種、常陸程村産紙質西ノ内ヨリ精良緻密ニシテ強靱、近時歐米ニ輸出シ書畫印刷用トス
文祿年中仙化居士兩面紙ヲ造リ始メシヨリ名ツク、居士水戸ノ人、紙質ハ強靱合羽袋物等ニ賞用、伊豫土佐ノ産、宇和島仙化、登川仙花著名ナリ

仙貨紙

此ノ外地方特産ノ皆田紙、文庫紙、(城崎郡港村畑上産縮緬包裝用三尺ニ三尺八寸四百枚一縮一貫四百枚) 太平紙(襖用長五尺六寸三分幅三尺一寸) 洋雁、繭米袋用紙等ハ其ノ他ノ欄ニ價額ヲ合算記入シ別ニ備考欄ニ數量價額ノ内譯ヲ附記スルトキハ調査上ニ資スルコト多大ナリ

△和紙ノ寸法及數量
本省様式注意ニハ百帖ヲ以テ一締トナスアルモ各地必スシモ之ト一致セサルヲ以テ能ク地方ノ實際ヲ調査シ換算記入スルヲ要ス依テ其一例トシテ淡路産紙同業組合ノ申合寸法等ヲ左ニ録ス

種	東洋	美濃	清帳	書院	障子	大奉書	小奉書	丈奉書	仙貨紙	同判紙	大判紙	同判紙	半判紙	同判紙	四ツ判紙	同判紙	半切紙
---	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----

寸法	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸	一尺一寸
數量	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖	一帖

横一丈ノモノ多シ

一捆十二締

第四八和紙

第四八和紙

半切紙	五	八以上	四	一	一	一	一	雁皮紙五百枚ヲ一連ト稱ス
同	五	一七〇	四	一	一	一	一	百枚ヲ一貫トス(氷上郡)
小半切紙	五	一三五	四	一	一	一	一	千枚ヲ一捆トス
七九判紙	七	九〇	〇	〇	〇	〇	〇	
七夕色紙	七	九〇	〇	〇	〇	〇	〇	
塵紙	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	八枚、十八枚一帖ノモノアリ
同	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
同	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
同	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
同	八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
淺草紙	大中小							
コッビー紙	二七〇	一四〇	五	〇	〇	五	四	
繭袋用紙	二七〇	一四〇	〇	〇	〇	〇	〇	
二寸間似合	三三〇	一三〇	〇	〇	〇	〇	〇	
三寸間似合	三三〇	一三〇	〇	〇	〇	〇	〇	
四寸間似合	三三〇	一三〇	〇	〇	〇	〇	〇	
五寸間似合	三三〇	一三〇	〇	〇	〇	〇	〇	
色間似合	三〇九	一二九	〇	〇	〇	〇	〇	淺黄、茶、銀鼠、鴛茶、鼠、金花、白茶、本花色
金銀下地紙	一八三	一二九	〇	〇	〇	〇	〇	淺黄、萌黄、納戸、玉子色等ノ別アリ
藥袋紙	一〇二	一〇二	〇	〇	〇	〇	〇	四千枚ヲ一捆トス
								二千四百枚ヲ一捆トス

第四九漆

液

(報告期翌年四月限)

大正何年

製	製造戸數	(其ノ年八月末日現在)	數	量	價	額	一貫ニ付價格
正	味	(幹 搔)					
瀨	濕	(枝 搔)					
雜	液						
計							
備考							

(注意)

- 一、本表ハ製造所カ搔取人若ハ仲買人ヨリ買取リタルモノ悉皆ヲ調査スヘシ
- 二、搔取人自身カ製造スル場合ニ於テモ之ヲ調査スヘシ
- △製造所相互間ノ取引ニ係ルモノハ重複ニ渉ルノ虞アルヲ以テ記入スヘカラス
- △本表ハ搔取リタル漆液ヨリ木屑、塵芥等ノ夾雜物ヲ除キタル生漆ヲ記入スヘキモノトス
- △管内ノ漆ノ如キハ散植ニ過キササルモ會津吉野地方ニテハ漆畑ナルモノアリ之ヲ作ルニ目的ニアリ一ハ漆液ヲ主トシ一ハ漆實ヲ主トス、漆實ヲ主トスルモ漆液ヲ搔取ラサルニアラス、唯搔取ニ二法アルナリ前者ハ搔取法ヲ用キ、後者ハ養生搔ノ法ヲ用ク

第四九漆液

第五〇 漆器

三三〇

第五〇 漆器 (報告期翌年四月限)

大正何年

備考	計	其 他	飲 食 器	家具及裝飾品	職工 (平均一日 使用数)			製 造 年 末 現 在 数
					計	女	男	
								額

△佛壇、佛具、一閑張、塗箸、雜筆筒等漆ヲ塗リ普通漆器ト稱シ得ヘキモノハ總テ之ヲ調査スヘシ
 △尤漆ヲ塗リタリト雖馬車、人力車、自動車、普通ノ筆筒ニシテ漆器ト稱シ得ヘカラサルモノハ調
 査計上セサルモノトス
 △本表ノ其ノ他ニハ塗筆筒佛壇位牌煙管筒ノ類ヲ記入スヘシ

第五一 製革 (報告期翌年四月限)

大正何年

備考	計	其 他	馬 革	牛 革	職工 (平均一日 使用数)			製 造 年 末 現 在 数
					計	女	男	
								額
								一枚ニ付價格

(注意)

- 一、本表ハ獸革ニ限リ記入スヘシ
- 二、枚數ハ一頭分ヲ以テ一枚ニ計算スヘシ

第五一 製革

三三一

第五四 植物油

三二七

脂							職 工 (平均 一日 使用 數)	製 造 年 末 現 在 數		
桐 油	椿 油	亞 麻 仁 油	綿 實 油	荏 油	胡 麻 油	菜 種 油			計	男
							數			
							量			
							價			
							額			
							單			
							價			

第五四

植物油

(報告期翌年四月限)

大正何年

備 考	油 發 揮				油 肪						
	計	コ ブ シ 油	ク ロ モ シ 油	松 精 油	松 根 油	計	其 ノ 他	椰 子 油	落 花 生 油	大 豆 油	樺 油

△大豆粕肥料ヲ製造スルカ爲ニ産出スル大豆油ノ如キ副産物ノ場合ハ戸數職工ハ調査ニ及ハス
△農家ノ自家用製品ト雖調査スヘキコトハ一般注意ノ通り

第五四 植物油

三二七

第五四 植物油

△脂肪油ノ其ノ他ニハ茶梅實油、茶實油、山毛櫨油、胡桃油等ヲ記入スヘシ
△植物性油ノ原料及用途

原料	用途
菜種油	一ニ種油ト稱ス、褐黄色機械油、燈油、食用之ヲ規灰棉實灰又ハ白土ニテ精製シ白絞油トナス
胡麻油	一番搾ニ番搾ハ食用、三番搾ハ石鹼ノ原料
荏油	淡黄色ノ乾性油、提灯、雨傘、合羽、紙革ノ塗料、在水油、ジウネノ油トモ謂フ
綿實油	又メンジツユ、食用、石鹼製造用、阿列布油ノ偽造用
亞麻仁油	淡黄色油、最良ノ乾性油、塗料、印刷インキ、リノリユーム軟石鹼製造用
椿油	黄色無臭、不乾性油、毛髮油、食用、燈油、機械油
桐油	罌子桐又山桐、塗料、油紙製作用、燈油、人造ゴム、リノリユーム用
樺油	食用、素麵、漆器、合羽、油ノ凍止、殺蟲用、塗料、假漆ノ材料
大豆油	黄色油ノ半乾性油、食用塗料、石鹼原料
落花生油	一番搾ハ微黄佳味阿列布油ノ代用食用、二番搾ハ食用及燈油三番搾ハ石鹼原料、毛織物ノ光澤附、絹ノ繻詰

△採油量ノ割合

種油	原	料	製油	絞	粕
椰子油	椰子ノ果肉	石鹼、蠟燭、人造牛酪ノ原料	二斗内外	二十貫内外	
茶梅實油	茶梅實油	淡黄色油、不乾性ニシテ椿油ニ酷似ス	一石		
茶實油	茶實	黄色不乾性油、性狀用途椿油、茶梅實油ニ近似ス但食用ニハ適セス	一石		
山毛櫨實油	山毛櫨ノ實	水様無臭ニテ食用、燈火用、搾粕ハ動物飼料ニ適スルモ馬ニハ禁ス	一石		
胡桃實油	胡桃ノ實	帶綠黄色又ハ無色冷壓ハ食用又乾性油ナルヲ以テペンキ油繪具ニ用ク	一石		
松根油	松根、松幹ノ肥	ペンキ、ワニス等塗料ノ溶劑、機械ノ洗拭用殘滓ノ上澄ハ重油底溜ハ木タール	一石		
松精油	松脂	同上及人造樟腦ノ原料	一石		
クロモシ油	鉤樟ノ枝葉	化粧品及石鹼等ノ香料	一石		
コブシ油	辛夷、花芽及幼枝	石鹼及洗粉ノ香料	一石		
荏油	荏子ノ實		二斗内外	二十貫内外	
桐油	桐子ノ實		一石		
大豆油	大豆		一石		
落花生油	落花生ノ子實		一石		

第五四 植物油

又菜種油ハ原料平均重量ニ對シ四割ノ油量ヲ含ム
小落花生百斤(約一石)ニ付 八升五合
落花生百斤(約一石)ニ付 七升内外
一石ニ付 八十貫乃至百三十貫ニ付
七十貫乃至百貫ニ付

第五五 木 蠟

三三〇

第五五

木

蠟

(報告期翌年四月限)

大正何年

備考	晒蠟	生蠟	數	量	價	額	一貫ニ付價格	職工 (平均一日使用數)			製 (年未現在) 戸數
								計	女	男	
	蠟	蠟									

(注意)

一、生蠟ノ欄ニハ晒蠟ノ原料ニ供シタルモノヲモ記入スヘシ
 △本品ハ本邦ノ特産ニテ九州四國ニ多ク栽植スル蠟又ハ漆ノ實ヨリ搾取ス本縣ニテハ城崎郡ニ産
 ス帶綠黃乃至褐色ノ固體ニシテ搾取セルマ、ナルハ生蠟ト稱シ晒白品ハ純白ニシテ晒蠟ト調フ
 蠟燭原料艶付用トシテ多量ニ輸出ス

△生蠟ノ欄ニハ晒蠟ニ供シタル原料ヲモ合算スヘキモノトス
 △原料ノ植實百貫乃至百三十貫ヨリ得ル生蠟ハ一本即チ十六貫ヲ普通トス
 △子實ノ收穫ハ地質ト栽培ノ適否ニ依リ一概ニ律スル能ハサルモ概略植込五年後ヨリ結實ス其ノ
 量左ノ如シ

植込五年目結實 五合
 七八年目 二三升
 十年目 五六升
 十五年目 一斗二三升
 二十年目 二斗以上
 五十年目 七八斗ヨリ一石位
 但登實多量ナル翌年ハ休閒スルモノナリ

第五五 木 蠟

三三一

第五六蠟燭

備考	計	西 洋 型	日 本 型	數	量 價	額	一斤ニ付價額	職工 (平均一日 使用數)			製 造 年 末 現 在 數
								計	女	男	

△蠟燭ハ紙、燈心又ハ絲ヲ心トシ周圍ヲ厚ク蠟ニテ固メタル點燈用材、日本型ハ紙ニ燈心(蘭髓)ヲ卷キタルヲ心トシ、上ニ木蠟ヲ塗固メタルモノ西洋型トハ粗絲ヲ心トシテ型ノ中央ニ立テタルモノニバラフィン(石蠟)、ステアリン(石油ヨリ取リタルモノ)等ヲ流シ込ミテ鑄固メタルモノナリ又蜜蠟、鯨蠟等ヲモ用ウ

第五六 蠟燭 (報告期翌年四月限)

大正何年

第五七 製 藍 (報告期其ノ年十月限)

自大正何年七月一號年
至大正何年六月一號年

備考	計	藍 玉	漆 ス カ モ	數	量 價	額	單 價	價	職工 (平均一日 使用數)			製 造 年 末 現 在 數
									計	女	男	

(注意)

一、漆ノ欄ニハ藍玉ノ原料ニ供シタルモノヲモ記入スヘシ
△漆トハ藍葉若クハ本葉(本葉トハ藍葉ノ下部ニ附着セルモノ)ノ乾葉ヲ濕シ醱酵セシメタルモノ其ノ儘使用シ又ハ藍玉ノ原料ニ供スルモノ

第五七 製 藍

第五七 製 藍

三三四

△藍玉トハ藻藍ヲ白ニ入レ搗キテ丸形又ハ角形等ニ固メタルモノ游離青藍百分ノ五乃至一〇ヲ含ム
 △藻ノ欄ニハ其ノ儘使用シタルモノト藍玉ノ原料ニ供シタルモノトヲ合算記入スルモノトス

第五八

味 噌

(報告期至年三月限)

大 正 何 年

備考	計	白 味 噌	辛 味 噌	甘 味 噌	數	量	價	額	一貫ニ付價格	職 工 (平均一日使用數)			製 造 年 末 現 在 數
										計	女	男	

(注意)

一、自家用ハ調査ヲ要セス

第五八 味 噌

三三五

第五八 味噌

△味噌ノ區別

調査原料	釜入時間	所屬區分
甘味 噌 米麴、大豆、鹽	十二時間以上	仙臺味噌、麴ヲ使用セサ ル青森縣ノ玉味噌
辛味 噌 麥麴、大豆、鹽		麥味噌、三州八丁味噌
白味 噌 米麴、大豆、鹽	三時間	(甘味噌ヨリ優良ノ原料 ヲ要ス)

△金山寺味噌等普通管味噌及魚鳥味噌其ノ他ノ混成管味噌ハ調査ヲ要セス

第五九 澱粉

(經營期其ノ年八月限)

自大正何年七月一箇年
至大正何年六月

製造戸數 (六月末日現在)	馬 鈴 薯	甘 蒔 落	其 ノ 他	備 考	原料需要高		製 造	
					數 量	價 額	數 量	價 額
								一斤ニ付價額

(注意)

- 一、自家用ハ調査ヲ要セス
- △生麩製造ノ副産物タル澱粉ノ如キハ原料需要高ノ調査ヲ要セス
- △蕨糊ハ調査スルモ蒟蒻糊、米糊ハ調査セス
- △本表澱粉ハ食用ハ素ヨリ工業用例ヘハ紡織工場ノ糊料、化粧品、白粉製造ノ原料等ヲモ記入スルモノトス
- △糊精 澱粉工場ニテ糊精ノ製造ヲ兼スルモノアリ該當ノモノハ本表備考ニ附記スルヲ要ス糊

第五九 澱粉

第五九 澱粉

三三八

精一ニ又デキストリンハ澱粉ヲ攝氏二百度内外ニ熱スルカ又ハ稀薄ナル酸ヲ作用セシメテ得ラ
ル、白色無定形ノ物、水ニ溶解ス、粘着力強キカ故印紙封筒等ノ糊ニ用フ、糯米ノ粘力アルハ
此物ノ存スルニ依ルト謂フ

△其ノ他中ニハ馬鈴薯、甘藷ノ外左記各種ノモノヲ計上スルモノトス
△澱粉ノ種類

澱粉ハ葉綠素ヲ含有セル植物體ニ存スルモノニシテ、菌類ノ如キ葉綠素ヲ有セサルモノニハ含
有セス、澱粉ハ植物ノ生育上必要ナルハ素ヨリ動物ノ生活上ニモ缺ク可ラサルモノナリ、其ノ
形状ハ之ヲ採取シタル原植物ノ種類ニ依リ異ナルモノニシテ顯微鏡ヲ用ユレハ其ノ原植物ヲ判
定スルコト容易ナリ、澱粉ニ濃厚ナル沃度液ヲ注ケハ、糯米製ハ赤褐色ニ變スルモ、其ノ他ハ
何レモ青色ヲ呈ス
今澱粉採取ニ供スヘキ植物ヲ舉クレハ左ノ如シ

塊	莖	澱粉ノ歩合
馬鈴薯	馬鈴薯	二一—二四
葛	葛	二〇—二五
烏芋	烏芋	?
慈姑	慈姑	二〇—三三
タビオカ	タビオカ	二六—三三

片栗粉ト稱シ販賣スルモノハ概ネ本品ナリ主産地北海道、千
葉縣
大和吉野、福井縣、大分縣及山陰地方ニ多ク産ス吉野葛名高シ
精製原料ヨリハ六割四分ノ歩合アリ
支那産ナリ市場ニテ馬蹄粉ト稱ス
原料高價ノ爲製産セス
海峽殖民地、馬來聯邦、瓜哇、スマトラ、南米、西印度諸島
ニ耕作ス英領印度ヨリ年額百五六十萬擔ヲ輸出ス

芋類	根	莖	鱗	塊根(又球根)
マランタ クルクマ	カンナ、エヅリス	蕨	百合	烏瓜
二〇—三〇	?	?	?	?
里芋(青芋)、八ツ頭芋(九面芋)、ハスイモ、ズイキ、唐ノ芋 等ナルモ原料高價ニシテ製造ヲナサス	西印度諸島ニ栽培シ之ヲ「西印度アロールト」トモ稱ス 東印度ニ栽培ス之ヲ「東印度アロールト」トモ稱スアロール トハ琉球ニモ産ス三十七年頃臺灣ヨリ移入ス澱粉含量多ク品 質優良甘藷ニ勝ル 澱粉用トシテ南米ニ栽培ス 地下莖ヲ石臼ニテ搗碎シ製造ス之ヲ蕨粉ト謂フ食用及糊トナ ス 本邦ニ於テハ未タ製造セサルモ支那ハ古來之ヲ製ス	原料ハ主ニ鬼百合一名山百合、鹿ノ子百合、姥百合、平戸百 合ヲ用フ本邦年産額六七十萬貫、北海道、新潟、岩手、三重 千葉、兵庫、岡山、埼玉、廣島、京都ノ各府縣主産地ナリ 本邦山野ニ自生シ紫色六瓣ノ花ヲ着クル車前葉山慈姑ヨリ製 ス東北地方ニ多シ	普通ノ烏瓜(王瓜)ハ雞卵大紅熟スルモノ、根ヨリ製スルモ ノト黃烏瓜(天瓜)トテ前者ノ二倍大ニ黃熟スルモノ、根ヨ リ製スルモノトアリ前者ハ食用ニ供シ後者ハ天花粉ト唱ヘ亞 鉛若干ヲ加ヘテ小兒用ノ「汗知ラス」ヲ製ス 四十日蒔、白藷、川越蒔等原料ニ適ス 薯蕷(山芋)ノ山野自生ヲ自然生又ハ野山薯ト稱シ栽培セルヲ長薯 家山薯ツクネイモト稱ス	

第五九 澱粉

三三九

第五九 麵粉

三四二

合計十六億餘萬斤即二億六千六百餘貫トナリ本邦産馬鈴薯ノ大部分(大正九年二億八千八百萬貫)ヲ輸出セラル、コト、ナル其ノ米價ニ關係ヲ及ボスコト當然ナリ、局ニ本表調査ニ當ルモノ其食糧問題ニ關スル甚大ナルヲ思ヒ之ヲ輕視スルコトナク慎重ナル調査ヲナスコト大切ナリ
 △澱粉價額 百封度當大正十一年七月八日大阪阿波座下通一麻殖生商店

片栗粉檢一	二二〇 ^円	甘藷菱德	二二七 ^円	セーゴ一	八七 ^円
同輸出向	二〇九	同輸出向	二一三	コンス	九〇
タビオカ	八五	菱德正欸	一五〇	テキスト	一六五
				ホキート	二二〇

第六〇

麵類

(報告期翌年四月限)

大正何年

備考	計	其 ノ 他	素 麵	乾 餛 飩	職 工 (平均一日 使用數)			製 造 年 末 現 在 數	數	量	價	額	一貫ニ付價格
					計	女	男						

(注意)

- 一、本表ハ乾燥シタルモノニ限ル
- 二、自家用ハ調査ヲ要セス

第六〇 麵類

三四三

第六〇 麵類

三四四

△乾餛飩、素麵ハ小麦粉、食鹽、綿實油ヲ以テ手延製ハ冬期十一月一日ヨリ翌年三月末頃迄、機械製ハ毎年六七月頃ヨリ翌年迄之ヲ四季ニ區分製造ス左ニ兵庫縣下(播磨國揖保、飾磨、神崎、武庫、三原郡地方)ニ於ケル概略ノ季別其ノ他ヲ掲クヘシ

一 製造期

夏 製 秋 製 冬 製 春 製
 六月二十日ヨリ九月ヨリ十一月二十日ヨリ四月ヨリ
 八月末迄十一月十九日迄三月末迄六月十九日迄

一 原料小麦粉標準品位 (三原郡小麦ハ正味一石三十五貫五百ノモノ)

一 一箱ノ容量及容器寸法

製麵等級	小麦百貫ノ製粉割合		一箱ノ容量及容器寸法	
	揖保郡同業組合	三原郡同業組合	容量 斤	把數
一	六三〇	六三〇	一〇〇	一〇
二	七〇〇	六八〇	一〇〇	一〇
三	七五〇	六八〇	一〇〇	一〇
四	七六〇	七五〇	一〇〇	一〇
五	七六〇	七五〇	一〇〇	一〇
六	七六〇	七五〇	一〇〇	一〇
七	七六〇	七五〇	一〇〇	一〇

△其ノ他ニハ冷麥、乾蕎麥、マカロニノ類ヲ調査記入スルモノトス

第六一 乳肉製品及罐詰

(報告期翌年四月限)

大正何年

製造戸數 (年末現在)	乳製品							製造戸數 (年末現在)	數	量	價	額	一斤ニ付價格
	煉乳	バター (Butter.)	人造バター	△チース	△乳粉	△ヨーグルド	△ケフィール						
計													
其他													

第六一 乳肉製品及罐詰

三四五

第六二寒 天

三五〇

第六二

寒

天

(報告期其ノ年五月限)

自大正何年四月一箇年
至大正何年三月一箇年

製造 戸 數	職 工 (平均 一日 使用 數)		數	量	價	額	一貫ニ付價格
	男	女					
	計						
	細						
	寒						
	天						
	計						
備 考							

(注意)

一、製造戸數ハ其ノ季節ニ於テ就業シタル戸數ヲ記入スヘシ

△寒天ノ産地産額及原料

大正九年中本邦寒天製造家ハ二九九戸職工二、三〇六人産額二〇九、七八九貫價額一、四三五、八九一圓ニシテ其ノ順位ハ長野、大阪、京都、兵庫、山梨ノ順位ナリ、輸出向細寒天ハ全體ノ五

割三分ニシテ其ノ他ノ角寒天ハ主トシテ内地用トス、原料石花菜ノ大正九年産額ハ一、一九四、九四三貫此價格一、一〇、五一六圓ニシテ産額ノ多キハ静岡、神奈川、東京、長崎、三重、高知、千葉ノ諸府縣ナリ、原料品質ハ志摩産最上ナルモ生産減少セリ次ハ伊豆七島殊ニ神津島ヲ最良トシ紀伊産之ニ次ク其ノ他九州沿岸、臺灣、朝鮮、北海道産ノ順序ナリ、石花菜ノ集散ハ大阪市場ノ獨占スル所ニシテ大正十年中ノ平均並物値段ハ十貫參拾圓内外ナリ、石花菜ノ補助原料タル「エゴ草」ハ越佐近海、筑前、石見及青森近海ニ産シ能登近海産最優良ナリ價格ハ石花菜ヨリ三四割低價ナリ

△製造ノ概要

九月又ハ十月迄ニ買入レタル原料石花菜ヲ芝地又ハ簀上ニ撒布シ雨露ニ曝スコト一二週間ナリ之ヲ一番晒ト謂フ、次ニ之ヲ春ニ入レ清水ヲ加ヘテ搗クコト數百回ニシテ土砂ヲ流去シ蘆簾ニテ曝乾漂白ス、漂白シタルモノハ原料ニ對シ上品六割五分ヨリ下等品二割五分ニ減ス是レ附着セル砂石、石灰藻等ヲ減スルニ依ル、漂白シタル原料ハ嚴冬ニ至リ二十貫ニ對シ約九石ノ水ヲ入レ之ヲ煮沸セシメ漂白原料ヲ投入シ直ニ薪材ヲ去リテ放置スルコト十時間其ノ間時々攪拌清水一石二斗ヲ注キ再ヒ煮沸スルコト四十分之ヲ麻糞ニテ濾過シツ、長方形ノ箱ニ注キ凝固セシメ之ヲ所定ノ寸法ニ截リ簀ニ上セ戸外ニテ水結セシム、補助原料「エゴ草」ハ約二割内外ヲ限度トシテ混和スルトキハ粘力ヲ増スノ効アルモ多量ニ加ウルトキハ溶解容易ニシテ且ツ凝固シ難ク品質ヲ劣等ナラシム

△用途

支那及香港ニ仕向ケラルルモノハ角寒天ニシテ燕巢ニ代用シ貴重ナル食料品トナル、歐米諸國ニテハ製紙、織物ノ仕上糊料トナリ又ジャム及ゼリー(菓子)ノ原料トナル和蘭ニテハジン酒白

第六二寒 天

三五二

第六二 寒 天

三五二

耳義獨逸ニテハ麥酒ノ清澄用トシテ魚膠ノ補助トシテ多量ニ使用ス、其ノ他細菌又ハ微菌ノ培養素トナリ或ハゼラチン、ペーバニ酷似セル寒天紙トシテ飴菓子類ノ外包トシ其ノ儘食スルノ便ヲ圖リ又ハ飛行機羽翼ノ塗料ニ用キラル

△價格

寒天品質ノ良否ト産額ノ多少トハ氣候ノ寒暖雨量ノ多少ニ依リ至大ノ影響ヲ及ホシ隨テ價格ノ變動甚シキモノアリ最近數年間ノ百斤當價格左ノ如シ

年	歐 米 向			支 那 向		
	特等品	一等品	二等品	特等品	一等品	二等品
大正五年	一三三	一七二	一三二	一七二	一一一	一〇一
同 六年	一〇七	一〇三	九七	一一二	一〇七	九〇
同 七年	一八〇	一五五	一七〇	一七五	一五七	九〇
同 八年	一七〇	一五五	一七〇	一七五	一五七	九〇
同 九年	一三〇	一三〇	一五〇	一四〇	一三〇	一三〇
同 一〇年	一五〇	一四〇	一五〇	一四〇	一三〇	一三〇

第六三 木 製 品

(報告期翌年四月限)

大 正 何 年

備考	計	木 箸	桶 椀類	箱 類	指 物	曲 物	挽 物	履 物(素地)	製造戸數(年末現在)		價 額
									男	女	

△記入區別

挽 物 — 盆、茶卓、菓子器等ノ糖轆細工
曲 物 — 篩ノ枠ノ如キ類ノ製品

第六三 木 製 品

三五三

第六三 木製品

三五四

指物 戸障子、簾筒、長櫃、火鉢等普通指物大工ノ製作ニ係ル家具類但器具ハ含マズ
箱類 外箱、折箱、支那鞆用箱等ヲ含ム
桶、樽類 竹、金屬其他ニテ輪締シ桶樽ト名付クルモノ及飯櫃、盥等ヲ含ム
其他 桑細工類、呑口、洋傘木柄、洋杖、杓子、西洋家具等

△履物素地トハ下駄ノ形ニ木取シタルタケノ素地ヲ謂ヒ孔ヲ穿チ削ル等仕上ノ工程ニ至ラサルモノ
ヲ謂フ、故ニ木取リシタル後緒ヲ附スレハ使用シ得ル程度ノモノハ素地中ニ含マス
△箱類ハ主トシテ包装用ノモノナリ粗製ナル汽車辨當箱其他折箱ヲモ含ム
△木製玩具ハ第七二表ニ於テ調査シ本表ニ計上セス
△漆器ノ素地ハ專業ノモノハ之ヲ調査スヘシ
△木箸ハ素地ノモノ、ミヲ調査スヘシ
△様式ニハ其ノ他ノ記載ヲ要スル規定ナキモ市町村ニ於テハ該當ノ事實ハ調査シ置クヘシ
△一戸ニテ本表ノ各種類ヲ製造スル場合ハ一戸トシテ調査スヘシ
△農家等ニ於テ職人ヲ傭ヒ自家用ノ桶樽類ヲ製造セシメタル場合ノ調査ハ製造戸數及職工ハ職工所
在ノ市町村ニ於テシ産額ハ産額ノアリシ町村ニ於テ計上スルモノトス

第六四 竹製品

(報告期翌年四月限)

大正何年

備考	計	バスケット	行李	簾	狐	籠	職工(平均一日使用數)			製造戸數(年末現在)	數量	價額
							計	女	男			

第六四 竹製品

三五五

第六四 竹製品

三五六

△本表ハ本省指定ノ種目ノミ調査スヘキモノナリ

△籠、簾ハ市町村ニ於テハ輸出ヲ其ノ他ト區別調査シ置クトキハ多大ノ参考トナルヘシ

△竹鞆、戸棚、椅子、卓子類、竹杖、玩具、竹櫛、篋具、箕、洋傘柄、和傘柄、竹帚、竹軸、輸出向
仕上ケタル竹材、内地向仕上ケタル竹材等モ産額ノ狀況ニ應シ可成細別調査シ置クト緊要ナリ

第六五 籐製品

(報告期翌年四月限)

大正何年

備考	計	バスケット	卓子及椅子類	敷物	履物表	價	額	職工 (平均一日 使用数)			製 造 年 末 現 任 数	
								計	女	男		

△籐ト杞柳ト竹製品トヲ併セ製造スル場合戸敷職工ハ各表別々ニ調査記入シ重複スルモ差支ナシ

第六五 籐製品

三五七

第六六 杞柳製品

三六〇

杞柳製品ノ重ナルモノハ柳行李ニシテ杞柳ノ枝ニテ編ミ造レルモノナリ杞柳ノ枝ノ皮ヲ剥キテ白ク光レルヲ原料トシ、麻絲ニテ編ミテ筒ニ作り、割竹ノ皮ヲ去リテ白、赤、黒色ニ染メタルヲ縁ニ付ケ、全體又ハ所々ヲ藤ニテ緊メククル、之ニ總卷、角卷、八方卷、六角卷等ノ名アリ、近年ハ行李ノ角々ニ革又ハゴツクヲ縫ヒ被セ又ハ縁ニ鐵板ヲ用ヒ持久ニ堪フルヤウ作レリ製品ハ行李旅行用靴、辨當行李、バスケット、ヲ主トシ其ノ他防火用手桶、牛馬飼料容器等トス、今普通ナル製品ノ種類ヲ舉クルニ左ノ如キ多種類トナル、然ルニ本表ノ如ク總生産額ヲ箇數ニテ計算スルハ其ノ當ヲ得サルガ如キ感ナキ能ハス

品名	長	幅	深	品名	長	幅	深
大々馬	二八〇	一八〇	〇八〇	靴三番	二〇〇	一七〇	〇五〇
大馬	二六〇	一六〇	〇七〇	靴四番	一八〇	一五〇	〇四七
長尺	二四〇	一四〇	〇七〇	靴五番	一六〇	一三〇	〇四四
大荷	二〇〇	一三〇	〇七〇	深上下	二〇〇	一四〇	〇三三
尺荷	一七〇	一三〇	〇六四	兩掛二番	一七五	一三五	〇二六
七寸一番	一七五	一二〇	〇五〇	大掛	一三〇	一〇〇	〇二五
七寸二番	一五〇	一〇五	〇四六	袷袷大	一〇〇	〇七六	〇二三
七寸三番	一三五	〇八八	〇四二	紙文庫	一四〇	一三五	〇三三
七寸四番	一〇〇	〇七〇	〇三六	永張	一一〇	〇九〇	〇三〇
靴一番	二四〇	一六〇	〇五八				
靴二番	二二〇	一四〇	〇五四				

其ノ他種類左ノ如シ

柳バスケット 大正形三ツ入子、冠セ蓋三ツ入子、丸形編三ツ入子
婦人持ニツ入子

辨當行李 一、いびつ(大小)、七寸飯行李、半飯、九飯、五分飯、七寸切上飯
切上五ツ永飯、角薄飯三ツ入子、陳飯、丸弗入ニツ入子等

(甲) 柳行李(各一組ニ付)概價 (大正十一年五年大阪市順慶町四丁目進藤支店商況)

大々馬	四九〇	半	飯	〇三	二尺四寸四ツ入子	三三〇
同別上	五四〇	陳	飯	〇三	同別上	二五〇
大馬	四〇〇	旅行靴			輸出向	
同別上	四五〇	二尺三ツ入			尺八三ツ入子	六五〇
永尺	三三〇	同別上			二尺三ツ入子	七五〇
同別上	三七五	二尺二寸三ツ入子			二尺四寸三ツ入子	九五〇
大荷放	二七五	同別上			附角ズツク	一五
同別上	三二五	二尺二寸四ツ入子			綿ズツク	二〇
荷入子	五三〇	同別上			同皮付	五五
同別上	六二〇	同別上			同別上	五五

(乙) 柳バスケット(各一箇ニ付)

大正形三ツ入子	三七五	丸形編三ツ入子	七五〇
同別上	四二〇	婦人持ニツ入子	八五〇
冠セ蓋三ツ入子	五二〇	同別上	九〇〇
同別上	五六〇		

第六六 杞柳製品

三六一

第六六 杞柳製品

三六二

原料杞柳ハ大葉、中葉、細葉ノ別アリ大葉劣等ニシテ細葉ハ品質優良ナルモ收量少ナク、中葉ハ品質稍劣ルモ收量多ク浸水ニ堪ユルヲ以テ廣ク栽培セラル、挿枝後四五年ニシテ普通ノ收量ニ達シ約二十年間相當ノ收量アリ、大抵春夏二回ニ枝ヲ刈リ取ル、春芽ハ三月中旬ヨリ下旬、夏芽ハ八月上旬ヨリ中旬ニ至リ刈取ル刈取リタル枝ハ春芽ハ刈取リ後直ニ水田二三寸ノ深サニ挿シ置キ、本ニ白根ヲ生シ梢ニ新芽ニ三分出ツルヲ待チテ抜取リ其ノ皮ヲ剥ク
夏芽ハ午後ニ刈取リ流水ニ浸シ置キ翌朝其ノ皮ヲ剥ク、既ニ剥皮シタル枝ハ清水ニテ洗滌シ、澁氣、汚物ヲ去リ、日光ニ曝シ乾燥セシム、俗ニ之ヲ白芽ト云ヒ、現今大抵漂白シテ用ユ。白芽ハ左記標準ニ照ラシ優劣ヲ定ム

- (一) 枝ノ生育良好ニシテヨク伸長セルコト
- (二) 各枝ハ大サ本末殆ト齊一ナルコト
- (三) 刈取期ノ早晚ニ失セス枝ノ成熟宜シキコト
- (四) 枝ノ髓部少ク弾力性ニ富ミ光澤ヨキコト
- (五) 横枝摘去ノ痕跡其ノ他電害病蟲害等ノ傷痕ヲ留メサルコト
- (六) 漂白宜シキヲ得タルコト
- (七) 全體ノ枝ノ品質齊一ナルコト

第六七

刷子及刷毛

(報告期翌年四月限)

大正何年

備考	計	其 ノ 他	糊 附 用	理 髮 用	齒 磨 用	職 工 (平均一日 使用數)		數	量	價	額	一打ニ付價格
						男	女					
						計						

△其ノ他ニハ靴磨用、羅紗刷毛、掃除用、化粧用等ヲ含ム

第六七 刷子及刷毛

三六三

第六八 疊表、莫產、花蕊及野草蕊

三六四

第六八 疊表、莫產、花蕊及野草蕊		(報告期翌年四月限)		大正何年	
製 造 戶 數 (年 末 現 在)	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	製 造 戶 數	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	莫座、花蕊及野草蕊	
				男	女
製 造 戶 數 (年 末 現 在)	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	製 造 戶 數	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	數	價
製 造 戶 數 (年 末 現 在)	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	製 造 戶 數	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	備 後	價
製 造 戶 數 (年 末 現 在)	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	製 造 戶 數	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	琉 球	價
製 造 戶 數 (年 末 現 在)	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	製 造 戶 數	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	計	價
製 造 戶 數 (年 末 現 在)	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	製 造 戶 數	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	四十碼物	價
製 造 戶 數 (年 末 現 在)	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	製 造 戶 數	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	△本間莫產	價
製 造 戶 數 (年 末 現 在)	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	製 造 戶 數	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	△並莫產	價
製 造 戶 數 (年 末 現 在)	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	製 造 戶 數	職 工 (平 均 一 日 使 用 數)	其他	價

備 考	野 草 蕊	計

(注意)

- 一、疊表、莫座、花蕊及野草蕊ヲ併セ製造スルモノハ製造戶數及職工ハ主ナル一方ニ記入スヘシ
 - 二、疊表ハ丸蘭(備後蘭又ハ單ニ蘭ト謂フ)若ハ三角蘭(芒苡又ハ七島蘭ト謂フ)ヲ以テ製織スルモノニ限リ調査スヘシ
 - 三、備後表ハ其ノ名稱ノ何タルヲ問ハス丸蘭ヲ以テ製織セル總テノ疊表ヲ記入スヘシ
 - 四、琉球表ハ其ノ名稱ノ何タルヲ問ハス三角蘭ヲ裂キ其ノ心ヲ去リ製織セル總テノ疊表ヲ記入スヘシ
- △本表製品ハ形狀大小ノ如何ニ係ハラズ總テ一枚トシテ計算スヘシ
- △莫座及花蕊中ニ記入スヘキモノ、區分
- 一 四十碼物 輸出向四十碼物(一碼三尺餘ナルヲ以テ四十碼物一本ハ百二十尺餘)
 - 一 本間莫座 幅三尺一寸五分、長六尺三寸モノ、一京間莫座ト謂フ
 - 一 並莫座 幅二尺九寸、長五尺八寸モノ
 - 一 其ノ他
 - 一 輸出向花蕊幅三尺長四十碼未滿ノモノ
 - 二 廣幅物
 - 二 内地向花蕊幅三尺長六尺モノ

第六八 疊表、莫產、花蕊及野草蕊

三六五

備考

(注意)

一、本表ハ自家用ヲ除ク

△自家生産ノ米、麥等ヲ賣却セシカ爲メ包装用トシテ製造シタル以俵ノ如キハ自家用ト見ルヘキ

ヤトノ間ニ對スル答ハ賣却ノ目的ノモノハ調査スヘシトアリ

△葉ハ用途ニ依リ包装葉、以葉、敷物用葉等ノ別アリ市町村ニ於テハ細別調査シ置クヘシ

△皆川葉トハ葉ヲ麻絲又ハ木綿ノ絲ニテ織リタルモノナリ

△其ノ他ニハ長崎縣ノ實子葉製下駄、日雪駄表及草履表、蓑等、石灰運搬用ノ卷、葉製苫及蓑菰

草履、草鞋、塚等ヲ計上スルモノトス但葉製ノ蓑網ヲ含マズ

△製品ノ種類ト價格

葉製品中齊シク葉以ノ名稱ヲ有スルモノト雖其ノ種類極メテ多ク其ノ用途價格亦一樣ナラサル

ヲ以テ調査ノ際能ク其ノ差別ニ留意シ誤調ナキヲ期スルコト緊要ナリ左ニ加西郡葉以同業組合

ノ製品名稱並淡路塚等ノ種類別寸法ヲ記載シ參考ニ供ス

加西郡葉以種類

五斗入用葉	疊裏用葉	天草葉	紡績用葉
四斗入用葉	鹽漬用葉		
三斗入用葉			
農家用葉			

肥用葉料	十九目物			巾廣	其他用葉	食鹽八十斤入用葉
	十八目物	十七目物	十六目物			
入用葉	荷造用			大長	重量	同
	十五目物	十六目物	十七目物			
	薄手	保連	製用			
	礦石入用葉					

塚等寸法(淡路塚等同業組合)

一	二	四	一
合	合	合	升
苞	苞	苞	苞
五	五	五	五
			長
			幅
			一
			括ノ枚數
			一
			九ノ括數
			三
			三
			四
			三
			八

第七一 麥稈、經木及麻真田

三七二

備考	計	マニラ麻真田	麥稈經木交真田	經木真田	麥稈真田	職工 (平均一日 使用數)			製 (年未 現在) 數
						計	女	男	
									一束ニ付價格

(注意)

第七一 麥稈、經木及麻真田

(報告期翌年四月限)

太 正 何 年

一、各種真田ノ一束ハ六十碼ニシテ一碼ハ三尺一分一厘ヲ以テ計算スヘシ
 △生徒カ學業ノ餘暇ニ於テ又ハ老幼婦女カ家業ノ閑暇ニ於テ他ヨリ原料ノ供給ヲ受ケテ賃編ヲ爲
 ス場合ノ如キハ其戸數及人員ヲ調査スルニ及ハス但シ専ラ之ニ從事シ賃業者ト見做スヘキ者ニ
 在リテハ其ノ戸數及職工ヲ調査スヘシ
 右ノ場合製品ノ數量價額ハ原料供給者所屬町村ニ於テ調査記入シ原料供給者ハ製造戸數欄ニ一
 戸トシテ計算スヘシ
 △帽子製造業者カ自家用製帽材料トシテ自家ニ於テ真田ヲ生産シタル場合ハ帽子製造ノ一工程ト
 看做シ調査ニ及ハス

第七一 麥稈、經木及麻真田

三七三

第七二 各種工産物

(注意)

三七六

一、ドローイングウオーク(絲拔細工)ハ白地ノ麻布又ハ綿麻交織物ノ絲ヲ拔取り之ニ縫取りヲ施シタルモノニシテ卓子掛、皿敷、椅子掛等ニ用キルモノヲ謂ヒ「パテンレース」ハ白地ノ麻布又ハ綿絲交織物ノ表面ニ適當ノ意匠ニ依リテ特殊ノ「レース」紐ヲ縫付ケタルモノニテ卓子掛、皿敷、椅子掛ニ用キルモノヲ謂フ

△製造戸數ハ種目毎ニ調査ヲ要ス
△紙器トハ洋服箱、化粧品箱等ニシテ全部又ハ大部分紙ヲ以テ製シタルモノヲ謂フト本省ノ回答アリ然ルニハ紙ヲ一定ノ型ニ壓搾シタルモノヲ紙器トシ洋服函ノ類ハ紙函トシテ調査スルヲ可ナリトスル説アリ要ハ之ヲ合計シ備考ニ附記シ置クヘシ

△本表ノ足袋ハ莫大小製ヲ含マス
△鐵製鍋釜及鐵瓶類中ニハ珐瑯鐵器ヲ含ム
△玩具ハ陶磁器製ノ外硝子製、木製、セルロイド製其ノ他凡テ調査スヘシ戸數職工モ各々掲上スヘシ

△木通蔓製品價格(大正十一年五月大阪市順慶町四丁目進藤支店商況)

矢ノ羽三ツ入子	五八〇	同 別 上	四五〇	富貴靴	七寸三ツ入子	九	同手付三ツ入子	三
同 別 上	六三〇	富士三ツ入子	四六〇		九寸三ツ入子	一六	手拭籠三ツ入子	三〇
畝編胴張三入子	六〇〇	同 別 上	四九〇		尺三ツ入子	一五	壘籠丸一本立	二
同 別 上	六八〇	同 四 號	五		石鹼籠三ツ入子	三	同 別 上	二五
畝編長角三入子	四〇〇						同 角形二本立	三〇

△棕栢製品ハ繩(貫)笠根緒(箇)鼻緒(足)其他ニ區分シ調査スルヲ要ス
△及物類ニハ鉄、錐、鋸ノ如キモ包含ス
△工業用藥品用途

沃 度	寫眞、分析、醫藥	硫酸曹達	(硝酸ナトリ)硝子、染色
沃度加里	工業及醫藥	炭酸曹達	硝子、染色、洗濯
鹽化加里	鹽酸加里、硝石、加里鹽	苛性曹達	石鹼、製紙、石油精製
硫 酸	肥料、セルロイド、明礬、火藥、石油精製	鹽酸加里	燐寸、爆藥、醫藥
鹽 酸	染色、漂白粉製造、醫藥、試藥	明 礬	染色、醫藥、濾水
硝 酸	火藥、セルロイド、染色	礬 土	同
硫酸安母尼亞	肥料	晒 粉	漂白
醋 酸	染色、食酢、醋酸鹽	木 精	假漆、フオルマリン用
アセトン	無鹽火藥、沃度ホルン		

△本表及前掲様式ニ規定ナキ工産物ニ關スル統計材料ハ本省ニ於テハ主トシテ工場統計報告ニ依リ之ヲ蒐集セラル、方針ノ如シト雖地方ニ於テハ工場統計報告ニ屬セサル副業的生産品ニシテ相當ノ價額ヲ有スルモノ尠カラザルヲ以テ自縣内又ハ自市町村ニ於テ生産スルモノハ様式ノ有無ニ拘ラス之ヲ調査シ置クヲ要ス今其ノ必ス調査ヲ要スヘキ重ナル品目ヲ左ニ列記ス
附言某縣某郡ニ於テ郡勢要覽ヲ編纂シ之ヲ郡内各町村並郡會議員等ニ配付シタルニ工産物中偶清酒釀造高ヲ記載セサリシ爲郡會ノ席上ニ於テ一議員ヨリ其ノ杜撰ヲ詰リ郡當局者ヲシテ其ノ答辯ニ苦シマシメタルカ如キ事例アルヲ以テ調査製表ノ任ニ當ル者ハ常ニ注意シテ遺漏杜撰ナキヲ要ス

第七二 各種工産物

三七七

